BUFFALO™

無線LAN親機

WZR-1750DHP2 / WZR-1166DHP2

エアステーション設定ガイド

buffalo.jp

35020347-03
2015.03

目次

第1章　はじめに.....8

操作方法について.....8

電波に関する注意.....8

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意 .9

動作環境.....10

各種ソフトウェアのご紹介.....11

エアステーション設定ツール（Windows/Mac OS用）.....11

デバイスサーバー設定ツール（Windows/Mac OS用）.....12

第2章　本製品の設定画面.....13

かんたん設定と詳細設定について.....13

エアステーション設定ツールのインストール.....14

設定画面を表示する.....14

Windows 8.1/8/7/Vista/XPをお使いの場合.....14

Mac OSをお使いの場合.....17

モバイル用機器をお使いの場合.....19

かんたん設定画面.....20

トップ画面.....20

無線LAN（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）.....21

中継機モニター（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）
（WZR-1750DHP2のみ）.....22

AOSS/WPS.....23

USBストレージ.....23

ゲストポート（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）.....24

アドバンスドQoS（ルーター動作時のみ）.....24

有害サイトブロック（ルーター動作時のみ）.....25
デバイスコントロール（ルーター動作時のみ）.....25
詳細設定画面.....26
Internet.....26
PPPoE.....27
DDNS.....29
PPTP.....30
アドレス変換.....31
LAN.....32
DHCPリース.....33
経路情報.....33
2.4 GHz（11n/g/b）.....35
5 GHz（11ac/n/a）.....38
WPS.....41
AOSS.....42
MACアクセス制限.....43
マルチキャスト制御.....44
ゲストポート.....44
中継機モニター（WZR-1750DHP2のみ）.....45
中継機能（WB）.....47
ファイアウォール.....48
IPフィルター.....49
VPNパススルー.....49
ポート変換.....50
DMZ.....51
UPnP.....51
有害サイトブロック.....52
アクセスコントロール.....54
ディスク管理.....54
共有サービス.....56

Webアクセス.....57
メディアサーバー.....58
BitTorrent.....58
アドバンスドQoS.....59
スケジュール.....60
プリントサーバー.....61
システム設定.....62
ログ.....63
設定管理/再起動.....64
ファームウェア更新.....65
システム.....66
ログ.....67
通信パケット.....68
診断.....68

第3章　本製品の各種設定.....69

USBハードディスク/フラッシュをNASとして使用する方法....69
USBハードディスク/フラッシュの接続と共有フォルダーへの
アクセス方法.....69
USBハードディスク/フラッシュの節電設定.....70
USBハードディスク/フラッシュの取り外しかた.....71
USBハードディスク/フラッシュのアクセス制限設定.....72
インターネット経由でUSBハードディスク/フラッシュに
アクセスする.....74
BitTorrentでファイルをダウンロードする.....76
共有フォルダーのコンテンツをネットワークメディアプレーヤーで
再生する.....78
USBハードディスク/フラッシュにアクセスできないときは.....79
USBハードディスク/フラッシュのフォーマット.....79
USBハードディスク/フラッシュ使用時の制限事項.....81

節電機能を使って節電する.....83
来訪者向け無線設定を行う（ゲストポート設定）.....85
来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合.....85
高度な設定を行う場合.....86
無線チャンネルを変更する.....87
AOSS接続を解除する.....88
他の無線機器から本製品を検索できなくする
（ANY接続拒否設定）.....89
アクセス可能な無線機器を制限する（MACアクセス制限）.....90
無線機器同士の通信を禁止する（プライバシーセパレーター）.92
本製品を中継機として使用する.....93
ご利用イメージ.....93
本体のボタンを押して設定する（AOSS、WPSプッシュボタン式）.....94
親機の暗号化キーを入力して設定する（手動設定）.....95
WPS（PINコード式）で設定する.....98
無線機器を追加する場合.....101
MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する..102
MACアクセス制限下での注意事項.....102
設定に必要な機器.....102
設定のながれ.....103
設定手順.....103
機器を追加する場合.....111
通信サービスの種類に応じて帯域幅を制御する
（アドバンスドQoS）.....112
インターネット有害サイトへのアクセスを制限する
（「i-フィルター」）.....114
インターネット有害サイトへのアクセスを制限する
（ConnectSafe）.....117

インターネットに接続できる時間を制限する
（アクセスコントロール）.....119
ポートを開放する.....121
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ
利用するポート番号が分かっている場合..... 121
利用するポート番号が不明な場合..... 123
本製品のIPアドレスを変更する.....124
Windows 8.1/8/7/Vista/XPをお使いの場合..... 124
Mac OSをお使いの場合..... 128
フレッツ回線向けの設定をする（PPPoEマルチセッション）...131
Bフレッツなどで固定IPサービスを利用する
（IP Unnumbered）.....134
ルーター機能を停止する.....137
本製品のファームウェアバージョンを確認する.....137

第4章 各種ソフトウェアの使いかた.....138
エアステーション設定ツールの使いかた.....138
デバイスサーバー設定ツールの使いかた.....138

第5章 PPTPサーバー機能.....139
PPTPサーバー機能とは.....139
外出先から接続するための準備をする.....140
外出先で使用する機器の設定をする.....142
Windows 8.1/8をお使いの場合..... 142
Windows 7/Vistaをお使いの場合..... 144
Windows XPをお使いの場合..... 148
Mac OSをお使いの場合..... 151
iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合..... 153

自宅や会社の端末を外出先から遠隔操作できるように設定する.156
Windows 8.1/8をお使いの場合 156
Windows 7/Vistaをお使いの場合 158
Windows XPをお使いの場合 159
Mac OSをお使いの場合 160
外出先から自宅や会社のネットワークに接続する 161
Windows 8.1/8をお使いの場合 161
Windows 7をお使いの場合 163
Windows Vistaをお使いの場合 164
Windows XPをお使いの場合 166
Mac OSをお使いの場合 167
iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合 169
外出先から自宅や会社の端末を遠隔操作する 170
Windows 8.1/8から遠隔操作する場合 170
Windows 7/Vista/XPから遠隔操作する場合 170
Mac OSから遠隔操作する場合 172
外出先から自宅や会社のファイルサーバーにアクセスする ..173
Windowsの場合..... 173
Mac OSの場合 173

第6章 困ったときは 175

インターネットにつながらない.....175
前面のBUFFALOランプが周期的に赤色に点滅している.....176
無線接続が切れる/不安定 176
無線でつながらない 177
AOSSで無線接続できない 178
設定画面が表示できない.....179
無線での通信が遅い 179

設定を出荷時の状態に戻したい.....180

第7章 付録 181

製品仕様.....181
WZR-1750DHP2 181
WZR-1166DHP2 183
端子仕様.....185
初期設定一覧 186
WZR-1750DHP2 186
WZR-1166DHP2 190
IPアドレスの固定方法.....195
Windows 8.1/8の場合 195
Windows 7の場合..... 196
Windows Vistaの場合 197
Windows XPの場合 198
Mac OSの場合..... 199
版権・免責事項 200

第1章　はじめに

操作方法について

本書では、パソコンでご利用になる場合を想定した操作方法を説明しています。タブレットをお使いの場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えるなどして、本書をご活用ください。

電波に関する注意

- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、工事設計認証を受けていますので、以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。
  - 本製品を分解/改造すること
  - 本製品の裏面に貼ってある証明レーベルをはがすこと
- IEEE802.11aのW52、W53は、電波法により屋外での使用が禁じられています。
- IEEE802.11b/g対応製品は、次の場所で使用しないでください。
  電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところ、2.4GHz付近の電波を使用しているものの近く（環境により電波が届かない場合があります。）
- IEEE802.11b/g対応製品の無線チャンネルは、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局

  (1)　構内無線局（免許を要する無線局）

  (2)　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
- IEEE802.11b/g対応製品を使用する場合、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
  - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
  - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、当社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数	2.4 GHz
変調方式	OFDM方式/DS-SS方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

- 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピューターウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。
本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティーの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティーに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティーに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティー問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティーに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティー設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用下さい。
セキュリティーの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、「BUFFALOサポートセンター」までお問い合わせ下さい。
当社では、お客様がセキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人　電子情報技術産業協会（JEITA）
「無線LANのセキュリティに関するガイドライン」より

動作環境

本製品の動作環境は次の通りです。

対応機器・対応OS

<無線親機本体との無線接続>

無線LAN機能に対応したパソコン、Mac、スマートフォン、タブレット端末、ゲーム機など

<無線親機の設定変更>

Internet Explorer 8.0以降を搭載したWindows 8.1※1/8※1/7※1/Vista※1/XPパソコン、
Safariを搭載したMac OS（10.5/10.6/10.7/10.8/10.9）、
iOS 5以降のiPod touch※2 / iPhone※2 / iPad※2、
Android 2.2以降のスマートフォン※2、タブレット端末※2

※1　64 ビットと32 ビットに対応しています。
※2　標準搭載のWebブラウザーを使った初期設定（インターネット接続設定）のみの対応となります。
本製品の詳細設定には対応しておりません。

<エアステーション設定ツール（当社ホームページよりダウンロード）>

Windows 8.1（64 ビット/32 ビット）、Windows 8（64 ビット/32 ビット）、
Windows 7（64 ビット/32 ビット）、Windows Vista（64 ビット/32 ビット）、Windows XP（32 ビット）、
Mac OS（10.4/10.5/10.6/10.7/10.8/10.9）

<デバイスサーバー設定ツール（当社ホームページよりダウンロード）>

Windows 8.1（64 ビット/32 ビット）、Windows 8（64 ビット/32 ビット）、
Windows 7（64 ビット/32 ビット）、Windows Vista（32 ビット）、Windows XP（32 ビット）
Mac OS（10.4/10.5/10.6/10.7/10.8/10.9/10.10）

各種ソフトウェアのご紹介

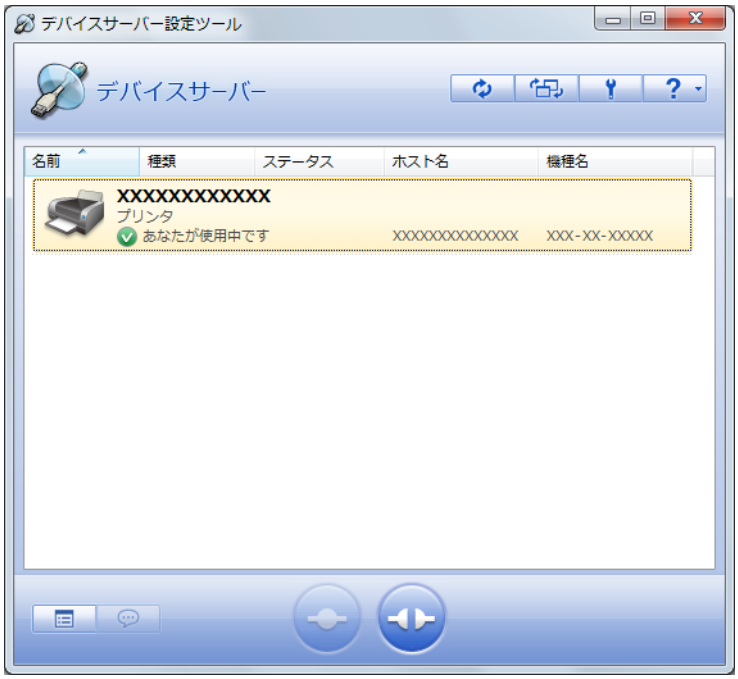
エアステーション設定ツール（Windows/Mac OS用）

エアステーション設定ツールは、本製品の設定画面をかんたんに表示するためのソフトウェアです。本製品とパソコンを接続して、エアステーション設定ツールを実行すると、本製品の設定画面を表示したり、本製品のIPアドレスを変更することができます。

メモ: 本書の手順で各種設定を行うには、エアステーション設定ツールが必要となります。

デバイスサーバー設定ツール（Windows/Mac OS用）

本製品のUSB端子につないだプリンターをネットワーク内の各パソコンから使用するためのソフトウェアです。



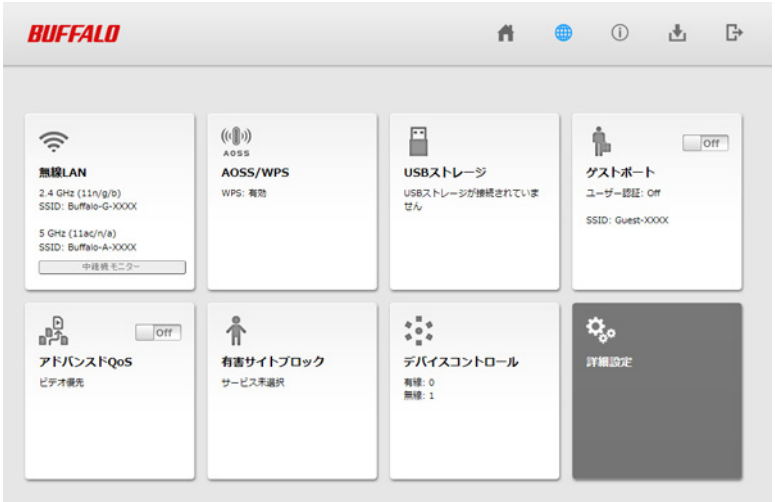
第2章　本製品の設定画面

本章では、本製品の設定画面について説明します。

かんたん設定と詳細設定について

本製品の設定画面は、各種設定や機器診断を行う画面です。本製品の設定を変更するときや状態を確認したいときに使用します。
設定画面は「かんたん設定」と「詳細設定」に分かれており、用途によって使い分けることができます。少ない操作で設定を済ませたい場合は「かんたん設定」を、より高度な設定を行いたい場合は「詳細設定」をご利用ください。

かんたん設定の画面（一例）



詳細設定画面（一例）

エアステーション設定ツールのインストール

以降の手順を行う前に、当社ホームページより「エアステーション設定ツール」をダウンロードしてください。Windowsをお使いの場合は、事前にインストールを行っておいてください。

メモ: 最新版のエアステーション設定ツールは、以下のホームページより入手できます。
WZR-1750DHP2　:　http://d.buffalo.jp/wzr-1750dhp2/
WZR-1166DHP2　:　http://d.buffalo.jp/wzr-1166dhp2/

設定画面を表示する

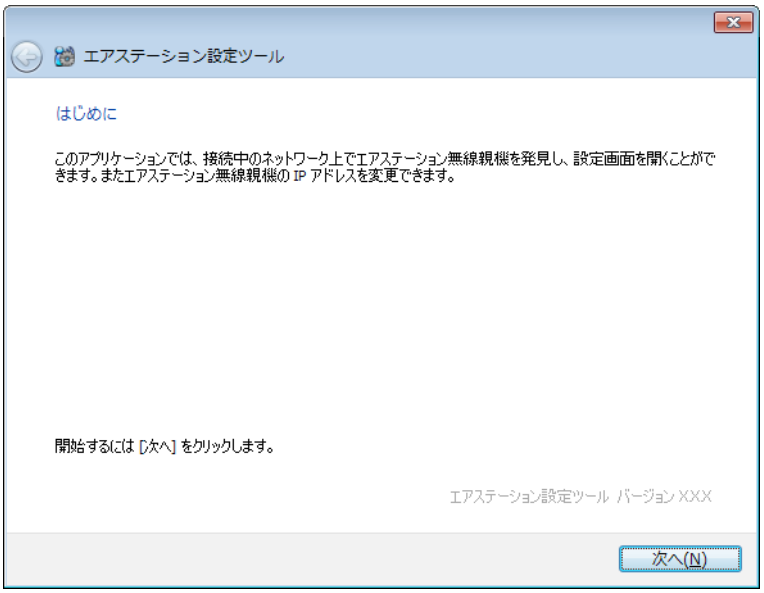
Windows 8.1/8/7/Vista/XPをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って、設定画面を表示します。

1 エアステーション設定ツールを起動します。

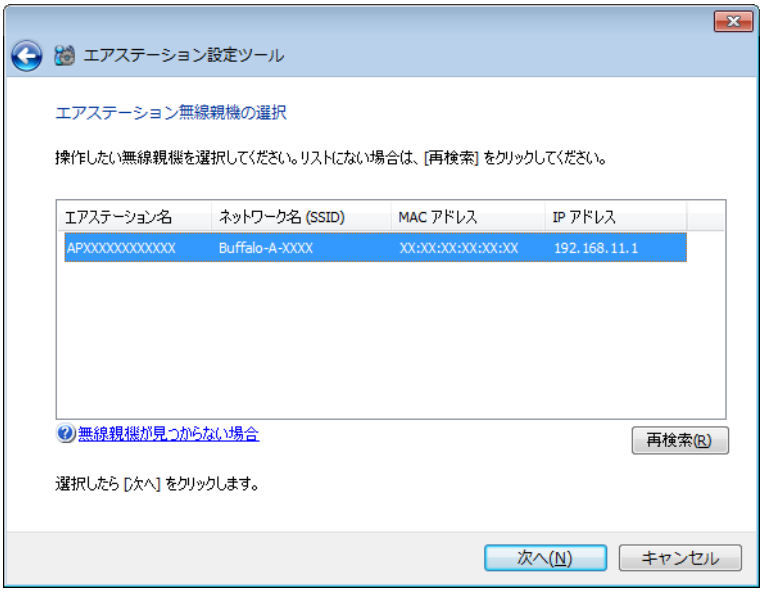
Windows 8.1/8の場合は、「スタート」画面にある［エアステーション設定ツール］を選択します。
Windows 7/Vista/XPの場合は、［スタート］－［すべてのプログラム］－［BUFFALO］－［エアステーションユーティリティ］－［エアステーション設定ツール］を選択します

2 ［次へ］をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプタが搭載されている場合、「２つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプタを取り外すか無効にしてから［再実行］をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

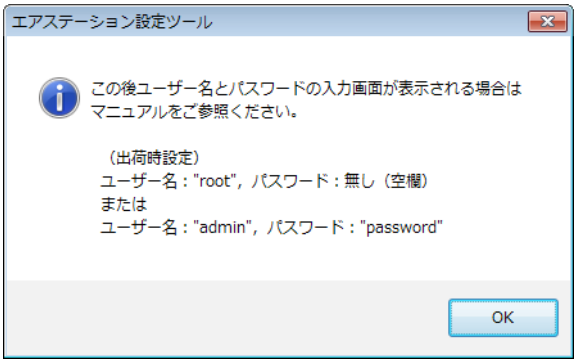


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

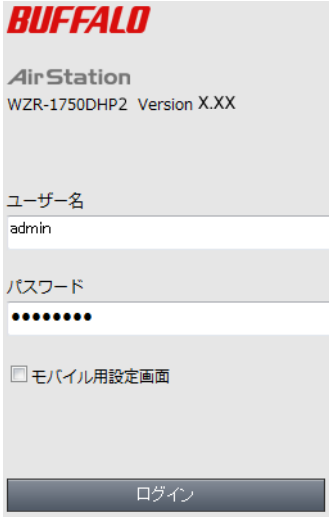
4 [設定画面を開く]をクリックします。

メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「このパソコンのIPアドレス設定」という画面が表示されます。
その場合は、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」を選択して[次へ]をクリックしてください。しばらくすると、本製品に新しいIPアドレスが設定され、手順6の画面が表示されます。

5 [OK]をクリックします。



6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に「password」を入力し、[ログイン]をクリックします。
（パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力します）



7 本製品の設定画面が表示されます。

メモ: 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。

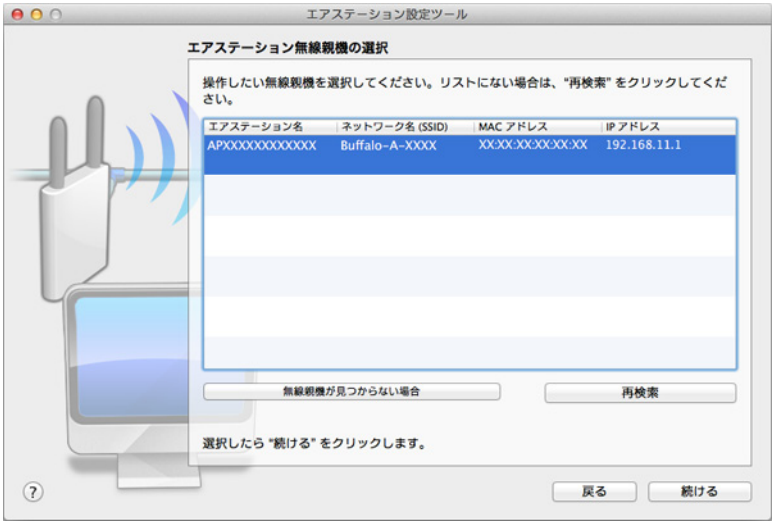
Mac OSをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って設定画面を表示します。
ここでは、Mac OS X 10.8の場合を例に説明します。

1 エアステーション設定ツールを実行します。

2 [続ける]をクリックします。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。

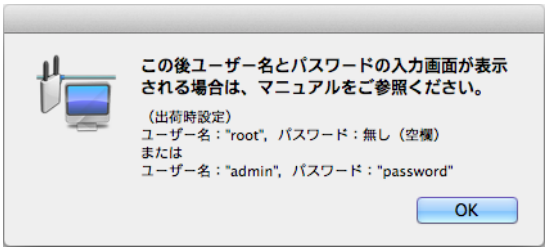


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 ［設定画面を開く］をクリックします。

メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「このMacのIPアドレス設定」という画面が表示されます。
その場合は、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」を選択して［次へ］をクリックしてください。しばらくすると、本製品に新しいIPアドレスが設定され、手順６の画面が表示されます。画面の指示に従ってIPアドレスを設定してください。

5 ［OK］をクリックします。



6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に「password」を入力し、［ログイン］をクリックします。
（パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力します）

7 本製品の設定画面が表示されます。

メモ: 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[終了]をクリックして、画面を閉じてください。

モバイル用機器をお使いの場合

モバイル用機器の場合は、ブラウザーのアドレス欄に本製品のLAN側IPアドレスを入力して、設定画面を表示します。

メモ:

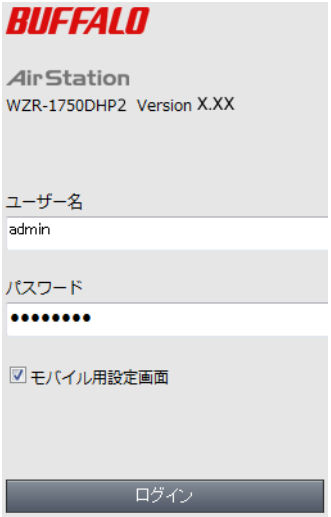
- 本製品のLAN側IPアドレスが分からない場合は、WindowsまたはMacでエアステーション設定ツールを使ってご確認ください。
- 出荷時のLAN側IPアドレスについては、本書の第 7 章を参照してください。

1 お使いの機器のブラウザーを起動します。

2 ブラウザーのアドレス欄に、本製品のLAN側IPアドレスを入力します。

3 「モバイル用設定画面」にチェックを入れ、ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に「password」を入力し、[ログイン]をクリックします。

（パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力します）

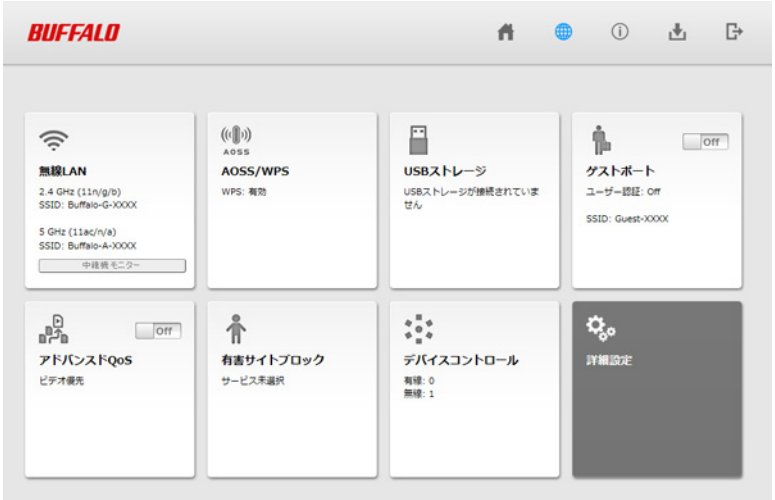


4 本製品の設定画面が表示されます。

かんたん設定画面

トップ画面

本製品の設定画面にログインした際、最初に表示される画面です。画面の内容は、本製品の動作モードによって異なります。ここでは、ルーターモード時の画面を例に説明します。



項目	内容
無線LAN	現在の無線LANの状態が表示されます。 パネルをクリックすると、無線LANの設定画面が表示されます。
中継機モニター （WZR-1750DHP2のみ）	中継機モニターに対応している中継機が本製品に接続されているときに使用することができます。本製品と中継機との電波強度を確認したり、通信が安定するよう速度を自動調整する「Smart ExRate」の設定を行うことができます。 対応している中継機の詳細は、当社ホームページをご確認ください。
AOSS/WPS	現在のAOSS/WPS設定の状態が表示されます。 パネルをクリックすると、本製品がAOSS2/AOSS/WPS待ち受け状態になります。
USBストレージ	本製品に接続されたUSBハードディスク/フラッシュの状態が表示されます。 パネルをクリックすると、USBハードディスク/フラッシュ設定の画面が表示されます。
ゲストポート	来訪者用の一時的な接続先（ゲストポート）の状態が表示されます。 パネル上部で、ゲストポート機能の有効/無効を切り替えられます。 パネルをクリックすると、ゲストポートの設定画面が表示されます。
アドバンスドQoS	無線通信において、特定の通信を優先させるアドバンスドQoSの状態が表示されます。 パネル上部でアドバンスドQoSの有効/無効を切り替えられます。 パネルをクリックすると、アドバンスドQoSの設定画面が表示されます。
有害サイトブロック	有害サイトへのアクセスを制限するサービスの状態が表示されます。 パネル上部でサービスの有効/無効を切り替えられます。 パネルをクリックすると、サービスの詳細設定画面が表示されます。
デバイスコントロール	ネットワークに接続されている機器の台数が表示されます。 パネルをクリックすると、各機器の状態を確認することができます。
詳細設定	パネルをクリックすると、詳細設定画面が表示されます。

無線LAN（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）

無線LANの基本設定を行う画面です。

項目	内容
2.4 GHz（11n/g/b） **5 GHz（11ac/n/a）**	無線の有効/無効を設定します。
SSID 1	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
暗号化モード	無線機器との接続の際の暗号化モードを以下から選択します。 **WPA2-PSK AES** WPA2（IEEE802.11i）に準拠した認証を行い、暗号化方式にAESを使用します。 **WPA-PSK AES** WPA（Wi-Fi Protected Access）に準拠した認証を行い、暗号化方式にAESを使用します。 **WPA/WPA2-mixed PSK TKIP+AES** WPA-PSKおよびWPA2-PSKのどちらの認証も同時に行い、暗号化方式にTKIPまたはAESを使用します。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴されますので暗号化なしでのご使用は避けてください。
暗号化キー	無線機器との認証で使用する暗号化キーを入力します。 文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。
チャンネル	無線で使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。手動でチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
帯域	無線で使用する帯域幅を設定します。帯域幅を大きくすると、通信速度の向上が見込めますが、周囲の電波状況が悪い場合は、効果が得られないことがあります。

中継機モニター（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）（WZR-1750DHP2のみ）

中継機モニターに対応している中継機と本製品間の電波強度を確認したり、「Smart ExRate」機能の設定を行う画面です。表示は、5秒ごとに自動更新されます。

メモ:

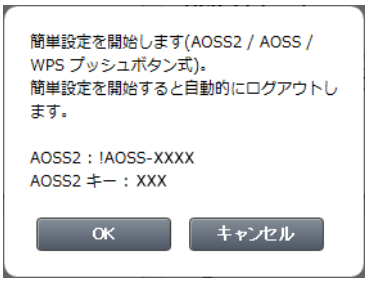
- 対応している中継機の詳細については、当社ホームページをご確認ください。
- 中継機に接続している中継機は表示されません。
- 本製品のSSID1に接続している中継機だけが表示されます。

項目	内容
電波強度	本製品と中継機との電波強度を4段階で表示します。中継機を電波の強い位置に設置することをおすすめします。 :非常に強い :強い :弱い :非常に弱い
中継機名称	表示されている中継機に名前をつけることができます。名前を入力して［設定］をクリックすると設定されます。 **メモ:** ここで設定する名前は、「デバイスコントロール」画面で表示される名前とは同期されません。
MACアドレス	中継機のMACアドレスを表示します。 **メモ:** 中継機の製品ラベルなどに記載されているMACアドレスとは異なる場合があります。
IPアドレス	中継機のIPアドレスを表示します。IPアドレスをクリックすると、中継機の設定画面を表示します。 **メモ:** • 中継機によっては、IPアドレスが表示できない場合があります。 • 本製品と中継機でIPアドレスのセグメントが異なる場合は、表示されているIPアドレスをクリックしても中継機の設定画面を表示することはできません。
リンクレート	本製品と中継機との通信速度を表示します。 :上り（中継機→本製品）の通信速度を表示します。 :下り（本製品→中継機）の通信速度を表示します。 **メモ:** 表示されている値は参考値です。ご使用の環境により、通信速度は変化します。

項目	内容
Smart ExRate	有効にすると、本製品と中継機間の通信が安定するように、無線の通信速度を自動で調整します。中継機を経由して動画のストリーミング再生などを行ったときに、頻繁にノイズが発生する場合などに有効にしてください。 **メモ:** • この機能は、本製品と中継機間の通信にのみ適用されます。 • 本製品に直接接続している端末との通信には適用されません。 • 中継機に接続している中継機には適用されません。 • 本製品と中継機間で接続している無線帯域を2.4 GHzから5 GHz、または5 GHzから2.4 GHzに変更すると、Smart ExRateの設定が変更される場合があります。 この機能を有効にすると、リンクレートが低く表示されることがあります。

AOSS/WPS

パネルをクリックした際に以下の画面が表示されます。[OK] をクリックすると、本製品がAOSS2/AOSS/WPS待ち受け状態になります。



USBストレージ

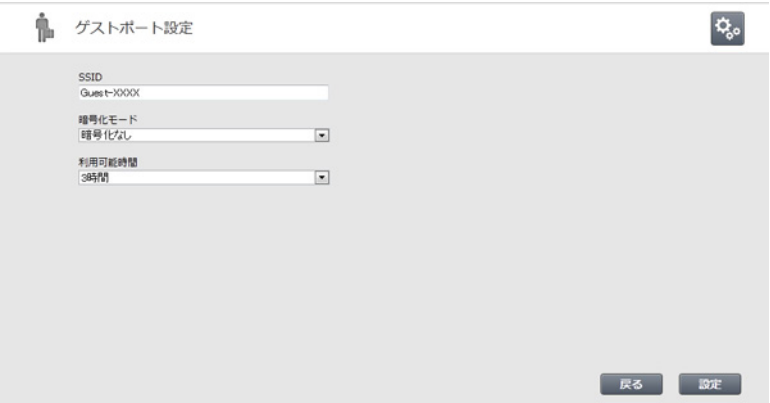
本製品に接続しているUSBハードディスク/フラッシュの設定を行う画面です。

項目	内容
USBストレージ	本製品に接続しているUSBハードディスク/フラッシュの名称が表示されます。
ファイル共有	共有フォルダー機能を使用するかどうかを設定します。
BitTorrent	BitTorrent機能を使用するかどうかを設定します。
メディアサーバー	メディアサーバー機能を使用するかどうかを設定します。
Webアクセス	Webアクセス機能を使用するかどうかを設定します。

項目	内容
BuffaloNAS.comネーム	BuffaloNAS.comサーバーへ登録する本製品のニックネームを半角3〜20文字までで入力します。半角英数字、「-」、「_」が入力可能です。
BuffaloNAS.com登録状態	「登録失敗」と表示される場合は、BuffaloNAS.comの設定を確認してください。
ログインユーザー名	Webアクセスの際のユーザー名を半角英数字および「-」「_」「.」で1〜20文字までで設定します。記号は先頭文字には入力不可です。
ログインパスワード	Webアクセスの際のパスワードを半角英数字および「-」「_」「.」で1〜20文字までで設定します。記号は先頭文字には入力不可です。

ゲストポート（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）

来訪者用の一時的な接続先（ゲストポート）の設定を行います。



項目	内容
SSID	来訪者用のSSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
暗号化モード	来訪者用の暗号化モードを設定します。
利用可能時間	来訪者がゲストポートを利用できる時間を設定します。

アドバンスドQoS（ルーター動作時のみ）

ネットワークの帯域をより効果的に利用するための設定（アドバンスドQoS）を行います。

項目	内容
使用する	アドバンスドQoSを使用するかどうかを設定します。
おもな用途	通信のおもな用途を選択します。 ネットワークの帯域は、ここで選択した項目に最適化されます。

項目	内容
トラフィックモニター	各カテゴリー別の通信状況を確認することができます。 :選択した用途における、各カテゴリーの優先度を表します。 :選択した用途における、アップ速度を表します。 :選択した用途における、ダウン速度を表します。

有害サイトブロック（ルーター動作時のみ）

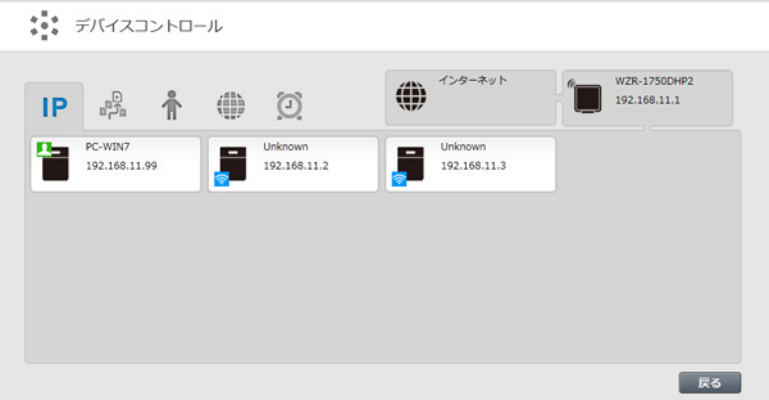
ホームページの表示を許可/ブロックする「i-フィルター」および「ConnectSafe」に関する設定を行う画面です。パネルをクリックすると、各サービスの詳細設定の画面が表示されます。

メモ:

- 「i-filter」および「ConnectSafe」は、同時に使用することはできません。
- どちらか一方のサービスを設定済みの場合は、使用中のサービスの画面が表示されます。

デバイスコントロール（ルーター動作時のみ）

ネットワークに接続されている機器の状態を確認する画面です。



項目	内容
IP	本製品に接続している各機器のIPアドレスが表示されます。
	本製品に接続している機器のアップ速度とダウン速度が表示されます。
	本製品に接続している機器が表示されます。 有害サイトブロック機能の対象外の機器がある場合は、その注釈が表示されます。

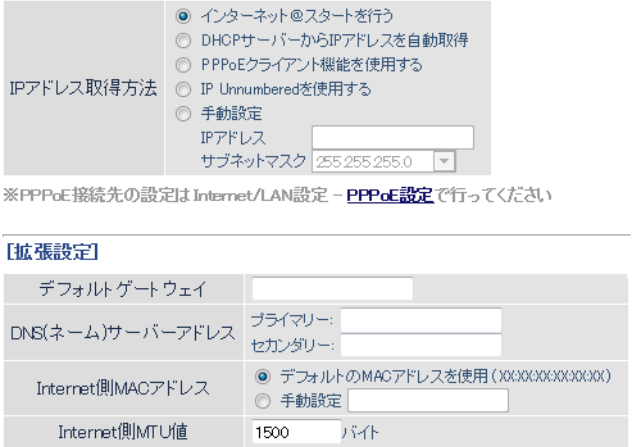
項目	内容
	本製品に接続している機器が表示されます。 アイコンがグレー表示でない場合は、アイコンをクリックすると、それぞれの機器の設定画面が表示されます。
	本製品に接続している機器が表示されます。 アイコンをクリックすると、それぞれの機器に対して、Wake On Lanパケットが送信されます。

詳細設定画面

Internet

Internet側ポートの設定を行う画面です。

---> Internet ー Internet（ルーター動作時のみ）



項目	内容
IPアドレス取得方法	Internet側のIPアドレスの取得方法を指定します。 **メモ:** Autoモードでは「インターネット@スタート」以外選択できません。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNS（ネーム）サーバーアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを指定します。
Internet側MACアドレス	Internet側インターフェースのMACアドレスを設定します。 **メモ:** 不適切なMACアドレスを設定すると、本製品だけでなく、ネットワーク上の他の機器も使用できなくなります。この設定は、お客様の責任において行ってください。
Internet側MTU値	Internet側インターフェース（Internetポート）で通信を行うときに使用するMTUを578～1500バイトの範囲で設定します。

PPPoE

PPPoEに関する設定を行う画面です。

---> Internet ー PPPoE（ルーター動作時のみ）

項目	内容
デフォルトの接続先	PPPoE接続先リストで複数の接続先を登録している場合、ここで選択した接続先が優先されます。デフォルト以外の接続先を用いるときは、PPPoEの接続先経路設定を別途行う必要があります。
IP Unnumbered使用時の接続先	IP Unnumbered使用時の接続先を、PPPoE接続先リストに登録されている接続先の中から選択します。
PPPoE接続先リスト	PPPoEの接続先の編集ができます。最大5セッションまで登録可能です。
接続先の編集	クリックすると、接続先の設定を編集する画面が表示されます。

項目	内容
PPPoE接続先リスト	［接続先の編集］をクリックすると表示されます。 **接続先名称** 接続先を識別するための名称を32文字までの半角英数字記号で入力します。 **接続先ユーザー名** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のユーザー名を64文字までの半角英数字記号で設定します。 **接続先パスワード** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のパスワードを64文字までの半角英数字記号で設定します。 **サービス名** プロバイダーからサービス名の指定がある場合のみ64文字までの半角英数字記号で設定します。 プロバイダーから指定されなければ、空欄のままにします。 **接続方法** 本製品がプロバイダーに接続するタイミングを指定します。 **自動切断** 接続方法が「オンデマンド接続」または「手動接続」のときに、通信が停止してから、回線の使用を停止するまでの時間を0～1440分の範囲で設定します。 **認証方法** プロバイダーとの認証方法を設定します。 **MTU値** PPPoE上で、通信を行うときに使用するMTU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 **MRU値** PPPoE上で通信を行うときに使用するMRU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 **キープアライブ** 有効にすると、本製品はPPPoEサーバーとの接続を維持するために、LCPエコーリクエストを１分に１度発行します。このとき、6分以上サーバーの応答がない場合は、回線が切断されたものと判断し、接続をいったん切断します。頻繁にPPPoE接続が切断される場合は、キープアライブに応答を返さないサーバーである可能性があるため、無効に設定してください。
接続先経路の表示	接続先経路を設定すると、設定した情報が表示されます。
接続先経路の編集	クリックすると、接続先経路を編集する画面が表示されます。
接続先経路の新規追加	［接続先経路の編集］をクリックすると表示されます。 **接続先** 「宛先アドレス」や「送信元アドレス」が一致する通信の場合にPPPoE接続を行う接続先です。PPPoE接続先リストに登録されている接続先から選択します。 **宛先アドレス** 通信の宛先アドレスです。このアドレス宛へ通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。 **送信元アドレス** 通信の送信元アドレスです。この送信元アドレスから通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。

DDNS

ダイナミックDNSに関する設定を行う画面です。

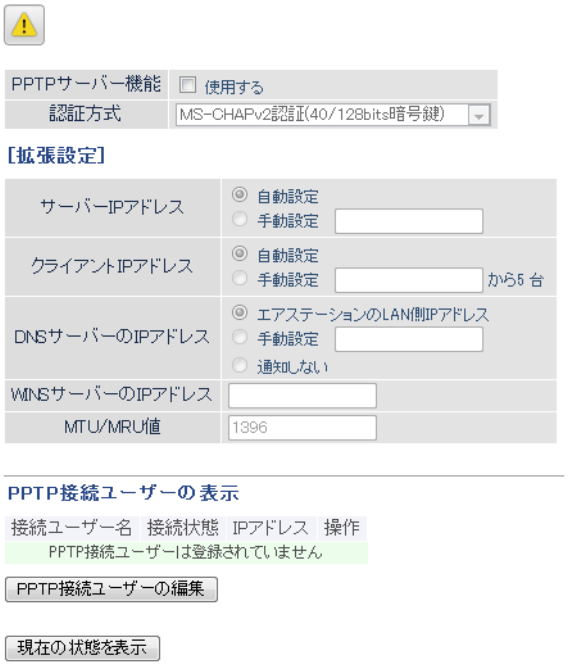
---> Internet ー DDNS（ルーター動作時のみ）

項目	内容
ダイナミックDNS機能	ダイナミックDNSサービスプロバイダーを「BUFFALOダイナミックDNS」、「DynDNS」、「TZO」から選択します。
登録/変更設定 （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	［登録/設定変更を行う］をクリックすると、バッファローサイトに接続します。画面上の手続きに従って、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録を行ってください。
登録ユーザーID （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	BUFFALOダイナミックDNSサービスに登録されているユーザーIDが表示されます。
登録情報の削除 （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	［登録情報を削除する］をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。
ユーザー名 （DynDNS選択時のみ）	DynDNSに登録したユーザー名を入力します。
パスワード （DynDNS選択時のみ）	DynDNSに登録したパスワードを入力します。
ホスト名 （DynDNS選択時のみ）	DynDNSに登録したホスト名を入力します。
Emailアドレス （TZO選択時のみ）	TZOに登録したEmailアドレスを入力します。
TZOキー （TZO選択時のみ）	TZOに登録したTZOキーを入力します。
ドメイン名 （TZO選択時のみ）	TZOに登録したドメイン名を入力します。
IPアドレス更新周期	DynDNSまたはTZOにIPアドレスを通知する周期を指定します。
Internet側IPアドレス	InternetポートのIPアドレスが表示されます。
ドメイン名	ダイナミックDNSサービスプロバイダーから割り当てられたドメイン名が表示されます。
状態	ダイナミックDNSサービスの状態が表示されます。

PPTP

PPTPサーバーに関する設定を行う画面です。

---> Internet ー PPTP（ルーター動作時のみ）



項目	内容
PPTPサーバー機能	PPTPサーバー機能を使用するかどうかを設定します。
認証方式	PPTPクライアントが接続してきた際に使用する認証方式を設定します。
サーバーIPアドレス	PPTPクライアントが接続した際、クライアントに通知するサーバー側のIPアドレスを設定します。
クライアントIPアドレス	PPTPクライアントが接続した際、クライアントに割り当てるIPアドレスの範囲を設定します。
DNSサーバーのIPアドレス	PPTPクライアントに通知するDNSサーバーアドレスを設定します。
WINSサーバーのIPアドレス	PPTPクライアントに通知するWINSサーバーアドレスを設定します。
MTU/MRU値	PPTP上で、通信を行う際に使用するMTU/MRU値を578～1500バイトの範囲で設定します。
[PPTP接続ユーザーの編集]	クリックすると、PPTP接続ユーザー情報を編集する画面が表示されます。
PPTP接続ユーザーの新規追加	[PPTP接続ユーザーの編集]をクリックすると表示されます。 **接続ユーザー名** PPTPクライアントから本商品に接続する際に使用するユーザー名を半角英数字、および「"」、「'」、「/」、スペースを除く半角記号を16文字までで入力します。 **パスワード** PPTPクライアントから本商品に接続する際に使用するパスワードを半角英数字、および「"」、「'」、「/」、スペースを除く半角記号を16文字までで入力します。 **IPアドレス割り当て方法** PPTPクライアントから本商品に接続した際に、PPTPクライアントに割り当てるIPアドレスの割り当て方法を指定します。

項目	内容
PPTP接続ユーザーの表示/操作	登録したPPTP接続ユーザー情報の確認と編集ができます。

アドレス変換

アドレス変換機能に関する設定を行う画面です。

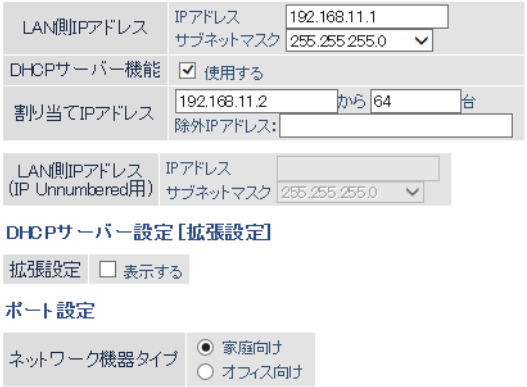
---> Internet － アドレス変換（ルーター動作時のみ）

項目	内容
アドレス変換	アドレス変換機能を使用するかどうかを設定します。

LAN

LAN側ポートの設定を行う画面です。

---> LAN ー LAN

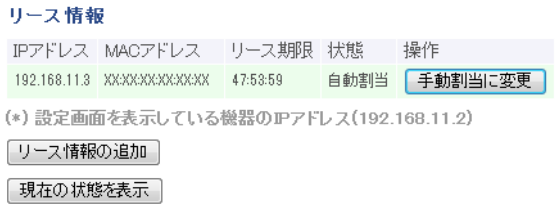


項目	内容
LAN側IPアドレス	LAN側IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
DHCPサーバー機能	DHCPサーバー(IPアドレス自動割り当て)機能を使用するかどうかを設定します。
割り当てIPアドレス	DHCPサーバー機能で割り当てるIPアドレスの範囲とその範囲から除外するIPアドレスを設定します。
LAN側IPアドレス(IP Unnumbered用)	IP Unnumberedを利用するときに使用するLAN側IPアドレスを設定します。 **メモ:** 通常のLAN側のIPアドレスを持つパソコンと、IP Unnumbered用のLAN側IPアドレスを持つパソコン間では通信を行うことができません。
拡張設定	「表示する」を選択すると、DHCPサーバーの拡張設定項目が表示されます。
リース期間	DHCPサーバー機能で割り当てたIPアドレスの有効期間を設定します。
デフォルトゲートウェイの通知	DHCPサーバー機能で通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するDNSサーバーのIPアドレスを設定します。
WINSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するWINSサーバーのIPアドレスを設定します。
ドメイン名の通知	DHCPサーバー機能で通知するドメイン名を設定します。
ネットワーク機器タイプ (WZR-1750DHP2のみ)	本製品に接続する機器に応じて設定を切り替えます。通常は「家庭向け」に設定してお使いください。コピー機や複合機などとの接続がうまくいかない場合は、「オフィス向け」に設定してください。

DHCPリース

DHCPリースに関する設定を行う画面です。

---> LAN ー DHCPリース（ルーター動作時のみ）

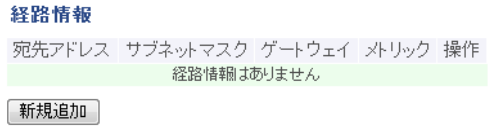


項目	内容
リース情報	現在のリース情報が表示されます。 自動リースされたIPアドレスは、[手動割当に変更]をクリックすると、手動リースに変更することができます。
[リース情報の追加]	クリックすると、リース情報の追加画面が表示されます。
リース情報の新規追加	[リース情報の追加]をクリックすると表示されます。 **IPアドレス** 手動リースするIPアドレスを入力します。本製品のLANポートのネットワークアドレスに含まれないIPアドレスを設定することはできません。 **MACアドレス** 機器を識別するMACアドレスを入力します。

経路情報

本製品が行う通信のIP経路の設定を行う画面です。

---> LAN ー 経路情報



項目	内容
宛先アドレス	ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
ゲートウェイ	ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを設定します。
メトリック	ルーティングテーブルに追加するメトリック（宛先アドレスまでに越えるルーター数）を設定します。
経路情報	手動で追加したルーティングテーブルを確認することができます。
[新規追加]	クリックすると、経路情報の追加画面が表示されます。

項目	内容
経路の新規追加	［新規追加］をクリックすると表示されます。 **宛先アドレス** ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを設定します。 **ゲートウェイ** ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを設定します。 **メトリック** ルーティングテーブルに追加するメトリック（宛先アドレスまでに越えるルーター数）を設定します

2.4 GHz（11n/g/b）

2.4 GHz（11n/g/b）の無線の基本的な設定を行う画面です。

---> 無線設定 － 2.4 GHz（11n/g/b）

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。手動でチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を40 MHzに設定して、拡張チャンネルを設定します。

項目	内容
ANY接続	チェックを外すと、無線機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 **SSID 2**	本製品のメインSSID（SSID 1）とサブSSID（SSID 2）を使用するかどうかを設定します。
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している無線機器はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	SSID 1の認証方式を以下から選択します。 **WPA/WPA2 mixedmode-PSK** 無線機器との接続の際にWPA-PSKおよびWPA2-PSKのどちらの無線機器の認証も同時に行う設定です。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA2-PSK** 無線機器との接続の際にWPA2（IEEE802.11i）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA-PSK** 無線機器との接続の際にWPA（Wi-Fi Protected Access）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **認証を行わない** 無線機器との接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	無線通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。 **TKIP/AES mixedmode** TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2 mixedmode-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **AES** 暗号化の方式にAES（強固な次世代暗号化方式）を使用します。事前共有キーを使用して無線LAN端末と通信します。 無線の認証で「WPA-PSK、WPA2-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。 SSID 1の無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。
WPA-PSK（事前共有キー）	無線機器との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
BSS BasicRateSet	本製品と無線LAN機器の制御通信フレームの通信速度の設定を行います。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
802.11nプロテクション	従来規格（11g/11b）の機器が混在している環境でも、コリジョン等によって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。

項目	内容
DTIM Period	無線機器に通知するビーコン応答間隔（1～10）の設定をします。無線機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	無線機器間の通信を許可するかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、同一の接続先に接続している無線機器同士の通信ができなくなります。 有線側からは、無線機器と通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。
WMM設定	本製品が行う通信で、特定の通信にのみ優先順位を付けたい場合に表示するをチェックします。
WMM-EDCA パラメーター	一般的な使い方では、この値を変更する必要はありません。出荷時設定のままお使いください。 **優先度** 優先度は、通信パケットごとに適用され、(Highest) 8 : (High) 4 : (Normal) 2 : (Low) 1 の割合で優先的に処理されます。 **CWmin**, **CWmax** コンテンション・ウィンドウの最大値・最小値です。コンテンション・ウィンドウはIEEE802.11で行うフレーム衝突回避機構で使用され、一般にウィンドウ内の値が小さくなるほど、そのキューが送信権を得る確率が高くなります。 **AIFSN** フレーム送信間隔です。単位はスロット(CWmin, CWmaxで定義されるウィンドウ値と同様)です。フレーム送信間隔が小さいほど、バックオフアルゴリズムの開始時間が早まるため、結果としてキューの優先度が高くなります。 **TXOP Limit** キューが送信権を得た場合に占有できる時間を示します。1単位は32msです。この時間が多いほど一度得た送信権でより多くのフレームを転送することができますが、反面キューのリアルタイム性を損なうことになります。TXOP Limitを0に設定した場合は、1回の送信権で1つのフレームのみ送信できます。 **Admission Control** キューに対して送信フレームの割り当て制限を行います。キューがある程度蓄積されると、新たに送信フレームが割り当てられるときに下位のキューを割り当てるようになります。

5 GHz（11ac/n/a）

5 GHz（11ac/n/a）の無線の基本的な設定を行う画面です。

---> 無線設定 － 5 GHz（11ac/n/a）

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。DFSに対応したチャンネルを選択した場合は、本製品が気象レーダー等を関知すると、自動的にチャンネルが変更されます。 「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を80 MHzに設定してください。

項目	内容
ANY接続	チェックを外すと、無線機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 **SSID 2**	本製品のメインSSID（SSID 1）とサブSSID（SSID 2）を使用するかどうかを設定します。
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している無線機器はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	SSID 1の認証方式を以下から選択します。 **WPA/WPA2 mixedmode-PSK** 無線機器との接続の際にWPA-PSKおよびWPA2-PSKのどちらの無線機器の認証も同時に行う設定です。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA2-PSK** 無線機器との接続の際にWPA2（IEEE802.11i）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA-PSK** 無線機器との接続の際にWPA（Wi-Fi Protected Access）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **認証を行わない** 無線機器との接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	無線通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。 **TKIP/AES mixedmode** TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2 mixedmode-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **AES** 暗号化の方式にAES（強固な次世代暗号化方式）を使用します。事前共有キーを使用して無線LAN端末と通信します。 無線の認証で「WPA-PSK、WPA2-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。 SSID 1の無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。
WPA-PSK（事前共有キー）	無線機器との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
BSS BasicRateSet	本製品と無線LAN機器の制御通信フレームの通信速度の設定を行います。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
802.11nプロテクション	従来規格（11g/11b）の機器が混在している環境でも、コリジョン等によって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。

項目	内容
DTIM Period	無線機器に通知するビーコン応答間隔（1～10）の設定をします。無線機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	無線機器間の通信を許可するかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、同一の接続先に接続している無線機器同士の通信ができなくなります。 有線側からは、無線機器と通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。
WMM設定	本製品が行う通信で、特定の通信にのみ優先順位を付けたい場合に表示するをチェックします。
WMM-EDCA パラメーター	一般的な使い方では、この値を変更する必要はありません。出荷時設定のままお使いください。 **優先度** 優先度は、通信パケットごとに適用され、(Highest) 8 : (High) 4 : (Normal) 2 : (Low) 1 の割合で優先的に処理されます。 **CWmin**, **CWmax** コンテンション・ウィンドウの最大値・最小値です。コンテンション・ウィンドウはIEEE802.11で行うフレーム衝突回避機構で使用され、一般にウィンドウ内の値が小さくなるほど、そのキューが送信権を得る確率が高くなります。 **AIFSN** フレーム送信間隔です。単位はスロット(CWmin, CWmaxで定義されるウィンドウ値と同様)です。フレーム送信間隔が小さいほど、バックオフアルゴリズムの開始時間が早まるため、結果としてキューの優先度が高くなります。 **TXOP Limit** キューが送信権を得た場合に占有できる時間を示します。1単位は32msです。この時間が多いほど一度得た送信権でより多くのフレームを転送することができますが、反面キューのリアルタイム性を損なうことになります。TXOP Limitを0に設定した場合は、1回の送信権で1つのフレームのみ送信できます。 **Admission Control** キューに対して送信フレームの割り当て制限を行います。キューがある程度蓄積されると、新たに送信フレームが割り当てられるときに下位のキューを割り当てるようになります。

WPS

WPSの詳細な設定や状況を確認する画面です。

---> 無線設定 ー WPS（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）

項目	内容
WPS機能	WPS機能を使用するかどうかを設定します。
外部Registrar	WPS機能を使用する際に、外部Registrarからのconfigure要求を受け付けるかどうかを設定します。 AOSS接続を行うと、外部Registrarの要求を受け付けなくなります。
エアステーション PINコード	本製品のPINコードが表示されます。[PIN生成]をクリックすると、新しいPINコードが生成されます。
EnrolleeのPINコード	無線機器のPINコードを入力して[OK]をクリックすると、本製品の内部Registrarが、そのPINコードを持つ無線機器からの接続要求を受け付ける状態になります。
WPS用無線セキュリティー設定	本製品のWPS状態と現在設定されているSSID、セキュリティー、暗号化キーが表示されます。

AOSS

AOSSの詳細な設定や状況を確認する画面です。

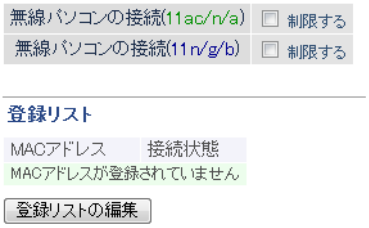
---> 無線設定 ー AOSS（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）

項目	内容
AOSS2キー	AOSS2を使って無線接続するために必要なAOSS2キーを変更することができます。 000～999までの3桁の数字で設定します。
AOSS状態	現在のAOSSの状態を表示します。AOSS有効時に、をクリックすると、AOSS接続が解除されます。 （その際、SSIDや暗号化キーもAOSSを使用する前の値に戻ります）
WEPをゲーム専用にする	設定を有効にすると、本製品にWEPで接続できる機器は、WEPのみをサポートした機器となり、WPA（またはWPA2）とWEPの両方に対応した機器は、WEPでは接続できなくなります。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外した場合は、本製品のAOSSボタンを押してもAOSS/AOSS2接続は実行されず、WPS接続のみが実行されます
AOSS接続先情報	本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器の情報が表示されます。 **接続先情報** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器の名称が表示されます。 **MACアドレス** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器のMACアドレスが表示されます。 **対応暗号化方式** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器の対応可能な暗号化の種類が表示されます。 **無線** 現在、接続している無線方式が表示されます。

MACアクセス制限

無線機器からのアクセスを制限する設定を行う画面です。

---> 無線設定 ー MACアクセス制限



項目	内容
無線パソコンの接続	無線機器からの接続を制限するかどうかを設定します。
登録リスト	MACアクセス制限で、接続を許可する無線機器のMACアドレスが表示されます。 MACアドレスの登録は、[登録リストの編集]をクリックして行います。 **MACアドレス** MACアクセス制限で接続を許可するMACアドレスの一覧が表示されます。 **接続状態** リストに登録した無線機器が、現在接続しているかどうかを表示します。接続中であれば「○」、未接続であれば「×」が表示されます。
登録リストの編集	登録したMACアドレスに対して、編集を行うことができます。 **MACアドレス** リストに登録した無線機器のMACアドレスが表示されます。 **操作** [修正]をクリックすると、登録したMACアドレスを修正できます。 [削除]をクリックすると、登録したMACアドレスが削除されます。
登録するMACアドレス	接続を許可する無線機器のMACアドレスを入力します。 [新規追加]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。
検出された無線パソコン一覧	本製品に接続している無線機器のMACアドレスをリストに登録することができます。 **MACアドレス** 本製品に接続している無線機器のMACアドレスが表示されます。 **操作** [登録]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。[現在の状態を表示]をクリックすると、現在の状態が表示されます。

マルチキャスト制御

無線LANポートに無駄なマルチキャストパケットが転送されないように制限する設定を行う画面です。

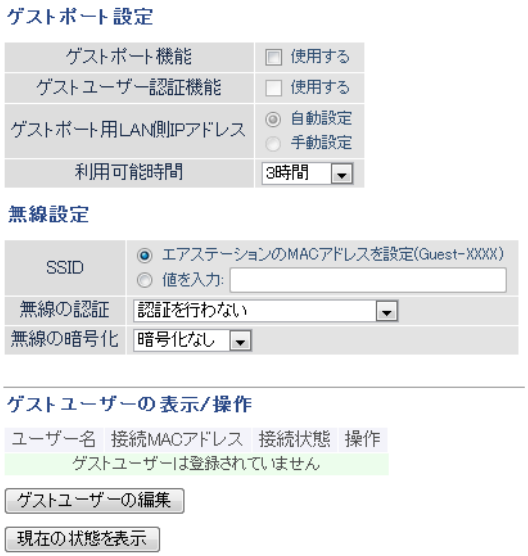
---> 無線設定 ー マルチキャスト制御

項目	内容
Snooping機能	IGMPなどのマルチキャスト管理パケットを監視し、不必要な有線・無線各ポートへのマルチキャストの転送を抑制することができる、マルチキャストSnooping（スヌーピング）機能を使用するかどうかを設定します。
マルチキャストAging Time	マルチキャストSnooping機能によって学習した情報を保持する時間を10～3600（秒）の範囲で設定します。IGMP/MLDクエリー間隔よりも十分に大きな値を入力する必要があります。

ゲストポート

来客用の無線接続ポート（ゲストポート）の設定を行う画面です。

---> 無線設定 ー ゲストポート（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）



項目	内容
ゲストポート機能	来客用にインターネット回線を提供するための「ゲストポート機能」の有効／無効を設定します。
ゲストユーザー認証機能	ゲストとして登録したユーザーだけが通信できるように認証を行うかどうかを設定します。
ゲストポート用LAN側IPアドレス	ゲストユーザーに提供するLAN側IPアドレスを設定します。手動設定の場合、[推奨値を設定する]をクリックすると、ゲストポート用LAN側IPアドレスの推奨値が入力されます。
ゲストポート用DHCPサーバー機能	ゲストユーザー用にDHCPサーバー（IPアドレス自動割り当て）機能を使用するかどうかを設定します。

項目	内容
SSID	ゲストユーザー用のSSIDを半角英数字記号で32文字以内で設定します。
無線の認証	ゲストユーザーが接続の際に使用する認証方式を指定します。
無線の暗号化	ゲストユーザーが接続の際に使用する暗号化方式を指定します。
WPA-PSK（事前共有キー）	ゲストユーザーが接続の際に使用する事前共有キーを指定します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーの更新間隔を設定します。
ゲストユーザーの表示/操作	ゲストユーザーの編集を行うことができます。 **ユーザー名** ゲストユーザーの認証に使用するユーザー名を半角記号64文字以内で登録します。 **パスワード** ゲストユーザーの認証に使用するパスワードを半角記号64文字以内で登録します。

中継機モニター（WZR-1750DHP2のみ）

本製品と対応している中継機との電波強度を確認したり、「Smart ExRate」機能の設定を行う画面です。表示は、5秒ごとに自動更新されます。

メモ:

- 対応している中継機の詳細については、当社ホームページをご確認ください。
- 中継機に接続している中継機は表示されません。
- 本製品のSSID1に接続している中継機だけが表示されます。

---> 無線設定 ー 中継機モニター（ルーター動作時/ブリッジ動作時のみ）

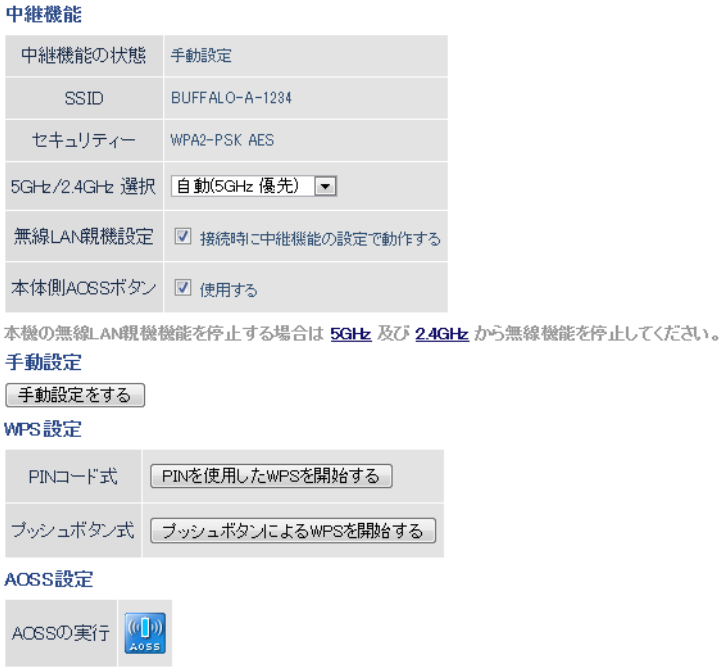
項目	内容
電波強度	本製品と中継機との電波強度を4段階で表示します。中継機を電波の強い位置に設置することをおすすめします。 :非常に強い :強い :弱い :非常に弱い

項目	内容
中継機名称	表示されている中継機に名前をつけることができます。名前を入力して［設定］をクリックすると設定されます。 **メモ:** ここで設定する名前は、「デバイスコントロール」画面で表示される名前とは同期されません。
MACアドレス	中継機のMACアドレスを表示します。 **メモ:** 中継機の製品ラベルなどに記載されているMACアドレスとは異なる場合があります。
IPアドレス	中継機のIPアドレスを表示します。IPアドレスをクリックすると、中継機の設定画面を表示します。 **メモ:** • 中継機によっては、IPアドレスが表示できない場合があります。 • 本製品と中継機でIPアドレスのセグメントが異なる場合は、表示されているIPアドレスをクリックしても中継機の設定画面を表示することはできません。
リンクレート	本製品と中継機との通信速度を表示します。 ↗:上り（中継機→本製品）の通信速度を表示します。 ↘:下り（本製品→中継機）の通信速度を表示します。 **メモ:** 表示されている値は参考値です。ご使用の環境により、通信速度は変化します。
Smart ExRate	有効にすると、本製品と中継機との通信を安定させます。中継機を経由して動画のストリーミング再生などを行ったときに、頻繁にノイズが発生する場合などに有効にしてください。 **メモ:** • この機能は、本製品と中継機間の通信にのみ適用されます。 • 本製品に直接接続している端末との通信には適用されません。 • 中継機に接続している中継機には適用されません。 • 本製品と中継機間で接続している無線帯域を2.4 GHzから5 GHz、または5 GHzから2.4 GHzに変更すると、Smart ExRateの設定が変更される場合があります。 この機能を有効にすると、リンクレートが低く表示されることがあります。

中継機能（WB）

中継機能の設定を行う画面です。

---> 無線設定 ー 中継機能（WB）（中継動作時のみ）

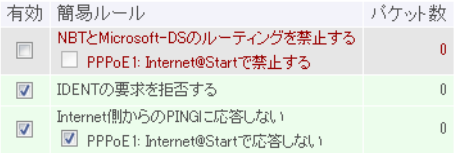


項目	内容
中継機能の状態	中継機能の状態を表示します。
SSID	本製品の接続先のSSIDが表示されます。
セキュリティー	接続先との接続で使用しているセキュリティーの種類が表示されます。
5 GHz / 2.4 GHz 選択	接続先と接続する際の優先順位を設定します。
無線LAN親機設定	「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックを入れると、本製品は、接続先に設定されているSSIDと暗号化の設定を引き継ぎます。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外すと、本体のAOSSボタンを押してもAOSSやWPS接続は行われなくなります。
［手動設定をする］	ボタンをクリックすると、本製品周辺の無線親機が検索されます。 接続したい無線親機を選択し、暗号化キーを入力すると、接続処理が完了します。
PINコード式	［PINを使用したWPSを開始する］をクリックすると、接続に必要なPINコードが発行され、本製品周辺の無線親機が検索されます。 接続したい無線親機を選択して［PIN実行］をクリックすると、本製品はWPSの待ち受け状態になります。 接続先の無線親機に対して、２分以内にPINコードを登録すると、接続処理が完了します。
プッシュボタン式	［プッシュボタンによるWPSを開始する］をクリックすると、本製品はWPSの待ち受け状態になります。 ２分以内に接続したい無線親機のAOSS/WPSボタンを押すと、接続処理が完了します。
AOSSの実行	AOSS をクリックすると、本製品はAOSSの待ち受け状態になります。 ２分以内に接続したい無線親機のAOSSボタンを押すと、接続処理が完了します。

ファイアウォール

本製品のファイアウォール機能を設定する画面です。

---> セキュリティー ー ファイアウォール（ルーター動作時のみ）



項目	内容
簡易ルール	簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。 各フィルターの内容は以下の通りです。 **NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する** 有効にすると、Internet側からLAN側およびLAN側からInternet側へのMicrosoftネットワーク共有機能は使用できなくなります。 **IDENTの要求を拒否する** 有効にすると、Internet側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザ等のネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定（DMZまたはTCPポート:113）になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 **Internet側からのPINGに応答しない** 有効にすると、Internet側からのPINGに応答しなくなります。

IPフィルター

LAN側とInternet側の間で通過するパケットに関するIPフィルターの編集を行う画面です。

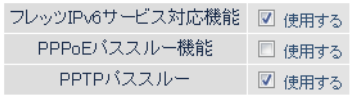
---> セキュリティー ー IPフィルター（ルーター動作時のみ）

項目	内容
動作	対象となるパケットの処理方法を指定します。
方向	対象となるパケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となるパケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPフィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

VPNパススルー

IPv6パススルー、PPPoEパススルー、PPTPパススルーに関する設定を行う画面です。

---> セキュリティー ー VPNパススルー（ルーター動作時のみ）

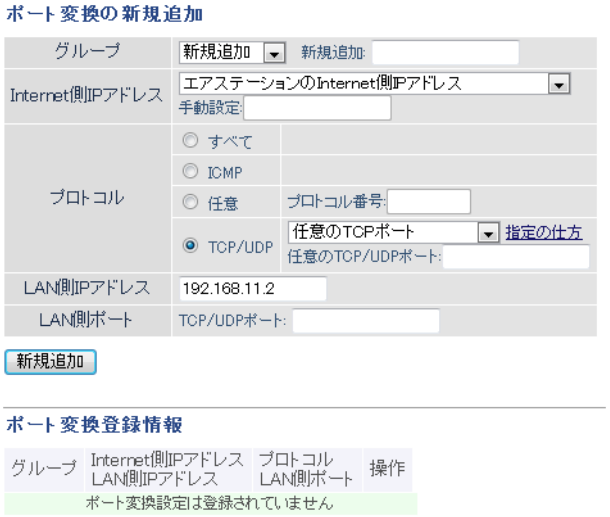


項目	内容
フレッツIPv6サービス対応機能	アドレス変換においてフレッツIPv6サービス対応機能を使用するかどうかを設定します。
PPPoEパススルー	PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを設定します。 PPPoEブリッジ機能を使用すると、PPPoEパケットがInternet - LAN間ですべて通過可能となり、LAN側に接続したパソコンでPPPoEプロトコルを使用してプロバイダーからIPアドレスを自動取得することができるようになります。
PPTPパススルー	アドレス変換において、PPTPパススルー機能を使用するかどうかを設定します。

ポート変換

ポート変換に関する設定を行う画面です。

---> セキュリティー ー ポート変換（ルーター動作時のみ）



項目	内容
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択して新規グループ名を入力すると、新たなグループを作成します。英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。
Internet側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するInternet側（変換前）のIPアドレスを設定します。
プロトコル	ポート変換テーブルに追加するInternet側（変換前）のプロトコルを設定します。
LAN側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するLAN側（変換後）のIPアドレスを設定します。
LAN側ポート	ポート変換テーブルに追加するLAN側（変換後）のポート番号（1～65535）を設定します。
ポート変換登録情報	現在設定されているポート変換テーブルの有効/無効の指定を行います。

DMZ

LAN側からの通信と無関係な通信パケットの転送先を設定する画面です。

---> セキュリティー ー DMZ（ルーター動作時のみ）

DMZのアドレス

※設定画面を表示している機器のIPアドレス[192.168.11.2]

項目	内容
DMZのアドレス	ポート変換テーブルに設定されていないパケットの転送先IPアドレスを設定します。 （RIPプロトコル（UDPポート番号520）のパケットは、転送されません）

UPnP

UPnP(Universal Plug and Play)に関する設定を行う画面です。

---> セキュリティー ー UPnP（ルーター動作時のみ）

UPnP機能 ☑ 使用する

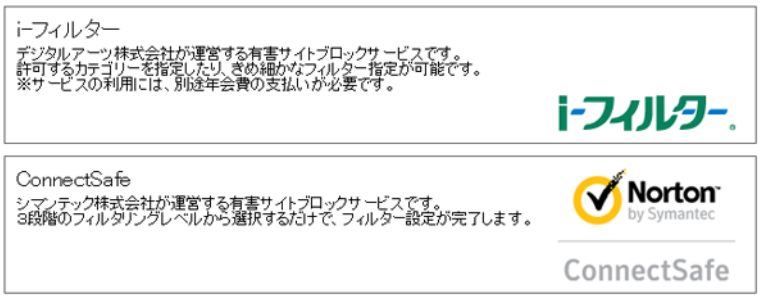
項目	内容
UPnP機能	Universal Plug and Play（UPnP）機能を使用するかどうかを設定します。

有害サイトブロック

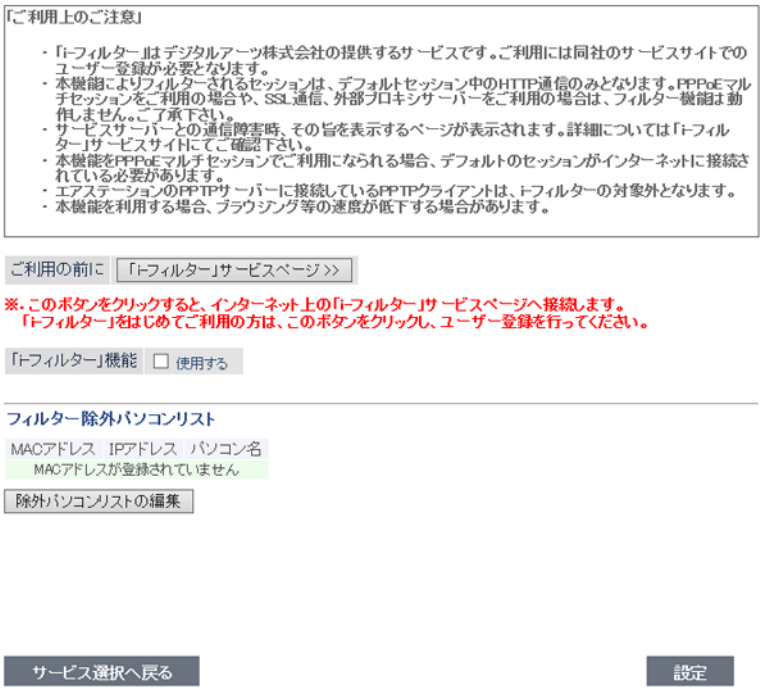
ホームページの表示を許可/ブロックする「i-フィルター」および「ConnectSafe」に関する設定を行う画面です。

--->　セキュリティー　ー　有害サイトブロック（ルーター動作時のみ）

サービス未選択時の画面



「i-フィルター」選択時の画面



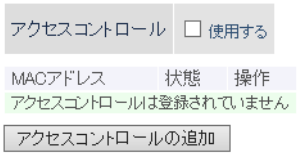
ConnectSafe選択時の画面

項目	内容
「i-フィルター」	有害サイトブロックサービスとして「i-フィルター」を使用する場合に選択します。 サービスを選択し直す場合は、「i-フィルター」の設定画面下部にある［サービス選択へ戻る］をクリックします。
ConnectSafe	有害サイトブロックサービスとしてConnectSafeを使用する場合に選択します。 サービスを選択し直す場合は、ConnectSafeの設定画面下部にある［サービス選択へ戻る］をクリックします。
「i-フィルター」に関する設定	
「i-フィルター」サービスページ >>	「i-フィルター」を利用する為のユーザー登録を行う機能です。
「i-フィルター」機能	チェックをすることで有効になります。無効時は他の設定機能を表示しません。管理パスワードの入力によって閲覧禁止が解除出来るようになりますので管理パスワードの設定を推奨します。管理設定メニューのパスワードから変更可能です。
利用期限	「i-フィルター」機能有効時、かつ認証サーバーより、契約期間が取得済みの場合、YYYY/MM/DDの形式で表示します。
閲覧禁止カテゴリー	閲覧禁止カテゴリーを設定します。
フィルター除外パソコンリスト	フィルターの除外パソコンの一覧が表示されます。
ConnectSafeに関する設定	
フィルターレベル	有害サイトをブロックするフィルターレベルを設定します。
フィルター除外サイト	フィルターから除外するサイトを最大20個まで登録できます。
フィルター除外パソコン	フィルターから除外する機器のMACアドレスを最大20個まで登録できます。

アクセスコントロール

お使いの機器がインターネットに接続できる時間を設定する画面です。

---> セキュリティー ー アクセスコントロール（ルーター動作時のみ）



項目	内容
アクセスコントロール	インターネットへの接続を制限する場合に「使用する」にチェックを入れます。
［アクセスコントロールの追加］	インターネットへの接続を許可する（または制限する）時間帯や曜日、対象となる機器などのルールを設定する場合にクリックします。

ディスク管理

本製品に接続したUSBハードディスク/フラッシュに関する情報表示や管理を行う画面です。

---> アプリケーション ー ディスク管理

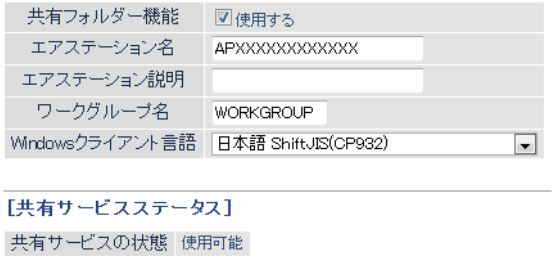
項目	内容
USBディスクの自動割当	USBハードディスク/フラッシュの番号を自動的に割り当てるかどうかを設定します。
拡張機能	クリックすると、拡張機能の項目が表示されます。
FATフォーマットファイル名文字コード	FATフォーマットでのファイル名の文字コードを指定します。

項目	内容
HDD節電機能	USBハードディスク/フラッシュの節電機能を使用するかどうかを設定します。
HDD停止時間	HDDが指定した時間未使用だった場合、HDDの電源をオフにします。指定できる時間は1～300分です。
デバイス情報	認識したUSBディスクの「製造者」「製品名」「ユニット名」を表示します。
ディスク割当	ディスク番号もしくは「割当しない」を選択します。
パーティション情報	パーティション情報を表示します。
USBデバイスの再認識	USBディスクを再認識します。
共有フォルダー設定	パーティションを選択し、共有欄の［設定変更］をクリックすると表示されます。 USBハードディスク/フラッシュへのアクセス制限を行います。
共有フォルダー名	共有時に公開するフォルダー名を半角18文字までで設定します。文字には、半角英数字の他に各国の文字と「-」「_」が入力可能です。先頭文字に数字と記号は入力できません。
共有フォルダーの説明	共有時に公開するフォルダーの説明を半角75文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。
ディスクパーティション領域	ディスク、パーティションの「選択」「ディスクパーティション領域」「フォーマット」「使用/容量(使用率)」を表示します。
公開先	登録した共有フォルダーで使用する機能(Win/MacOS(Samba))を選択します。
アクセス制限設定	ユーザー名によるアクセス制限を設定します。
Webアクセス設定	チェックありの場合は、Webアクセス時に認証を行い、アクセス制限機能の設定に従います。チェックなしの場合は、Webアクセス時に認証を行わず、読み込みのみとします。
ユーザー情報	登録しているユーザー情報が表示されます。
［ユーザーの追加］	クリックすると、ユーザー登録の画面が表示されます。
ユーザー名	共有フォルダーのアクセスに必要なユーザー名を半角英数字および「-」「_」「.」で1～20文字までで設定します。記号は先頭文字には入力不可です。
パスワード	共有フォルダーのアクセスに必要なパスワードを半角英数字および「-」「_」で1～20文字までで設定します。先頭文字に「-」は入力不可です。
ユーザーの説明	ユーザー名の説明を半角75文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。

共有サービス

共有サービスの有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

---> アプリケーション ー 共有サービス

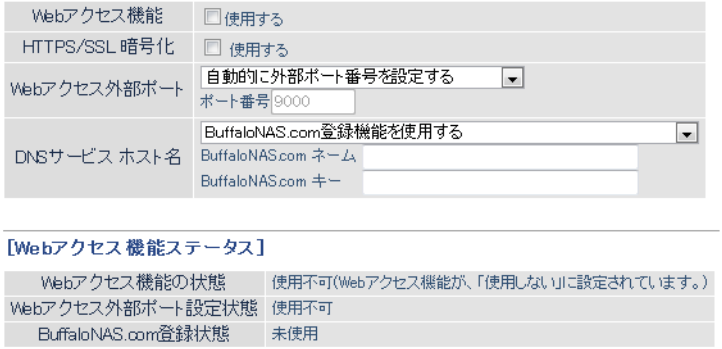


項目	内容
共有フォルダー機能	共有フォルダー機能を使用するかどうかを設定します。
エアステーション名	エアステーション名を設定します。 **メモ:** [管理] ー [システム設定] ー [エアステーション名] と同じです。共有サービスとして使用できるホスト名になります。
エアステーション説明	エアステーションの説明を半角48文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。
ワークグループ名	ワークグループ名を半角15文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、「-」「_」「.」が入力可能です。
Windowsクライアント言語	Windowsクライアントで使用する言語を選択します。
共有サービスの状態	共有サービスで使用するUSBハードディスク/フラッシュの状態を表示します。 **メモ:** 使用不可の場合、USBハードディスク/フラッシュの状態を確認してください。

Webアクセス

Webアクセス機能に関する設定を行う画面です。

---> アプリケーション ー Webアクセス

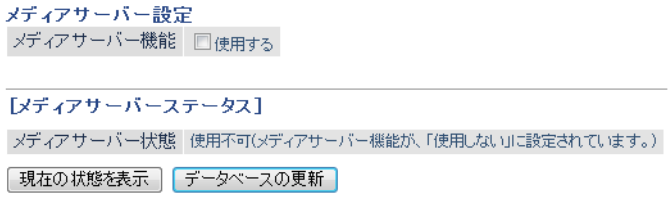


項目	内容
Webアクセス機能	Webアクセス機能を使用するかどうかを設定します。
HTTPS/SSL暗号化	SSL暗号化を使用し、より安全な転送をするかどうかを設定します。
Webアクセス外部ポート	Webアクセス外部ポートを設定します。
DNSサービスホスト名	**BuffaloNAS.com登録機能を使用する** 「BuffaloNAS.comネーム」は、BuffaloNAS.comサーバーへ登録する無線親機のニックネームを半角3～20文字までで入力します。半角英数字、「-」「_」が入力可能です。 「BuffaloNAS.comキー」は、BuffaloNAS.comサーバーへ登録する無線親機のニックネームを保存/使用するためのキーを半角3～20文字までで入力します。半角英数字、「-」「_」が入力可能です。 **DDNS設定のホスト名を使用する** Webアクセス機能で、ダイナミックDNS機能を使用する場合に設定します。 **手動でホスト名を設定する** 使用するホスト名を半角63文字までで入力します。半角英数字、「-」「_」「.」が入力可能です。
Webアクセス機能の状態	「使用不可」と表示される場合は、USBハードディスク/フラッシュの状態を確認してください。
Webアクセス外部ポート設定状態	「登録失敗」と表示される場合は、Webアクセス外部ポート番号の設定を確認してください。
BuffaloNAS.com登録状態	「登録失敗」と表示される場合は、BuffaloNAS.comの設定を確認してください。

メディアサーバー

メディアサーバー機能の有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

---> アプリケーション ー メディアサーバー



項目	内容
メディアサーバー機能	メディアサーバー機能を使用するかどうかを設定します。
メディアサーバー状態	メディアサーバーの状態が表示されます。

BitTorrent

BitTorrent機能の有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

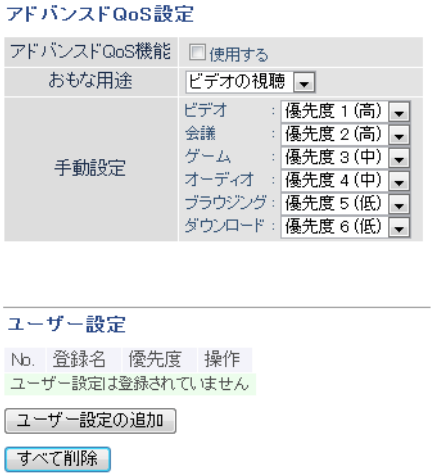
---> アプリケーション ー BitTorrent

項目	内容
BitTorrent機能	BitTorrent機能を使用するかどうかを設定します。
BitTorrent外部ポート番号	BitTorrent外部ポート番号を設定します。
帯域制限設定	BitTorrent機能で使用する帯域制限を設定します。
BitTorrent機能の状態	BitTorrent機能の状態を表示します。
BitTorrent外部ポート設定状態	BitTorrent外部ポートの状態を表示します。

アドバンスドQoS

ネットワークの帯域をより効果的に利用するためのアドバンスドQoS機能の有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

---> アプリケーション ー アドバンスドQoS（ルーター動作時のみ）

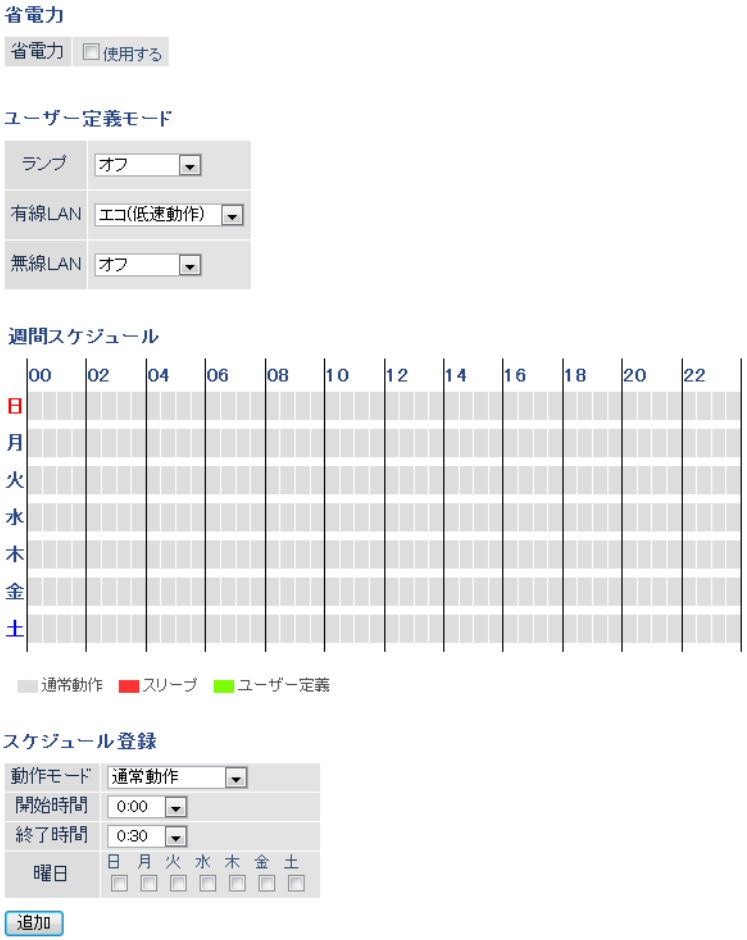


項目	内容
アドバンスドQoS機能	アドバンスドQoS機能を使用するかどうかを設定します。
おもな用途	通信のおもな用途を選択します。
手動設定	「おもな用途」で「手動設定」にした場合に使用する動作ポリシーです。各カテゴリーの優先度を設定します。
ユーザー設定	登録されたユーザー定義ルールの情報が表示されます。
［ユーザー設定の追加］	クリックすると、ユーザーを登録できます。最大登録数は20です。
登録名	ユーザー設定の名称を入力します。
優先度	ユーザー設定の優先度を選択します。
プロトコル	対象となるプロトコルを選択します。
リモート設定	インターネット側サーバーの設定を指定します。
ローカル設定	LAN側のどの端末に対する設定かを指定します。

スケジュール

本製品の節電機能の設定を行う画面です。

---> アプリケーション ー スケジュール



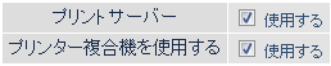
項目	内容
省電力	あらかじめ登録したスケジュールにしたがって、節電機能を使用するかどうかを設定します。
ユーザー定義モード	節電の内容について、「ランプ」、「有線LAN」、「無線LAN」を組み合わせて設定します。 **ランプ** 節電時のランプの動作を設定します。 通常動作の場合、ランプが点灯します。 オフの場合、ランプがオフになります。 **有線LAN** 節電時の有線LANの動作を設定します。 通常動作の場合、最大1000 Mbpsで通信を行います。 エコ（低速動作）の場合、最大通信速度が100 Mbps/10 Mbps自動で動作します。 **無線LAN** 節電時の無線LANの動作を設定します。 通常動作の場合、無線LANをご利用いただけます。 オフの場合、無線LANがオフになります。
週間スケジュール	「スケジュール登録」で設定したスケジュールが表示されます。

項目	内容
スケジュール登録	節電の開始/終了スケジュールについて、「動作モード」、「開始時間」、「終了時間」、「曜日」を組み合わせて設定します。 **動作モード** 節電時の動作モードを設定します。 通常動作の場合、省電力機能を使用せず動作します。 ユーザ定義の場合、「ユーザ定義モード」で設定した動作を行います。 **開始時間** 開始時間を0:00～23:30まで30分単位で設定します。 **終了時間** 終了時間を0:30～24:00まで30分単位で設定します。 **曜日** スケジュールを実行する曜日を設定します。

プリントサーバー

本製品のプリントサーバー機能の設定を行う画面です。

---> アプリケーション ー プリントサーバー



項目	内容
プリントサーバー	プリントサーバー機能を使用するかどうかを設定します。
プリンター複合機を使用する	USBマスストレージクラスに対応したプリンターを、プリンターとして使用するかどうかを設定します。

システム設定

本製品のシステムに関する設定する画面です。

---> 管理 ー システム設定

項目	内容
エアステーション名	本製品の名称を半角英数字と「-」で、64文字までで設定します。
管理ユーザー名	本製品の設定画面へログインするときのユーザ名です。「admin」以外に変更できません。
管理パスワード	本製品の設定画面へログインするときのパスワードを半角英数字と「_」で、8文字までで設定します。
無線LANからの設定を禁止する	本製品の無線ポートに接続された機器から本製品の設定をできないようにします。
有線LANからの設定を禁止する	本製品のLANポートに接続された機器から本製品の設定をできないようにします。
Internet側リモートアクセス設定を許可する	Internetに接続されたネットワーク機器から本製品の設定画面へのアクセスを制限するかどうかを設定します。 アクセスを許可する場合は、許可IPアドレスと許可ポートを別途設定します。

項目	内容
デバイスに対しポートスキャンを実行する （WZR-1750DHP2のみ）	チェックを入れると、本製品はWeb設定画面を持つ機器の検出を行います。 セキュリティーソフトなどが本製品からのポートスキャンを警告する場合は、チェックを外してください。
デバイスのwwwポート監視を禁止する （WZR-1166DHP2のみ）	チェックを入れると、本製品はWeb設定画面を持つ機器の検出を中止します。 セキュリティーソフトなどが本製品からのポートスキャンを警告する場合は、チェックを入れてください。
NTP機能	本製品の内部時計をNTPサーバーを使って設定するかどうかを指定します。
サーバー名	NTPサーバーの名称をホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる周期（1～24時間毎）を設定します。
日付	本製品の内部時計の日付を手動で設定します。
時刻	本製品の内部時計の時刻を手動で設定します。
タイムゾーン	本製品の内部時計のタイムゾーン（グリニッジ標準時からの時差）を指定します。

ログ

syslogによる本製品のログ情報を転送するための設定を行う画面です。

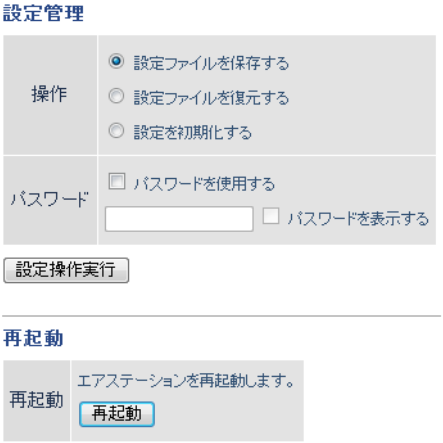
---> 管理 － ログ

項目	内容
ログ情報転送機能	ログ情報転送機能を使用するかどうかを設定します。
syslogサーバー	syslogサーバーのアドレスをホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
転送するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
詳細なログ取得	「アドレス変換」、「IPフィルター」、「ファイアウォール」、「アクセスフィルター」に関するログ情報を取得するかどうかを設定します。

設定管理/再起動

本製品の設定を保存・復元したり、本製品の初期化/再起動を行う画面です。

---> 管理 ー 設定管理/再起動

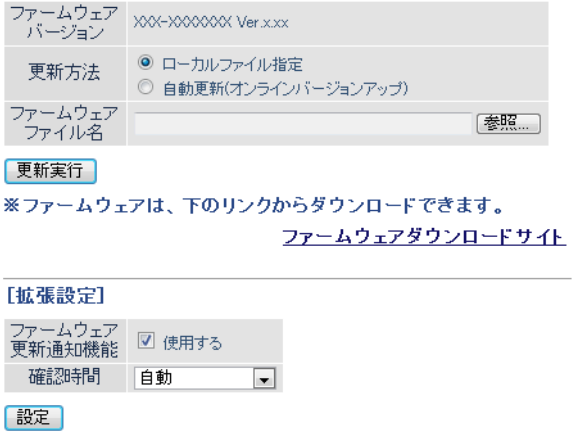


項目	内容
操作	操作内容を選択します。 **設定ファイルを保存する** 本製品の設定内容を設定ファイルに保存します。 [設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルをパスワードで暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 **設定ファイルを復元する** 本製品の設定を、設定ファイルから復元します。 「設定ファイル」欄の[ファイルを選択]をクリックして設定ファイルを指定し、[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 **設定を初期化する** 本製品の設定を初期化して、再起動します。 [設定操作実行]をクリックしてください。
再起動	クリックすると、本製品が再起動します。

ファームウェア更新

本製品のファームウェアを更新するための画面です。

---> 管理 － ファームウェア更新



項目	内容
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンを表示します。
更新方法	ファームウェアの更新方法を設定します。 **ローカルファイル指定** パソコンに保存されているファームウェアファイルを使用して更新を行います。 **自動更新(オンラインバージョンアップ)** インターネットから自動的に最新のファームウェアファイルをダウンロードして更新を行います。
ファームウェアファイル名	「ローカルファイル指定」時にファームウェアファイル名を指定します。
ファームウェア更新通知機能	新しいファームウェアがリリースされている場合に、設定画面上に通知する機能を使用するかどうかを設定します。
確認時間	新しいファームウェアがリリースされているかを本製品がチェックする時間を設定します。「自動」に設定すると、確認時間が自動的に決定されます。

システム

本製品の現在の状態が表示されます。

---> ステータス － システム

製品名	XXX-XXXXXXX Version X.XX (RX.XX/BX.XX.XXX- X.XX- X.XX)	
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX	
動作モード	ルーターモード(Auto スイッチ)	
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う- PPPoE接続
	接続先	Internet@Start (デフォルトの接続先)
	接続状態	通信中
	操作	停止
	IPアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
	PPPサーバーIP	XXX.XXX.XXX.XXX
	DNS1(プライマリー)	XXX.XXX.XXX.XXX (自動取得)
	DNS2(セカンダリー)	XXX.XXX.XXX.XXX (自動取得)
	MTU値	1454
	有線リンク	1000Base-T (全二重)
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
LAN	IPアドレス	192.168.11.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
無線(2.4 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1	Buffalo-G-XXXX
	認証方式	WPA2-PSK
	暗号化	AES
	ANY接続	許可する
	プライバシーセパレーター	使用しない
	無線チャンネル	2 (自動設定)
	倍速モード	20 MHz
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
無線(5 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1	Buffalo-A-XXXX
	認証方式	WPA2-PSK
	暗号化	AES
	ANY接続	許可する
	プライバシーセパレーター	使用しない
	無線チャンネル	56 (自動設定)
	倍速モード	80 MHz
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
ゲストポート機能	ゲストポート機能	使用しない
NAS	USBディスク	接続済み
	共有フォルダー機能	使用する
	Webアクセス機能	使用しない
	メディアサーバー機能	使用しない
	BitTorrent機能	使用しない
エコモード	状態	スケジュール機能無効

現在の状態を表示

項目	内容
製品名	本製品の製品名とファームウェアのバージョンが表示されます。
エアステーション名	エアステーション名が表示されます。
動作モード	現在の動作モードが表示されます。
Internet	Internetポートの情報が表示されます。
LAN	LANポートの情報が表示されます。
無線（2.4 GHz）	2.4 GHz帯の無線LANポートの情報が表示されます。
無線（5 GHz）	5 GHz帯の無線LANポートの情報が表示されます。
ゲストポート	ゲストポートの情報が表示されます。
NAS	本製品のNAS機能に関する情報が表示されます。
エコモード	節電の状態が表示されます。

ログ

本製品に記録されているログ情報を確認する画面です。

---> ステータス － ログ

項目	内容
表示するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
ログ情報	本製品に記録されているログ情報が表示されます。

通信パケット

本製品が通信したパケットの合計を確認する画面です。

---> ステータス － 通信パケット

インターフェース	送信パケット数		受信パケット数	
	正常	エラー	正常	エラー
LAN側有線	19339	0	16309	0
PPPoE No.1 : Internet@Start	1620	0	2146	0
Internet側有線	2970	0	2929	0
LAN側無線(802.11ac/n/a)	1403	0	217	0
LAN側無線(802.11n/g/b)	0	2	0	0

現在の状態を表示

項目	内容
送信パケット数	Internet側有線、LAN側有線、PPPoE、LAN側無線に送信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。
受信パケット数	Internet側有線、LAN側有線、PPPoE、LAN側無線から受信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。

診断

本製品からネットワーク上の他の機器との接続確認を行う画面です。

---> ステータス － 診断

宛先アドレス

実行

実行結果

宛先	192.168.11.2
実行結果	64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=0 ttl=128 time=0.5 ms 64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=1 ttl=128 time=0.4 ms 64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=2 ttl=128 time=0.4 ms 64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=3 ttl=128 time=0.4 ms

項目	内容
宛先アドレス	接続確認を行う機器のIPアドレス、またはホスト名を入力し、[実行]をクリックすると、「実行結果」欄に結果が表示されます。

第3章　本製品の各種設定

本章では、本製品の各種設定について説明します。

USBハードディスク/フラッシュをNASとして使用する方法

本製品に接続したUSBハードディスク/フラッシュをネットワークディスク（NAS）として使用する方法を説明します。

メモ:

- USBハードディスク/フラッシュは、当社で動作確認済みの製品をご使用ください。
- 使用できるUSBハードディスク/フラッシュのフォーマット形式は、FAT12/FAT16/FAT32/XFSです。
- USBハードディスク/フラッシュを取り外しは、背面のUSB EJECTボタンを３秒以上押してから行ってください。
- 本製品に接続したUSBハードディスク/フラッシュをNASとして使用する際の制限事項は、後述の「USBハードディスク/フラッシュ使用時の制限事項」を参照してください。
- 大切なデータはバックアップを行ってください。

USBハードディスク/フラッシュの接続と共有フォルダーへのアクセス方法

本製品に接続したUSBハードディスク/フラッシュにアクセスする方法を説明します。

1 USBハードディスク/フラッシュを本製品背面のUSB 3.0ポートに接続します。

メモ: WZR-1750DHP2でUSB3.0に対応したハードディスクやフラッシュをUSB 2.0ポートへ接続すると、性能が十分に発揮されないことがあります。

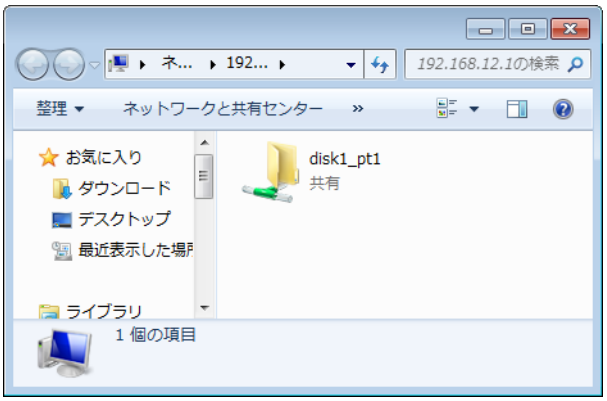
2 USBハードディスク/フラッシュの電源がオフの場合は、電源を入れます。

共有フォルダーへアクセスするには

Windows 8.1/8/7/Vista/XPパソコンの場合は、Webブラウザーのアドレス欄で「¥¥（本製品のIPアドレス）」を指定します。
Mac OSの場合は、メニューより、［移動］－［サーバへ接続］をクリックし、「smb://（本製品のIPアドレス）」を指定して共有フォルダーをマウントします。
共有フォルダーが表示されない場合は、本製品の設定画面で「詳細設定」－「アプリケーション」－「共有サービス」－「共有フォルダー機能」の「使用する」にチェックが入っているか確認してください。

共有フォルダー名について

共有フォルダー名は「disk*_pt*」です。(*にはディスク番号、パーティション番号が入ります。)



以上で設定は完了です。
USBハードディスク/フラッシュが認識されない、アクセスできないなど問題がある場合は、後述の「USBハードディスク/フラッシュにアクセスできないときは」を参照してください。

USBハードディスク/フラッシュの節電設定

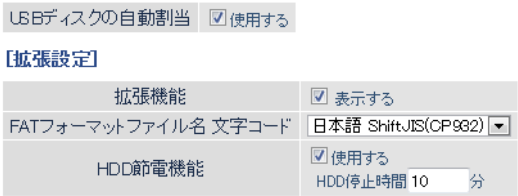
USBハードディスク/フラッシュの電源を自動でオフにする方法を説明します。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「アプリケーション」ー「ディスク管理」をクリックします。

3 拡張機能の「表示する」にチェックを入れます。

4 HDD節電機能の「使用する」にチェックを入れ、「HDD停止時間」を入力して［設定］をクリックします。



メモ:

- ご使用の環境により、本機能が動作しない場合があります。
- HDD節電機能でUSBディスクの回転が止まらない場合は、HDD節電機能を使用しないでください。
- USBハードディスク/フラッシュの電源をオフからオンにした際、USBハードディスク/フラッシュが認識できない場合は、HDD節電機能を無効にした後、［取り外し］をクリックし、USBハードディスク/フラッシュを一度取り外してから、再度接続してください。

以上で設定は完了です。

USBハードディスク/フラッシュの取り外しかた

USBハードディスク/フラッシュを取り外す方法を説明します。

メモ: USBハードディスク/フラッシュにアクセス中に取り外すとデータ破損などの原因となります。

製品背面のUSB EJECTボタンを使用して取り外す方法

1 製品背面のUSB EJECTボタンを約3秒間長押ししてから離します。

2 USB EJECTランプが青色点灯から青色点滅に変わります。

3 USBハードディスク/フラッシュを取り外します。

以上で設定は完了です。

設定画面の[取り外し]ボタンを使用して取り外す方法

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」をクリックします。

3 USBハードディスク/フラッシュを選択します。

4 操作の[取り外し]をクリックします。

5 製品背面のUSB EJECTランプが青色点灯から青色点滅に変わったら、USBハードディスク/フラッシュを取り外します。

以上で設定は完了です。

USBハードディスク/フラッシュのアクセス制限設定

USBハードディスク/フラッシュにアクセス制限を設定する方法を説明します。

メモ:

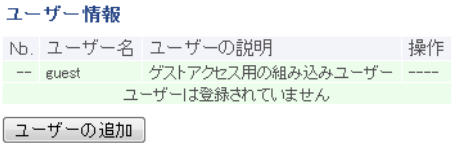
- USBハードディスク/フラッシュの自動割当有効時は、USBハードディスク/フラッシュ単位にアクセス制限を設定します。
- USBハードディスク/フラッシュに複数の共有フォルダーがある場合は、すべての共有フォルダーに設定が適用されます。
- USBハードディスク/フラッシュの自動割当を無効にすると、共有フォルダー単位にアクセス制限を設定できます。

ここでは、USBハードディスク/フラッシュの自動割当有効時（USBディスク単位のアクセス制限）の設定方法を紹介します。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」をクリックします。

3 ［ユーザーの追加］をクリックします。



4 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、［新規追加］をクリックします。

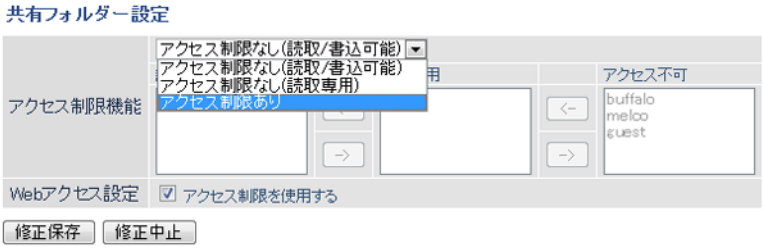
メモ:

- ユーザー名/パスワードは、各パソコンがログインする際に使用するユーザー名/パスワードを入力します。
- 16ユーザーまで登録できます。

5 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」の画面に戻ります。

6 USBハードディスク/フラッシュのパーティションを選択し、共有欄の[設定変更]をクリックします。

7 「アクセス制限機能」の「アクセス制限あり」を選択します。



8 ユーザー名を選択し、[←] [→]ボタンを使用して「読取/書込可能」「読取専用」「アクセス不可」へ移動し、[修正保存]をクリックします。

以上で設定は完了です。

インターネット経由でUSBハードディスク/フラッシュにアクセスする

Webアクセス機能を使用して、インターネット経由で本製品に接続したUSBハードディスク/フラッシュにアクセスするための設定方法を説明します。

メモ: ここではBuffaloNas.comサーバーを介してアクセスする方法を説明します。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」をクリックします。

3 USBハードディスク/フラッシュのパーティションを選択し、共有欄の［設定変更］をクリックします。

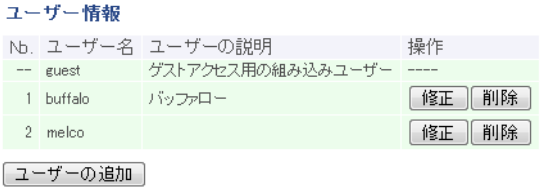
4 Webアクセス設定の「アクセス制限を使用する」が有効になっていることを確認します。

メモ:

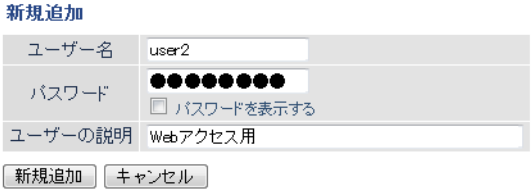
- 「USBディスクの自動割当」を使用しない設定にしている場合は、Webアクセス機能で使用する共有フォルダーを設定してください
- 「アクセス制限を使用する」の場合、アクセス時に、本製品に登録したユーザー名/パスワードでログインが必要です。各ユーザーの権限は本製品のアクセス制限機能の設定にしたがいます。
- 「アクセス制限を使用しない」の場合、アクセス時に認証を行わず、読取専用でログインします。書込を行う場合は、本製品に登録したユーザー名/パスワードでログインが必要です。

5 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」の画面に戻ります。

6 ［ユーザーの追加］をクリックします。



7 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、［新規追加］をクリックします。



メモ:

- ユーザー名/パスワードは、各パソコンがログインする際に使用するユーザー名/パスワードを入力します。
- 16ユーザーまで登録できます。

8 「詳細設定」－「アプリケーション」－「Webアクセス」をクリックします。

9 以下を参考に各項目の設定を行い、［設定］をクリックします。

Webアクセス機能：
　使用する
HTTPS/SSL暗号化：
　使用しない（転送時にデータを暗号化する場合は「使用する」に設定）
Webアクセス外部ポート：
　自動的に外部ポート番号を設定する
DNSサービスホスト名：
　BuffaloNAS.com登録機能を使用する
BuffaloNAS.comネーム：
　アクセスする際に使用する名前を入力します
BuffaloNAS.comキー：
　任意の文字列を入力します

以上で設定は完了です。

BitTorrentでファイルをダウンロードする

BitTorrentでファイルをダウンロードする方法を説明します。

メモ:

- BitTorrentは非匿名性です。ダウンロードしたファイルはインターネットに公開され、誰がどのファイルを公開しているか分かる仕組みになっています。
- 著作権のある動画や音声、ソフトウェアなどは、著作権上、権利者に無断で使用することはできません。
- BitTorrent機能を使用する前に、USBハードディスク/フラッシュのフォーマット形式をXFS形式に変更してください。フォーマット形式がFATの場合、BitTorrent機能は使用できません。

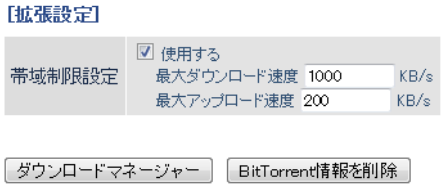
1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「BitTorrent」をクリックします。

3 BitTorrent機能で「使用する」にチェックを入れ、[設定]をクリックします。

メモ:「帯域制限設定」を行うことで、BitTorrentで使用する帯域（ダウンロード/アップロード）を制限できます。

4 [ダウンロードマネージャー]をクリックします。



5 [参照]をクリックして、torrentファイルを指定します。

メモ:

- torrentファイルは、米BitTorrent社のホームページ（http://www.bittorrent.com/intl/ja/）や個人が運営するホームページからダウンロードできます。torrentファイルの利用規約、著作権等は各ホームページにしたがってください。
- かんたん設定画面のUSBストレージの「ダウンロードマネージャー」をクリックしても以下の画面を表示できます。

6 ［追加］をクリックすると、ダウンロードが始まります。

メモ:

- ダウンロードしたファイルは「disk1_pt1」（ディスク1、パーティション1）フォルダーに保存されます。
- USBディスクの自動割当が無効の場合は、指定した共有フォルダーに保存されます。

以上で設定は完了です。

共有フォルダーのコンテンツをネットワークメディアプレーヤーで再生する

共有フォルダーをネットワークメディアプレイヤーで使用する方法を説明します。

メモ: メディアサーバーとして公開する共有フォルダーは「disk1_pt1」（ディスク1、パーティション1）です。ネットワークメディアプレイヤーで再生したいファイルは「disk1_pt1」に保存してください。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

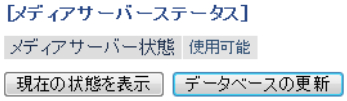
2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「メディアサーバー」をクリックします。

3 メディアサーバー機能で「使用する」にチェックを入れ、［設定］をクリックします。

4 ネットワークメディアプレイヤーで再生します。

通常、ネットワークメディアプレイヤーの画面に本製品のエアステーション名が表示されます。
「エアステーション名」を選択してファイルを再生してください。

メモ: 共有フォルダー内のファイルをネットワークメディアプレーヤーで再生できない場合は、下記の画面で［データベースの更新］をクリックしてください。



以上で設定は完了です。

USBハードディスク/フラッシュにアクセスできないときは

本製品に接続したUSBハードディスク/フラッシュにアクセスできないときは、以下の手順で設定を確認してください。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」をクリックします。

3 ディスク番号が自動的に割り当てられることを確認します。

メモ:

- 「USBディスクの自動割当」の「使用する」にチェックが入っていない場合は、手動でディスク番号を割り当てます。
- フォーマットがFAT12/FAT16/FAT32/XFS以外の場合は、FAT12/FAT16/FAT32/XFSへのフォーマットが必要です。（フォーマットを行うとデータは消去されます）

以上で設定は完了です。

USBハードディスク/フラッシュのフォーマット

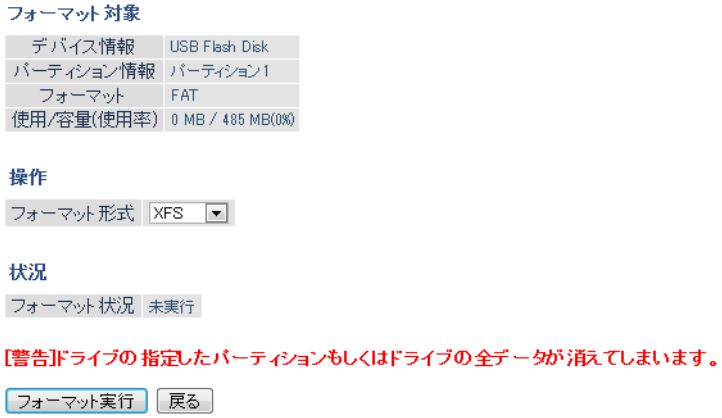
USBハードディスク/フラッシュをFAT/XFSにフォーマットする方法を説明します。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」をクリックします。

3 パーティションを選択し、操作欄の[フォーマット]をクリックします。

4 「フォーマット形式」を選択して、[フォーマット実行]をクリックします。



メモ:

- FAT32の場合、32 GBの容量までフォーマットできます。読取/書込どちらもできます。1ファイル4 GB以上のデータはコピーできません。「:」などMac OSで使用する一部の文字が使用できません。
- XFSの場合、読取/書込どちらもできます。ジャーナリングファイルシステムに対応しています。1つのフォルダーにファイルの数が多くなってもアクセスが遅くなりません。Windowsパソコン/Macに直接接続しても読み出しできません。

以上で設定は完了です。

USBハードディスク/フラッシュ使用時の制限事項

全般的な制限事項

- 全角文字（日本語など）のフォルダーやファイル名を作成するときは、80文字以内にしてください。80文字を越える名前のフォルダーやファイルは、コピー操作ができないことがあります。

- フォルダーやファイルに属性（隠し/読取専用）を設定することはできません。

- アクセス制限をかけて使用する場合、登録できるユーザー数は16名までです。

- 共有フォルダー名とワークグループ名に漢字を使用すると、使用した文字によっては共有フォルダーやワークグループが正常に表示されないことがあります。そのようなときは漢字以外の文字をお使いください。

- 本製品に登録するユーザー名に以下の文字は使用できません。あらかじめご了承ください。
  adm、administrator、all、bin、daemon、disk、ftp、guest、halt、hdusers、kmen、lp、mail、man、news、nobody、nogroup、none、operator、root、shadow、shutdown、sshd、sync、sys、ttyusers、utmp、uucp、www

- 本製品に登録するユーザー名に以下の文字は使用できません。あらかじめご了承ください。
  ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩ
  ⅰⅱⅲⅳⅴⅵⅶⅷⅸⅹ㎜㎝㎞㎎㎏㎖㎠㎡№℡㈱㈲㍾㍿㍼㍻㍽㍼㍻
  ㍉㌔㌢㍍㌘㌧㌃㌶㍑㍗㌍㌦㌣㌫㍊㌻㍻㍼㍽㍾㍿㍼㍻
  纊襲錫銭蓖俉炻昱棈銀舛彁丨仡任伀伋但佖佞侊侑侔俍偀健婦倞僖偰偷傔
  僩微兌爐冝冷凰劦刂劦勉勛勻匁匡邵厓厲皷戮咤咩咩哥喆巫坦坙埈埇埼塚
  增撫姿豸萌裔竊竊妤妹孖案甯寘寬寮岦岑峗崧宮崎渾嶗嶸嶠巓弭彈彧德忞恝
  悅悲愀愓愠惲慟愷慊或拆揵摠撝撃敎昀昕昂昉昇昞昤晥晗晙晴晢暗暠暠暲
  暳曺朧朗杣柒柀柳桄桿椿楨榮榘榴槢橫羃欃操欟櫛毖沈汜沆汯泚洄涇浯
  涖涬淏清滹淼渹湜渧渼溟澐瀨炅炫晛焄煜煇熙煇燾犯狀猴猪獷
  珣珉珖珣理琇珵琦琪琩琮瑢璉璟甁畯皂皜皛皛皛皦益睆劭砡硎硤硢磏礼神祥
  禔福禎竑竦靖竫簪精紹絜綷緣緒繒罇羑羽茁荀荿菇蓁菜蒴藝蕙董藹藁蘢蚌
  蠣裹訒詳詹誧誾諟諸諶譴讙贈賴贇赶赳軏迯逸違郎都鄉鄧釚釗釵釭釮鈔鈔
  鈆鈐鈔鈺鉀鉾鉎鉦鉑鈹鉀鉋鉈鉉鈸鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺鋺
  鋺鑕鑄鑢鑑鑅鑏鑏隆隍隍隍隔霪霊霾霾霾青靖顗顥飯飼餒館酵驎高鬲鯣鮖鮭
  鮟鯲鰬鵬鵫鶴鸛黑畩秕緇臂蘊訃躱鐓饐鶉
  ⅰⅱⅲⅳⅴⅵⅶⅷⅸⅹ㎜㎝㎞㎎㎏㎖㎠㎡№℡㈱㈲㍾㍿㍼㍻㍽㍼㍻
  ㍉㌔㌢㍍㌘㌧㌃㌶㍑㍗㌍㌦㌣㌫㍊㌻㍻㍼㍽㍾㍿

- 本製品に搭載されているOSの仕様上、接続したUSBハードディスク/フラッシュへ保存したファイルの日付情報は更新されることがあります（作成日時、更新アクセスなどの日付情報は保持されません）。

- ハードディスク/フラッシュの容量をブラウザーから確認したときと、Windowsのドライブのプロパティから確認したときで、値が異なる場合があります。

- Windows 8.1/8/7/Vista/XP/2000にguestアカウントでログインした場合、本製品に出荷時設定されているguestアカウントが存在するためアクセス制限が正常に動作しない場合があります。

- Macからアクセスされた共有フォルダーには、Mac用の情報ファイルが自動生成されることがあります。これらをWindowsから削除した場合、Macからアクセスできなくなることがありますので削除はしないでください。

本製品のUSB端子に関する制限事項

- 本製品のUSB端子に接続できるのは、USBハードディスク、USBフラッシュ、USBカードリーダー(5ドライブ以上認識されるカードリーダーは非対応)、USBハブ（セルフパワー型の対応機種のみ）、プリンターです。デジタルカメラ、CD/DVDドライブ、マウス、キーボード等のUSB機器を接続して使用することはできません。

- ハードウェア/ソフトウェアで暗号化されたUSBディスクは使用できません。

- USBハードディスク/フラッシュによっては、節電機能が動作しないことがあります。

- 本製品のUSB端子に接続して使用できるハードディスク/フラッシュは１台までです。当社製ハードディスク以外のハードディスクは対応しておりません(当社製DIU/DUBシリーズは非対応)。対応ハードディスクは、当社ホームページをご参照ください。AUTO電源機能を搭載したハードディスクを本製品に接続しても認識できないことがあります。そのようなときは、「AUTO電源機能切替スイッチ」を「MANUAL」に設定してください。

- USB端子に接続したハードディスク/フラッシュは第4パーティションまで認識出来ます。ファイルシステムはFAT12/FAT16/FAT32/XFSを認識できます。

USBハブ使用時の制限事項

- USBハブは、本製品に対応したもの（セルフパワー型）をご使用ください。対応機種については、当社ホームページでご確認ください。

- USBハードディスク/フラッシュへのデータ書き込み中やデータ読み出し中に、USBハブにUSB機器を接続すると、データの書き込み/読み出しが中断されます。

- USB3.0ハブには対応しておりません。

- USBハードディスク/フラッシュへのデータ書き込み中やデータ読み出し中に、USBハブにUSB機器を接続すると、データの書き込み/読み出しが中断されます。

節電機能を使って節電する

節電機能は、あらかじめ登録したスケジュールにしたがって、本製品を省電力状態にすることで、消費電力を抑える機能です。設定は以下の手順で行います。

メモ:

- 節電機能は、ランプ（通常動作/オフ）、有線LAN（通常動作/低速動作/オフ）、無線LAN（通常動作/オフ）の動作を切り替えることにより電力消費を抑えます。
- 本製品の状態が切り替わる際、通信が一時的に切断されます。また、ユーザー定義で有線LANや無線LANのどちらかを有効（または低速動作）に設定していても、通信が一時的に切断されますので、通信中の場合はご注意ください。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「管理」－「システム設定」をクリックします。

3 NTP機能に「使用する」、サーバー名に「ntp.jst.mfeed.ad.jp」と表示されていることを確認します。

時刻

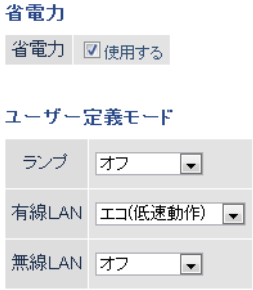
NTP機能	☑ 使用する
サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
確認時間	24 時間毎

メモ:

- NTP（Network Time Protocol）とは、正しい時刻に時計を修正・同期する仕組みです。任意のNTPサーバーを設定することもできますが、特に問題ない限りは初期設定（ntp.jst.mfeed.ad.jp）をご使用ください。
- 節電機能の設定を行うには、NTP設定を有効にする必要があります。（出荷時設定では有効になっています）
- 本製品をブリッジ（ルーター機能オフ）としてお使いの場合は、本製品の設定画面の「詳細設定」－「LAN」－「LAN」でデフォルトゲートウェイとDNS（ネーム）サーバーアドレスの設定（※）が必要です。
  ※ご使用中のルーター（ルーター内蔵モデムを含む）やCTUのIPアドレスと同じ値を設定してください。

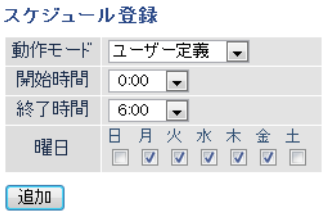
4 「詳細設定」－「アプリケーション」－「スケジュール」をクリックします。

5 省電力で「使用する」にチェックを入れ、ユーザー定義モードを設定して［設定］をクリックします。



メモ: ここでは例として、以下のように設定します。
設定例：
ランプ - オフ
有線LAN - エコ（低速動作）
無線LAN - オフ

6 スケジュールを登録して［追加］をクリックします。



メモ: ここでは例として、以下のように設定します。
設定例：
動作モード - ユーザー定義
開始時間 - 0:00
終了時間 - 6:00
曜日 - 月、火、水、木、金
※本製品に登録できるスケジュールは 1 つだけです。登録済みのスケジュールを変更したい場合は、新しいスケジュールで上書きしてください。

以上で設定は完了です。

来訪者向け無線設定を行う（ゲストポート設定）

本製品では、通常のネットワークから隔離された別の無線ネットワーク（ゲストポート）を設定することができます。このゲストポートを活用することで、自宅のネットワークのセキュリティーを保ちつつ、来訪者に対してインターネット環境を提供することができます。

メモ: ゲストポートは、インターネットにのみ接続できるネットワークです。ゲストポート側から他のネットワークにアクセスすることはできません。

来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合

ここでは例として、かんたんにゲストポートを有効にする手順を説明します。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「ゲストポート」をOnに切り替えます。

ゲストポートをOnに切り替えることで、以下の設定が行われます。
ユーザー認証 - Off
利用可能時間 - 3時間
SSID - Guest-XXXX（MACアドレスの下4桁）
暗号化設定 - なし

メモ:

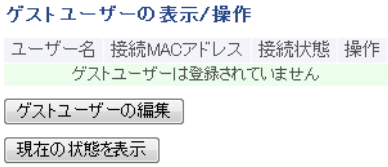
- 暗号化設定を行ったり、利用可能時間を変更したい場合は、上記の画面で「ゲストポート」のパネルをクリックしてください。
- 高度な設定を行いたい場合は、以下の「高度な設定を行う場合」を参照してください。

高度な設定を行う場合

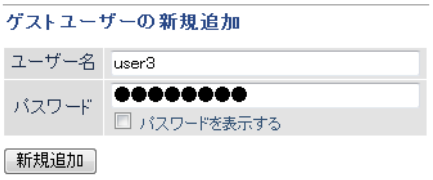
1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「ゲストポート」をクリックします。

3 ［ゲストユーザーの編集］をクリックします。



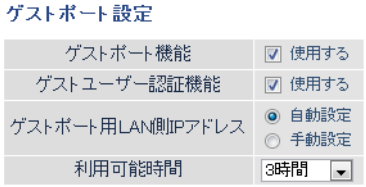
4 ゲストユーザーを設定し、［新規追加］をクリックします。



メモ: ゲストユーザーは5人まで登録できます。

5 ［編集を終了して前の画面へ戻る］をクリックします。

6 ゲストポート機能とゲストユーザー認証機能を「使用する」に設定し［設定］をクリックします。



メモ: 来訪者がネットワークに接続すると、ユーザー名とパスワードが求められますので、手順４で設定したユーザー名とパスワードを入力してください。

以上で設定は完了です。

無線チャンネルを変更する

本製品は、電波混雑防止機能により他の無線機器が使用していないチャンネルを検索して自動的に割り当てるため、通常はチャンネルを設定する必要はありません。ただし周囲に多くの無線機器がある場合、チャンネルが正しく設定されず、電波干渉が発生して転送速度が低下してしまうことがあります。
その場合は、以下の手順でチャンネルを設定してください。

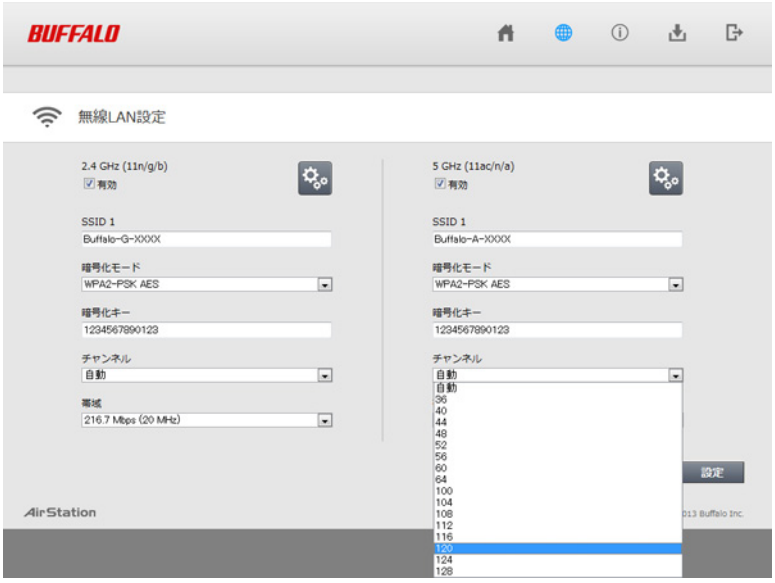
メモ:

- 設定するチャンネルによっては、他の無線機器と電波干渉を起こすことがあります。
- 隣接する無線機器に異なるチャンネルを設定するとき、隣りあったチャンネルなどの近い周波数では、互いに干渉し転送速度が低下してしまうことがあります。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「無線LAN」のパネルをクリックします。

3 無線チャンネルを選択して［設定］をクリックします。



メモ:

- 本設定は無線の周波数帯（2.4 GHzまたは5 GHz）ごとに設定することができます。
- 5 GHzのチャンネルで52チャンネル以上を設定した場合、本製品が気象レーダー等を感知すると、自動的に他の無線チャンネルへ変更されます。その際、１分程度無線通信ができなくなります。
- W52（36/40/44/48チャンネル）およびW53（52/56/60/64チャンネル）は、電波法により屋外で使用することが禁止されています。
- 2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

- 無線機器から設定を行っている場合、本製品との接続が一時的に切断されますが、しばらくすると自動的に本製品に再接続され通信できるようになります。

以上で設定は完了です。

AOSS接続を解除する

ANY接続拒否設定やMACアクセス制限の設定を行うには、いったんAOSS接続を以下の手順で解除する必要があります。
AOSS接続を解除すると、本製品のSSIDや暗号化キーは、AOSS接続を行う前の値に戻るとともに、本製品に接続していたすべての無線機器が本製品から切断されます。各機器のマニュアルを参照して、再度無線機器を本製品に接続してください。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「AOSS」をクリックします。

3 AOSS接続解除ボタン をクリックします。

AOSS動作設定

AOSS 状態	AOSS 有効
WEPをゲーム専用にする	802.11ac/n/a ☐ 使用する 802.11n/g/b ☐ 使用する
本体側AOSSボタン	☑ 使用する

以上で設定は完了です。

他の無線機器から本製品を検索できなくする（ANY接続拒否設定）

本製品に無線接続するには、SSIDと暗号化キーが必要です。ANY接続拒否設定を行うと、本製品のSSIDが隠蔽されて、他の無線機器から本製品を検索することができなくなるため、外部からの不正アクセスを受けにくくすることができます。
設定は、以下の手順で行います。

メモ:

- AOSSとANY接続拒否設定は同時に使用できません。以下の設定を行う前に、前述の「AOSS接続を解除する」を参照してあらかじめ設定を変更してください。
（以下の設定を行った後にAOSSを使って無線接続すると、ANY接続が「許可する」に設定変更されます）
- 以下の設定を行って本製品のSSIDを隠蔽しても、暗号化設定がされていないと外部からの不正アクセスを受けることがあります。

1 前述の「AOSS接続を解除する」を参照して、本製品の設定を変更します。

2 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

3 「詳細設定」－「無線設定」－「2.4 GHz（11n/g/b）」または「詳細設定」－「無線設定」－「5 GHz（11ac/n/a）」をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯（2.4 GHzまたは5 GHz）ごとに設定することができます。

4 ANY接続の「許可する」をクリックし、チェックを外して［設定］をクリックします。

以上で設定は完了です。

アクセス可能な無線機器を制限する（MACアクセス制限）

本製品に接続する無線機器のMACアドレスをあらかじめ登録しておき、その機器のみ本製品へのアクセスを許可することができます。設定は以下の手順で行います。

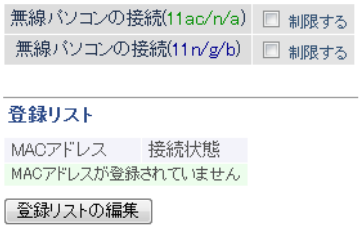
メモ: AOSSとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を設定する場合は、前述の「AOSS接続を解除する」を参照して本製品の設定を変更してください。

1 前述の「AOSS接続を解除する」を参照して、本製品の設定を変更します。

2 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

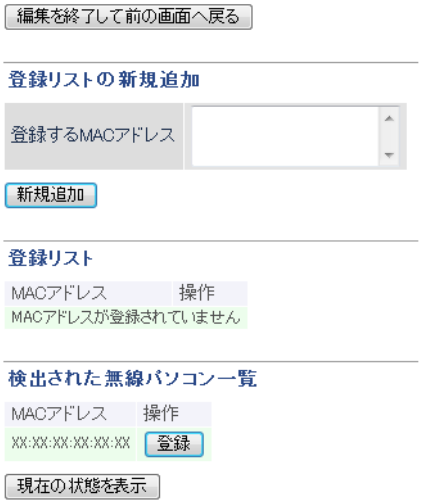
3 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

4 ［登録リストの編集］をクリックします。



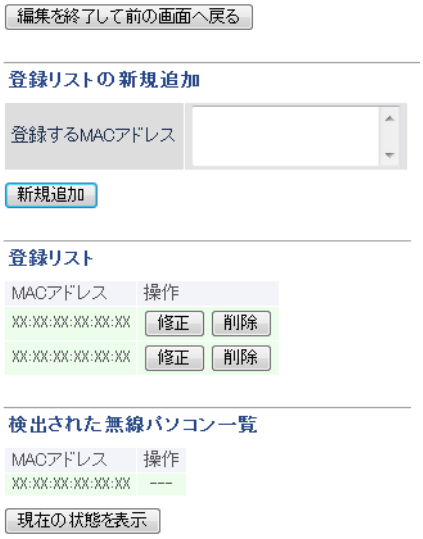
5 無線で接続できる機器を指定します。「検出された無線パソコン一覧」には、現在接続されている無線機器のMACアドレスが表示されています。

ここで、接続可能にする機器のMACアドレスのみを［登録］をクリックして登録します。



「検出された無線パソコン一覧」に表示されていない機器を登録する場合は、「登録するMACアドレス」欄に接続する機器のMACアドレスを入力し、［新規追加］をクリックします。MACアドレスを入力するときは、2桁ずつコロン(:)で区切って入力します。登録できるMACアドレスは64個までです。

6 登録が終わったら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。



7 「制限する」をクリックしてチェックを入れ、[設定]をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯(2.4 GHzまたは5 GHz)ごとに設定することができます。

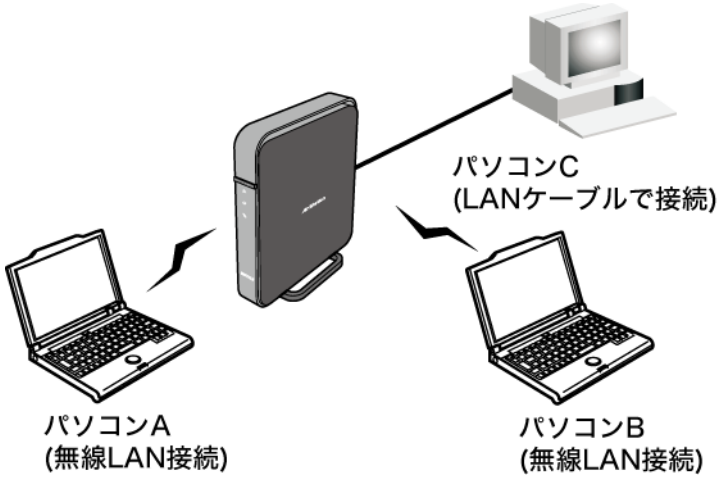
8 「無線パソコンのMACアクセス制限を有効にします」と表示されたら、[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

無線機器同士の通信を禁止する（プライバシーセパレーター）

プライバシーセパレーター機能を使用すると、本製品に接続している無線機器同士のアクセス（共有フォルダーなどへのアクセス）を禁止することができます。

メモ: 本製品にLANケーブルを使って接続している機器がある場合は、プライバシーセパレーターを有効にしても、アクセスを禁止することはできません。例えば、以下の図のような接続の場合、プライバシーセパレーターを有効にすることで、パソコンＡ－Ｂ間で共有フォルダーへのアクセスはできなくなりますが、パソコンＡ－Ｃ間やパソコンＢ－Ｃ間はアクセス可能となります。

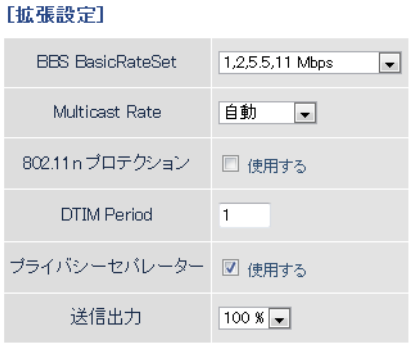


1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「2.4 GHz（11n/g/b）」または「詳細設定」－「無線設定」－「5 GHz（11ac/n/a）」をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯（2.4 GHzまたは5 GHz）ごとに設定することができます。

3 「プライバシーセパレーター」欄の「使用する」をクリックしてチェックを入れ、［設定］をクリックします。



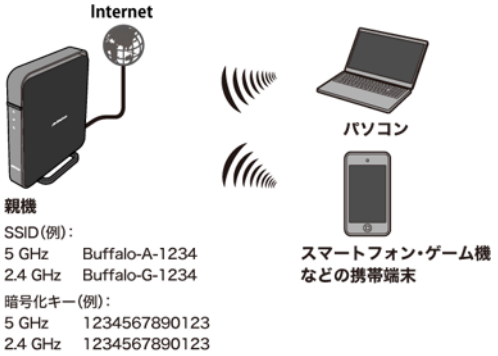
以上で設定は完了です。

本製品を中継機として使用する

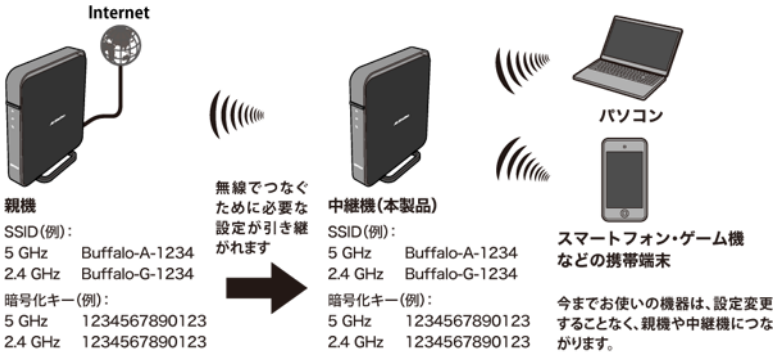
通信環境に障害物があると、電波が届きにくくなったり、通信速度が低下することがあります。
中継機能を使用すると、中継機として設定した本製品を介して電波が届くため、障害物を回避し、安定した通信を行うことができます。ここでは、本製品を中継機として使用する方法を説明します。

ご利用イメージ

中継機導入前



中継機導入後



- 本書に記載の手順で設定を行うと、本製品は親機の設定(SSIDや暗号化キー)を引き継ぎますので、ご利用中の機器(パソコンや携帯端末など)の設定を変更することなくお使いいただけます。
- 中継機設定は、以下の３つの方法があります。それぞれの手順は、関連する項目を参照してください。
  - 本体のボタンを押して設定する方法
  - 親機の暗号化キーを入力して設定する方法
  - WPS(PINコード式)で設定する方法
- 上記の「中継機 導入後」の図において、パソコンや携帯端末を親機に近づけた場合、それらの機器は本製品から親機へ接続を自動的に切り替え(ローミングを行い)ます。
- 親機にMACアクセス制限設定をしている場合は、後述の「MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する」を参照して設定してください。

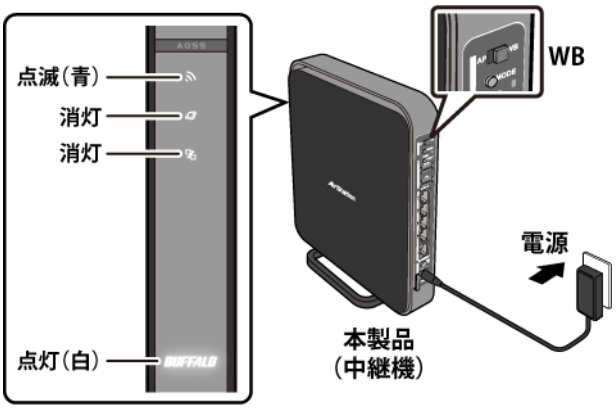
本体のボタンを押して設定する（AOSS、WPSプッシュボタン式）

ここでは、本体のボタンを押して設定する手順（AOSS/WPSプッシュボタン式）を説明します。

1 すでに設置済みの親機に、お使いの機器（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、親機の説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 背面の切り替えスイッチを「WB」側にして、本製品（中継機）の電源を入れます。
１分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをBUFFALOランプが赤く点灯するまで（約３秒間）押して初期化してください。



3 本製品のAOSSボタンを、ワイヤレスランプが２回周期で青色に点滅するまで（約１秒間）押し続けます。
２回周期で点滅したら、ボタンから手を離します。

4 親機のAOSSボタン（またはWPSボタン）を押して、AOSS（またはWPS）接続を開始します。
ボタンを押す間隔は、お使いの親機によって異なります。

5 約２分後、本製品のワイヤレスランプが青色に点灯していることを確認します。

メモ:
- 本製品のワイヤレスランプが連続点滅している場合、２分程度待ってから再度ランプの状態を確認してください。
- その後もワイヤレスランプの連続点滅が続いている場合は、手順３～４をもう一度行ってください。

以上で中継機の設定は完了です。

親機の暗号化キーを入力して設定する（手動設定）

ここでは、親機に設定されている暗号化キーを使って設定する手順（手動設定）を説明します。

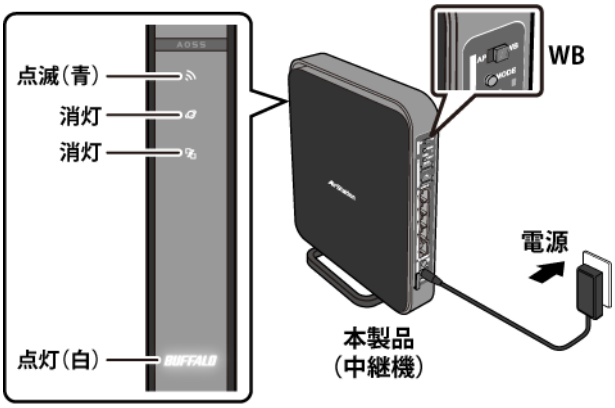
メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 すでに設置済みの親機に、お使いの機器（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、親機の説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 背面の切り替えスイッチを「WB」側にして、本製品（中継機）の電源を入れます。

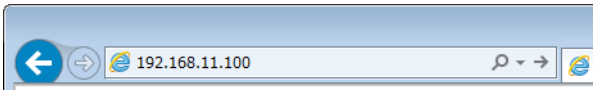
１分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをBUFFALOランプが赤く点灯するまで（約３秒間）押して初期化してください。



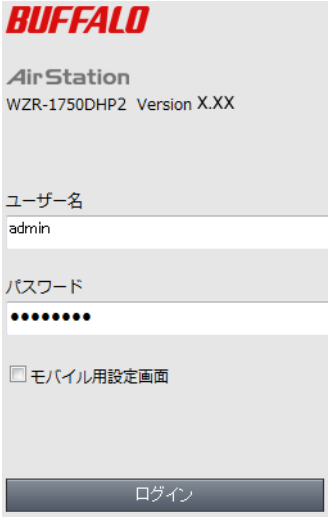
3 第７章の「IPアドレスの固定方法」を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 Internet Explorerを起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。

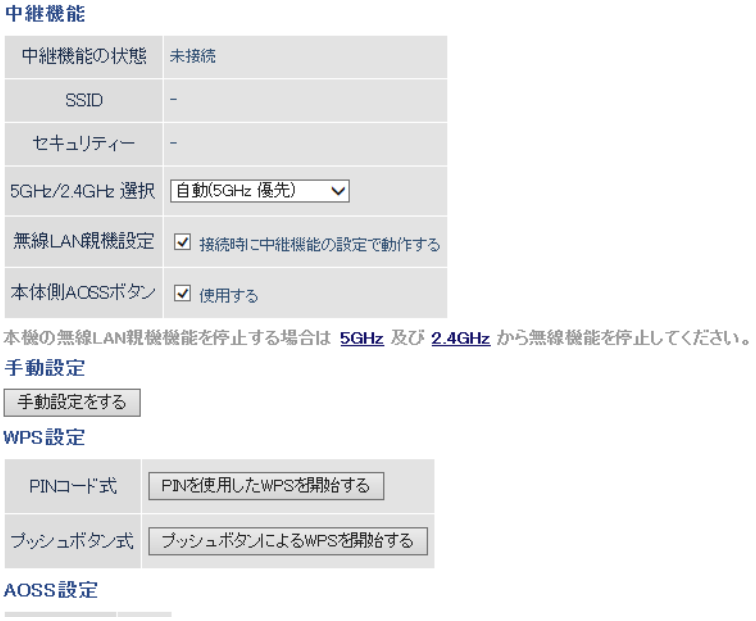


6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に「password」を入力し、[ログイン]をクリックします。

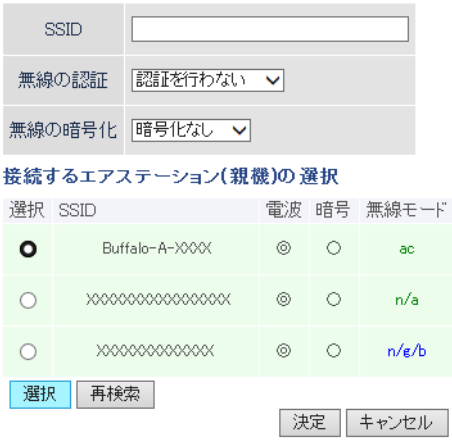


7 「詳細設定」ー「無線設定」ー「中継機能(WB)」をクリックします。

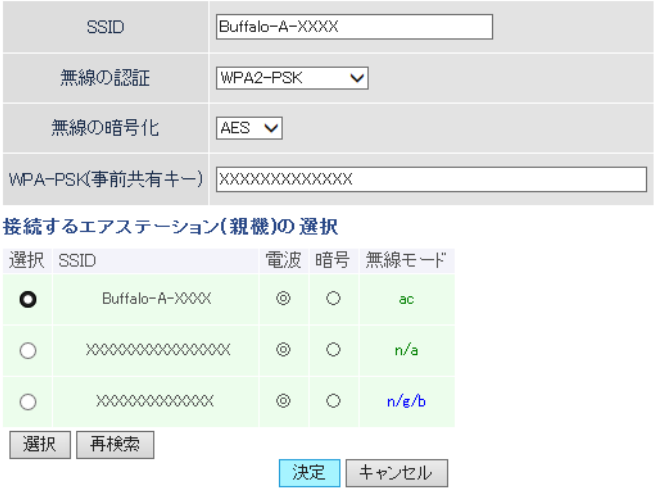
8 「手動接続をする」をクリックします。



9 接続先の親機を選択し、[選択]をクリックします。



10 接続先の親機の暗号化キーを入力し、[決定]をクリックします。



11 手順３で固定した設定用パソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。

以上で中継機の設定は完了です。

WPS（PINコード式）で設定する

ここでは、中継機を接続する際に、PINコードを使って設定する手順を説明します。

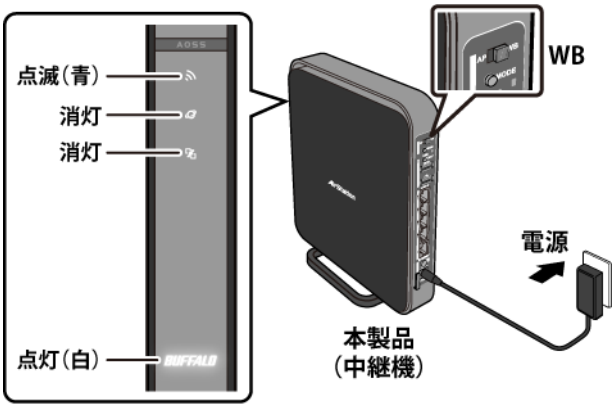
メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 すでに設置済みの親機に、お使いの機器（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、親機の説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 背面の切り替えスイッチを「WB」側にして、本製品（中継機）の電源を入れます。

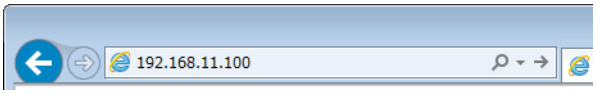
１分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをBUFFALOランプが赤く点灯するまで（約３秒間）押して初期化してください。



3 第７章の「IPアドレスの固定方法」を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

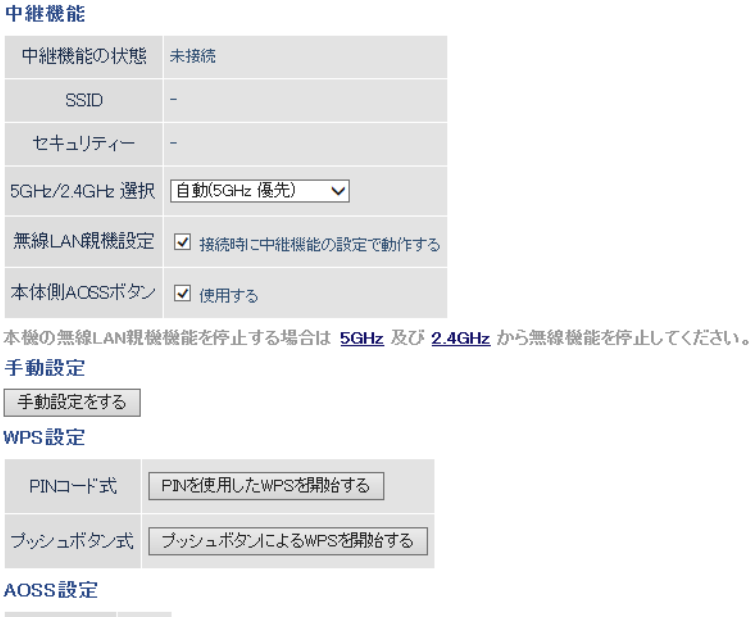
5 Internet Explorerを起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。



6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に「password」を入力し、[ログイン]をクリックします。

7 「詳細設定」－「無線設定」－「中継機能(WB)」をクリックします。

8 「PINを使用したWPSを開始する」をクリックします。



9 画面上部に表示されている「PINコード」を控え、接続先の親機を選択し、[PIN実行]をクリックします。

メモ: [PIN実行]をクリックすると、「WPSを実施しています。」と表示されますので、2分以内に手順10〜12を完了させてください。

10 別のパソコンなどを使って、接続先の親機の設定画面を表示します。

11 WPS設定の画面を表示します。

メモ: 親機が当社のエアステーションシリーズである場合は、無線設定ページにあるWPSの画面を表示します。

12 手順9で控えたPINコードを登録します。

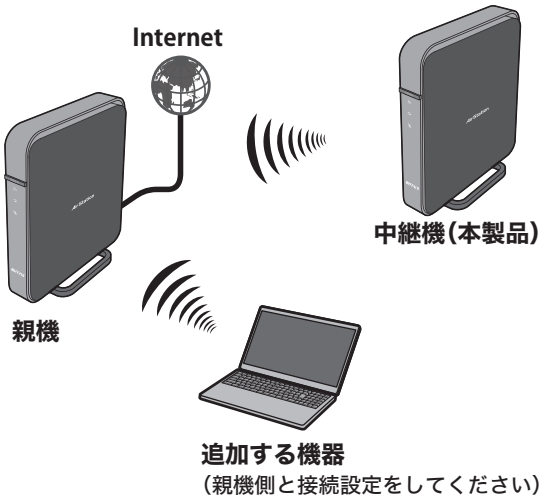
メモ: 親機が当社のエアステーションシリーズである場合は、「EnrolleeのPINコード」にPINコードを入力してください。

13 手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。

以上で中継機の設定は完了です。

無線機器を追加する場合

ここで設定した環境に無線機器を追加する場合は、お使いの無線親機の取扱説明書を参照し、無線親機と各機器を接続してください。



メモ: 中継機とパソコンなどの各機器間は、直接接続設定を行うことはできません。
（無線親機と接続設定を行うことで、中継機にも接続できるようになります）

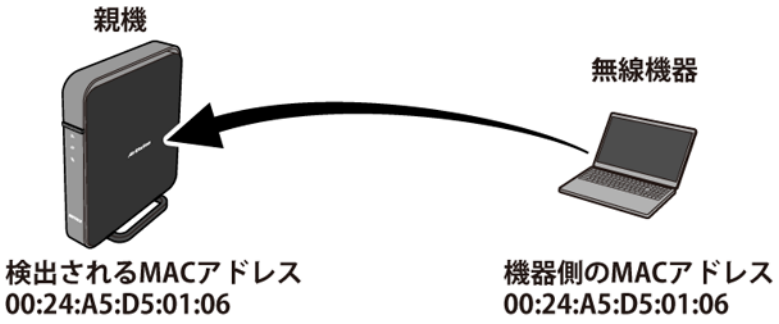
MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する

MACアクセス制限を使用している環境で、本製品を中継機として設置する方法を説明します。

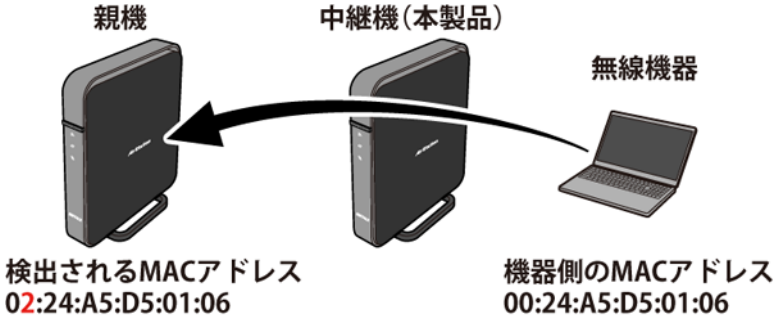
MACアクセス制限下での注意事項

通常、MACアクセス制限を行う場合は、お使いの機器のMACアドレスを親機に登録し、制限をかけます。
一方、中継機を経由した通信にMACアクセス制限を行う場合には、中継機の無線MACアドレスと、その中継機に接続している無線機器のMACアドレスを親機に登録する必要があります。
中継機の無線MACアドレスが登録されていない場合、中継機から親機への通信が制限されてしまい、中継機に接続している無線機器からは、中継機を経由した通信ができません。
なお、中継機と親機の両方を使用する無線機器については、直接親機と通信を行う場合のMACアドレスと、中継機を経由して通信を行う場合のMACアドレスの両方を、親機に登録する必要があります。
これは、中継機を経由して通信を行う場合と、直接親機と通信を行う場合で、以下の図のように親機側に表示される機器のMACアドレスが異なるためです。中継機を経由して通信を行う場合、親機には、製品のラベル等に記載されているMACアドレスとは異なるMACアドレスが表示されます。

親機と直接通信する場合：



中継機を経由して通信する場合：



上図のように、中継機経由ではMACアドレスの２桁目が実際とは異なる値として親機に認識されます。
（法則性は後述の「機器を追加する場合」を参照してください）

設定に必要な機器

- **インターネットに接続済みの親機**
  ここでは例として、WZR-1750DHP2を使用しています。
- **中継機**

ここでは例として、中継機にもWZR-1750DHP2を使用しています。

- **LAN端子を持つパソコン**
  中継機の設定を行う際に必要です。パソコンにLAN端子がない場合は、USB接続用のLANアダプターなどを別途ご用意ください。

  メモ: その他、「エアステーション設定ツール」が必要です。あらかじめ当社ホームページからダウンロードして、設定用パソコンにインストールしておいてください。

設定のながれ

設定は以下のながれで行います。

ステップ 1　現在使用中の無線機器のMACアドレスを親機に登録する
ステップ 2　中継機を親機に接続する
ステップ 3　中継機を経由して親機に接続している機器のMACアドレスを登録する
ステップ 4　ローミング設定を行う

それぞれのステップにおける手順は、以下の「設定手順」を参照してください。

設定手順

ステップ 1　現在使用中の無線機器のMACアドレスを親機に登録する

メモ: MACアクセス制限後は、ここで登録していない無線機器は、親機に接続できなくなりますのでご注意ください。

1 親機側にMACアクセス制限設定がされている場合は、一時的にMACアクセス制限を無効にします。

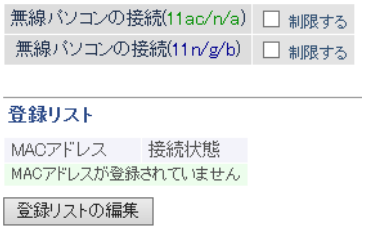
メモ: ここで無効にしたMACアクセス制限は、ステップ 3 で再度有効にします。

2 お使いの無線機器すべてを、いったん親機に接続します。
接続方法は、お使いの無線機器の取扱説明書を参照してください。

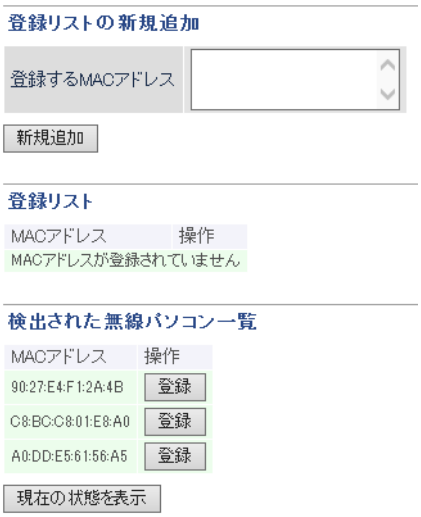
3 第 2 章の「設定画面を表示する」を参照して、親機の設定画面を表示します。

4 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

5 「登録リストの編集」をクリックします。



6 「検出された無線パソコン一覧」欄で［登録］をクリックし、表示されているMACアドレスをすべて登録します。



メモ: ここではMACアドレスを親機に登録するだけです。制限を有効にはしません。

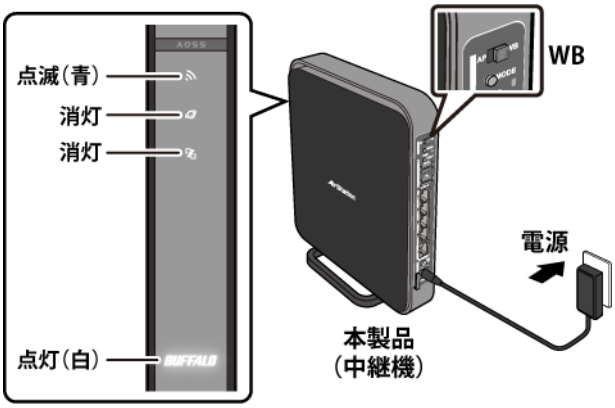
7 画面右上の「ログアウト」をクリックします。

以上でステップ１は完了です。
続いてステップ２へ進みます。

ステップ２　中継機を親機に接続する

メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 背面の切り替えスイッチを「WB」側にして、本製品（中継機）の電源を入れます。
１分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをBUFFALOランプが赤く点灯するまで（約３秒間）押して初期化してください。

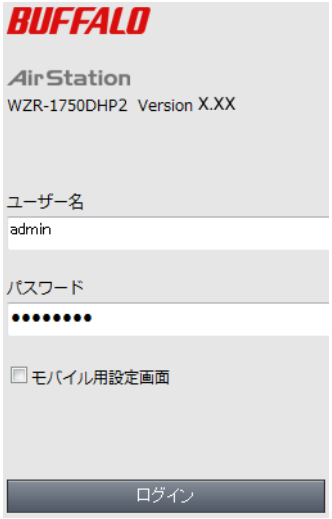


2 第７章の「IPアドレスの固定方法」を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

3 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

4 Internet Explorerを起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。

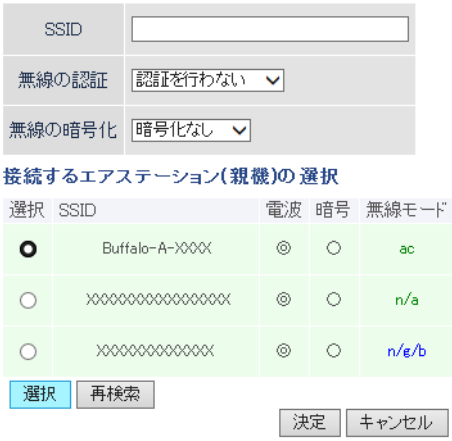
5 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に「password」を入力し、［ログイン］をクリックします。



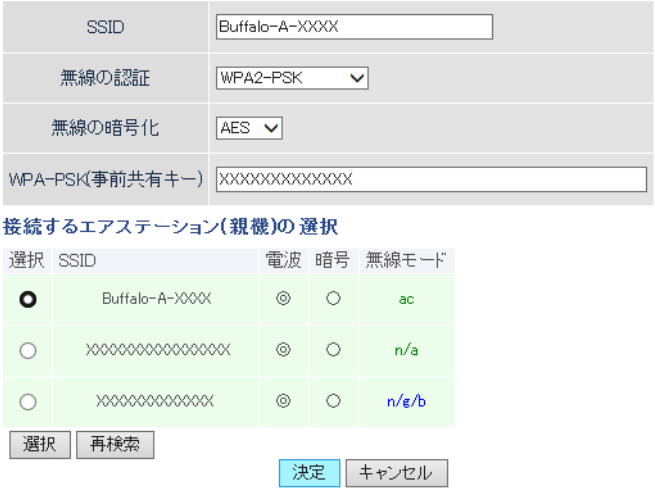
6 「詳細設定」－「無線設定」－「中継機能（WB）」をクリックします。

7 「手動接続をする」をクリックします。

8 接続先の親機を選択し、[選択]をクリックします。



9 接続先の親機の暗号化キーを入力し、[決定]をクリックします。



10 「無線LAN親機設定」欄で、「接続時に中継機能の設定で動作する」のチェックを外し、[設定]をクリックします。

中継機能

中継機能の状態	手動設定
SSID	Buffalo-A-XXXX
セキュリティー	WPA2-PSK AES
5GHz/2.4GHz 選択	自動(5GHz 優先)
無線LAN親機設定	☐ 接続時に中継機能の設定で動作する
本体側AOSSボタン	☑ 使用する

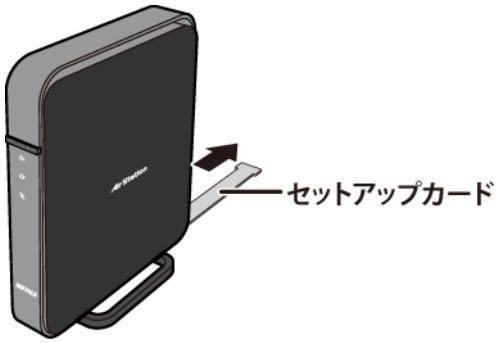
11 画面右上の「ログアウト」をクリックします。

12 設定用パソコンからLANケーブルを取り外します。

以上でステップ２は完了です。
続いてステップ３へ進みます。

ステップ３　中継機を経由して親機に接続している機器のMACアドレスを登録する

1 中継機底面からセットアップカードを取り外します。



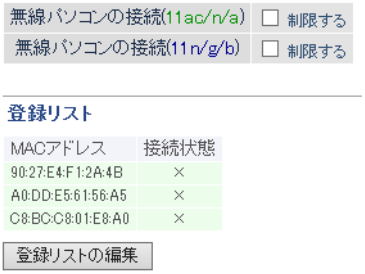
2 お使いの無線機器すべて（設定用パソコンも含みます）を、いったん中継機に接続します。
接続方法は、製品付属の説明書「暗号化キーを入力して無線接続するには」を参照してください。

メモ: 設定用パソコンは、無線で中継機に接続してください。

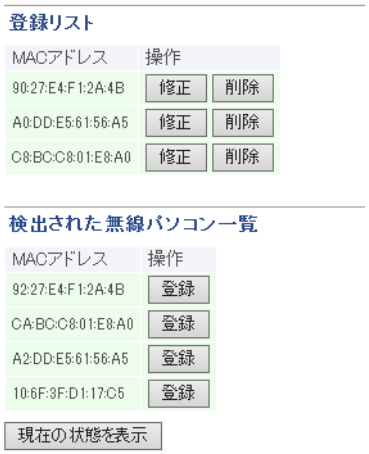
3 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、親機の設定画面を表示します。

4 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

5 「登録リストの編集」をクリックします。

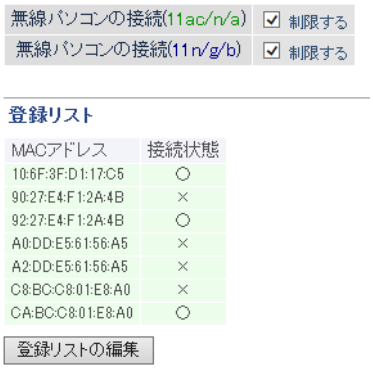


6 「検出された無線パソコン一覧」欄で［登録］をクリックし、表示されているMACアドレスをすべて登録します。



7 「編集を終了して前の画面へ戻る」をクリックします。

8 「無線パソコンの接続」を「制限する」に設定し、[設定]をクリックします。



メモ: 11ac/n/a、11n/g/b両方とも「制限する」に設定してください。

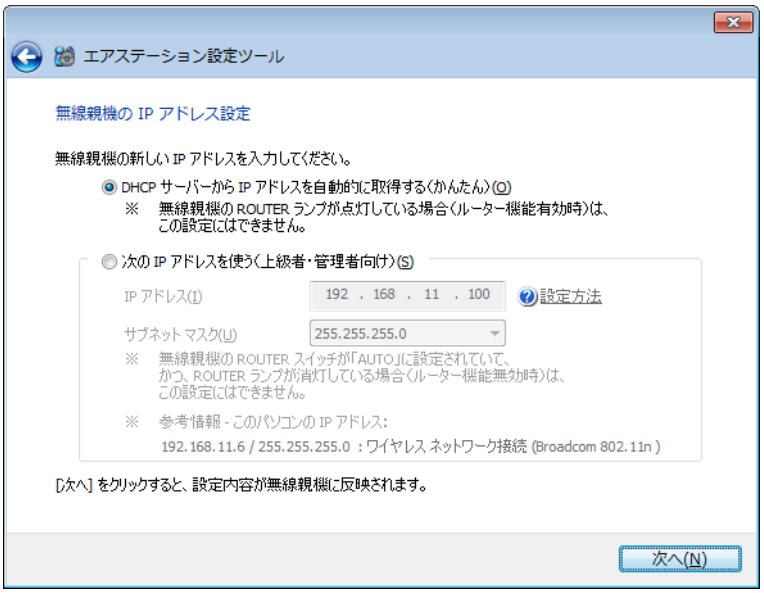
9 画面右上の「ログアウト」をクリックします。

以上でステップ３は完了です。
続いてステップ４へ進みます。

ステップ4　ローミング設定を行う

1　エアステーション設定ツールを起動します。

2　エアステーション設定ツールを使って、中継機のIPアドレスを「192.168.11.100」から「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」に変更します。



メモ: エアステーション設定ツールを使ったIPアドレスの変更については、第3章の「本製品のIPアドレスを変更する」をご参考に設定してください。

3　エアステーション設定ツールを使って、中継機の設定画面を表示します。

4　「詳細設定」－「無線設定」－「中継機能(WB)」をクリックします。

5　「無線LAN親機設定」欄で、「接続時に中継機能の設定で動作する」のチェックを入れて、[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

機器を追加する場合

ここで設定した環境に無線機器や有線機器を追加する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

メモ: 中継機に有線機器を接続して使用する場合は、有線機器のMACアドレスも親機に登録してください。

1 追加したい機器のMACアドレスを調べます。

メモ:

- MACアドレスは、お使いの機器のラベル等でご確認ください。
- 有線機器の場合は、以下の手順２は不要です。確認したMACアドレスをそのまま親機に登録してください。

2 手順１で調べたMACアドレスの２桁目を、以下に従って変更し、その値を控えます。

０ ⇒ ２
４ ⇒ ６
８ ⇒ A
C ⇒ E

例：　お使いの機器のMACアドレスが「00:24:A5:D5:01:06」の場合は、「0**2**:24:A5:D5:01:06」として控えます。

3 親機の設定画面を表示し、手順２で控えたMACアドレスを登録します。

以上で設定は完了です。

通信サービスの種類に応じて帯域幅を制御する（アドバンスドQoS）

本製品は、通信の用途に応じて帯域幅を自動的に制御するアドバンスドQoS機能に対応しています。アドバンスドQoSの設定を有効にすることで、YouTubeなどのビデオストリーミングやFaceTimeなどのボイスチャット、オンラインゲームの通信を途切れにくくすることができます。
ここでは例として、FaceTimeなどによるボイスチャット（テレビ電話）がコマ落ちしないようにする設定例を紹介します。

メモ:

- アドバンスドQoSは、アプリやサービスの特性を自動的に認識して最適な制御を行いますが、すべてのアプリ、サービスに対応しているわけではありません。
- アドバンスドQoS設定は、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「無線LAN」のパネルをクリックします。

3 アドバンスドQoSの設定を行って、［設定］をクリックします。

ここでは以下のように設定します。
アドバンスドQoS - 使用する
おもな用途 - ボイスチャット

メモ:

- おもな用途の各項目は、具体的には以下のようなサービスを示します。
  ビデオの視聴：
  ビデオストリーミング通信（例：YouTube、Huluなど）
  ボイスチャット：
  ボイスチャット通信（例：FaceTimeなど）
  ゲーム：
  オンラインゲームに関する通信（例：PlayStation 3での通信、First Person shooterなど）
  手動設定：
  詳細設定画面で設定した内容に従います。
- 画面右のグラフで、実際の通信優先度がどのように制御されるかをイメージすることができます。
  ：　各カテゴリーの優先度を表します。
  ：　各カテゴリーのアップロード（上り方向）の速度を表します。
  ：　各カテゴリーのダウンロード（下り方向）の速度を表します。

ビデオ：
YouTube、Huluなどのビデオストリーミング通信を表します。
会議：
FaceTimeなどのボイスチャット通信を表します。
ゲーム：
PlayStation 3での通信、First Person shooterなどのオンラインゲームに関する通信を表します。
オーディオ：
SHOUTcastなどのオーディオストリーミング通信を表します。
ブラウジング：
インターネットブラウザーを使用したブラウジング全般に関する通信を表します。
ダウンロード：
P2Pアプリケーションなど、上記の5項目以外の全般的なダウンロードに関する通信を表します。
（HTTP、FTPサーバーからのダウンロードは、「ブラウジング」に分類されます）

以上で設定は完了です。

インターネット有害サイトへのアクセスを制限する(「i-フィルター」)

「i-フィルター」機能を使用して、インターネット有害サイトへのアクセスを制限する方法を説明します。

メモ:

- 「i-フィルター」機能を使用するには、ユーザー登録が必要です。初回登録時、トライアル期間として60日間無料で使用できます。
- トライアル期間終了後、継続して使用する場合は、「i-フィルター」サービスページで継続契約(有料)してください。

i-フィルター®
for BUFFALO™

- 「i-フィルター」機能は、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。
- ConnectSafeとは同時には使用できません。

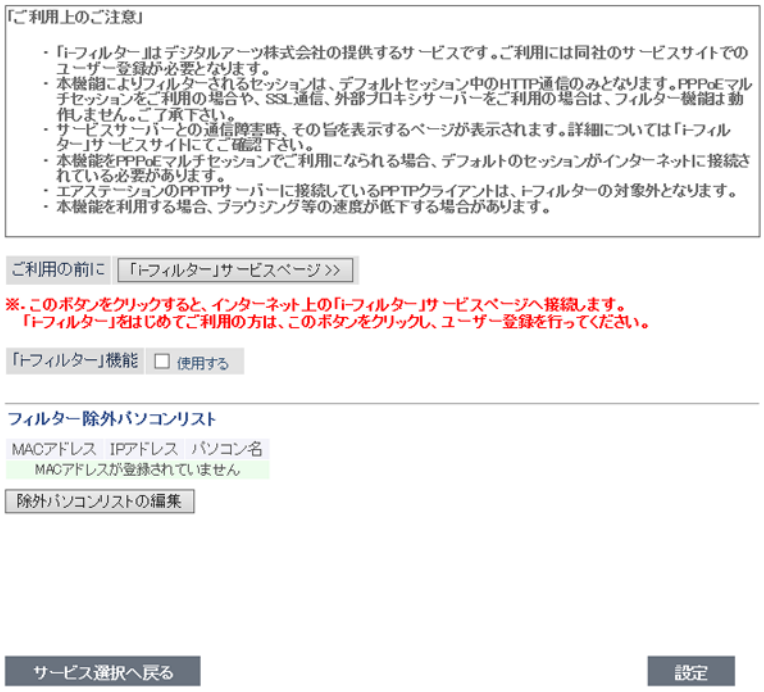
1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」のパネルをクリックします。

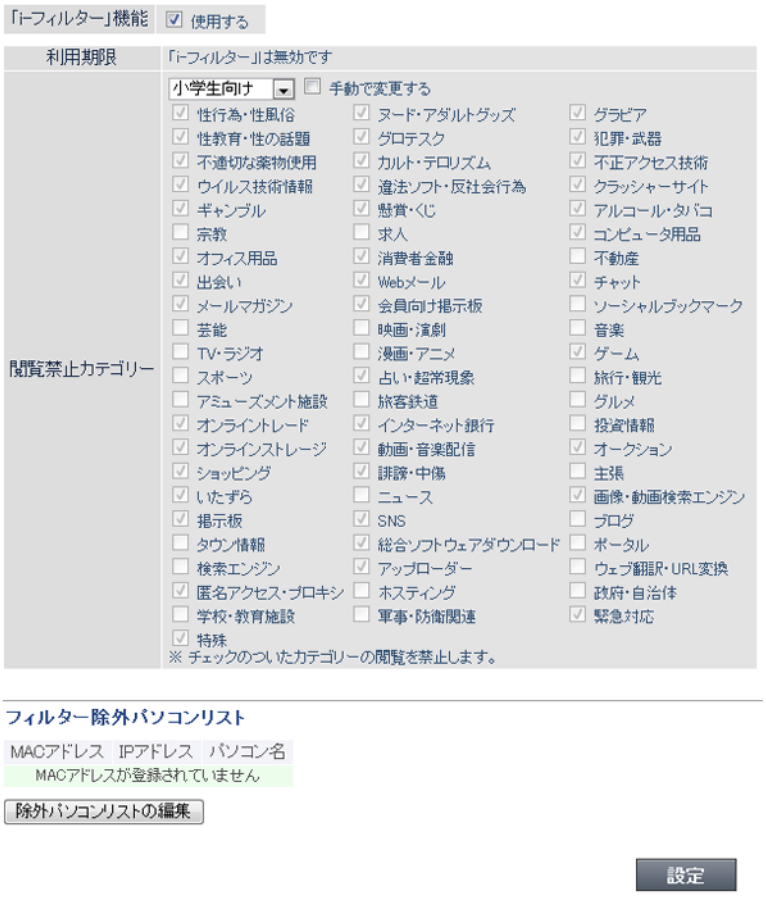
3 「セキュリティー」−「有害サイトブロック」−「i-フィルター」をクリックします。

メモ:「i-フィルター」が表示されない場合は、[サービス選択へ戻る]をクリックしてください。

4 [「i-フィルター」サービスページ>>]をクリックすると、ユーザー登録画面が表示されます。画面にしたがってユーザー登録を行ってください。



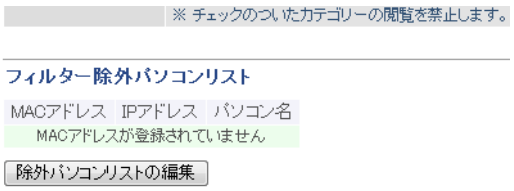
5 「「i-フィルター」機能」の「使用する」にチェックを入れ、「閲覧禁止カテゴリー」を設定し、[設定]をクリックします。



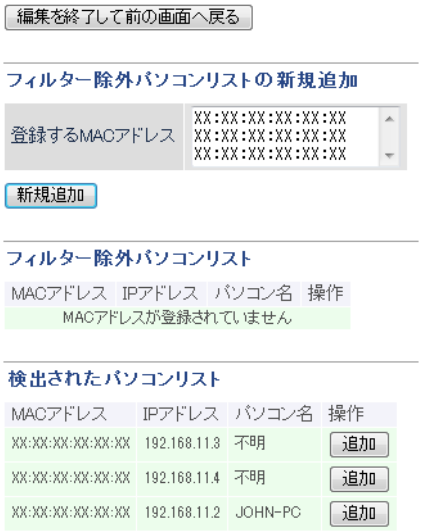
メモ:

- 「「i-フィルター」機能」の「使用する」のチェックを外すには、管理者パスワードを設定する必要があります。「詳細設定」－「管理」－「システム設定」から設定してください。
- 「有効期間」は、「「i-フィルター」機能が有効」かつ「ユーザー登録後、契約期間が取得済み」の場合に表示されます。

6 「i-フィルター」機能を適用しないパソコンがある場合は、[除外パソコンリストの編集]をクリックします。



7 「登録するMACアドレス」を入力して、[新規追加]をクリックします。



メモ:

- MACアドレスは2桁ずつ、コロン(:)で区切って入力します。
- 複数のMACアドレスを入力する場合は、スペースで区切って入力します。
- 「検出されたパソコンリスト」に「i-フィルター」を適用しないパソコンがある場合は、[追加]をクリックして追加できます。

8 [編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

以上で設定は完了です。

インターネット有害サイトへのアクセスを制限する（ConnectSafe）

ConnectSafeを使用して、インターネット有害サイトへのアクセスを制限する方法を説明します。

メモ:

- ConnectSafeを使用するには、シマンテック社の利用規約に同意する必要があります。利用契約に同意すると、無料でご利用いただけます。
- ConnectSafeは、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。
- 「i-フィルター」機能とは同時には使用できません。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」のパネルをクリックします。

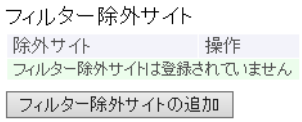
3 「セキュリティー」－「有害サイトブロック」－「ConnectSafe」をクリックします。

メモ:

- ConnectSafeが表示されない場合は、［サービス選択へ戻る］をクリックしてください。
- 以降の設定を行うには、ConnectSafeの設定画面で「利用規約」を確認し、「利用規約に同意する」にチェックを入れる必要があります。

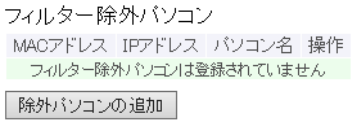
4 フィルターレベルを選択し、画面下部の［設定］をクリックします。

5 フィルターを適用しないサイトがある場合は、[フィルター除外サイトの追加]をクリックします。

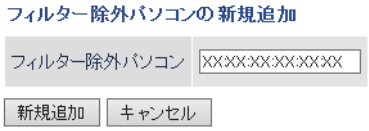


6 「フィルター除外サイト」にURLを入力して、[新規追加]をクリックします。

7 フィルターを適用しない機器がある場合は、[除外パソコンの追加]をクリックします。



8 「フィルター除外パソコン」にMACアドレスを入力して、[新規追加]をクリックします。



メモ: MACアドレスは2桁ずつ、コロン(:)で区切って入力します。

9 画面下部の[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

インターネットに接続できる時間を制限する（アクセスコントロール）

アクセスコントロール機能を使用すると、本製品に登録した機器がインターネットに接続できる時間を制限できます。

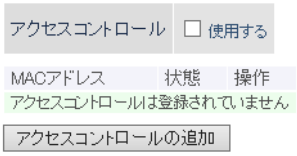
メモ: アクセスコントロールは、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」のパネルをクリックします。

3 「セキュリティー」－「アクセスコントロール」をクリックします。

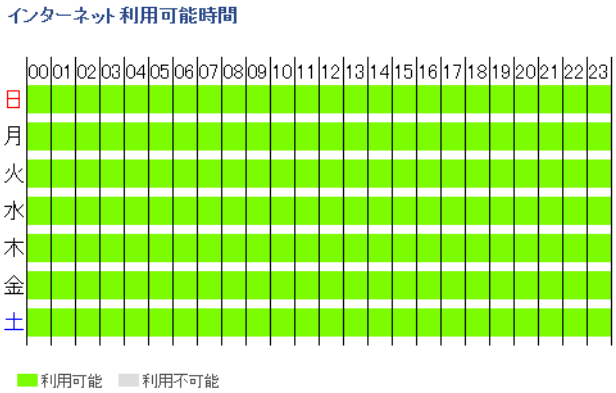
4 ［アクセスコントロールの追加］をクリックします。

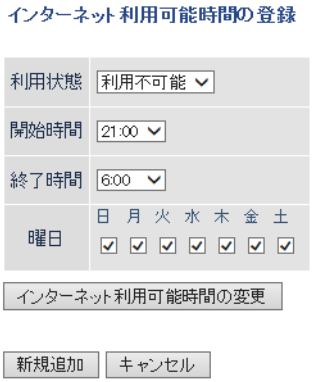


5 「対象のパソコン」欄に、接続を制限したい機器のMACアドレスを入力します。

メモ: MACアドレスは2桁ずつ、コロン（:）で区切って入力します。

6 「インターネット利用可能時間の登録」でインターネットの利用可能/利用不可能時間を設定します。



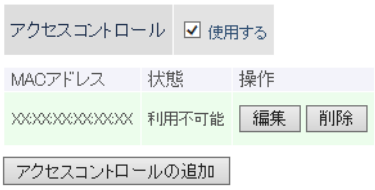


メモ:

- 例えば、21:00～06:00を利用不可にする場合は、利用状態を「利用不可」、開始時間を「21:00」、終了時間を「06:00」、曜日を「日、月、火、水、木、金、土」に設定し、[インターネット利用可能時間の変更]をクリックします。
- 時間帯をさらに細かく調整したい場合は、利用状態、開始/終了時間を設定して、[インターネット利用可能時間の変更]をクリックする操作を繰り返します。

7 [新規追加]をクリックします。

8 アクセスコントロールの設定画面に戻りますので、アクセスコントロールの「使用する」にチェックを入れて、画面下部の[設定]をクリックします。



以上で設定は完了です。

ポートを開放する

ポート変換設定を行うと、インターネットゲームを楽しんだり各種サーバー公開することができます。

メモ:

- サーバーを公開する場合、固定グローバルIPアドレスの取得およびプロバイダーと別途契約が必要な場合があります。
- 手順はお使いの環境によって異なります。
  ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合は、以下を参照してください。
  利用するポート番号が不明な場合は、後述の「利用するポート番号が不明な場合」を参照してください。

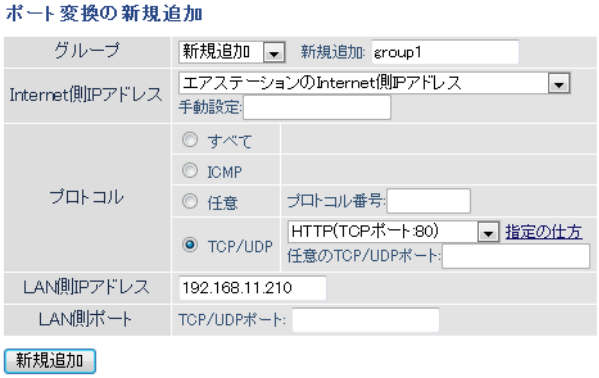
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合

メモ: 本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「セキュリティー」－「ポート変換」をクリックします。

3 各項目を設定し、[新規追加] をクリックします。



グループ:

登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加] を選択すると、新たなグループを作成し、そのグループに追加されます。新規追加時には半角英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。

Internet側IPアドレス:

公開する各種サーバーの固定グローバルIPアドレスを設定します。Internet側IPアドレスをPPPoEサーバーから取得している場合は各PPPoE接続先のInternet側IPアドレスを設定します。手動設定を選択したときは、手動設定欄にIPアドレスを指定する必要があります。プロバイダーから複数の固定グローバルIPアドレス指定を受けている場合には、「手動設定」で本製品のInternet側IPアドレスに設定してあるアドレス以外のグローバルIPアドレスを設定することが可能です。

プロトコル:

アドレス変換機能を使用するポートの種類を選択します。[TCP/UDP] を選択したときは、ポートを設定します。

LAN側IPアドレス：

インターネットからのアクセスの宛先となるプライベートIPアドレスを設定します。

LAN側ポート：

変換プロトコルでTCP/UDPを指定し、単独のポート番号を指定したときは、LAN側のポート番号を変更することができます。

以上の設定の組み合わせにより、最大32種類の組み合わせを設定できます。

メモ: WWW（HTTP）サーバーを公開する場合は、以下のように設定すると、インターネットからのアクセスを任意のLAN側のWWWサーバーIPアドレスに転送できます。

グループ：
任意の名称（例：group1）を入力します。

Internet側IPアドレス：
［エアステーションのInternet側IPアドレス］を選択します。

プロトコル：
TCP/UDPを選択し、［HTTP（TCPポート：80）］を選択します。（任意のTCP/UDPポートは空欄）
LAN側IPアドレス/LAN側ポート：
LAN側IPアドレスは、サーバーIPアドレス（例：192.168.11.210）を入力します。LAN側ポートは、空欄にします。

1 設定内容が登録されていることを確認します。

ポート変換登録情報

グループ	Internet側IPアドレス LAN側IPアドレス	プロトコル LAN側ポート	操作
group1	エアステーションのInternet側IPアドレス 192.168.11.210	HTTP(TCPポート:80) HTTP(TCPポート:80)	OFF 修正 削除

以上で設定は完了です。

利用するポート番号が不明な場合

メモ: 本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「セキュリティー」－「DMZ」をクリックします。

3 DMZのアドレスを設定し、［設定］をクリックします。

DMZのアドレス 192.168.11.210

※設定画面を表示している機器のIPアドレス［192.168.11.2］

メモ:

- DMZのアドレスは、インターネット側から送られてきたデータの宛先ポートが不明な場合に、そのデータが転送されるLAN上のIPアドレスです。ここで設定されたIPアドレスの機器でのみ、ネットワークゲームなどを利用できます。
- ポート変換の設定で［LAN側IPアドレス］を設定した場合は、そちらの設定が優先されます。
- DMZを使用する場合は、機器側のIPアドレスをここで設定した値に固定する必要があります。
- 使用するソフトや契約しているプロバイダーによっては、DMZを設定してもソフトウェアが動作しない場合があります。
- DMZに設定した機器は、他のパソコンに比べてセキュリティーが低下するため、重要なデータなどをその機器に保存しないことをおすすめします。
- 安全のため、ファイアウォールの設定画面で、「NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する」を有効にしておくことをおすすめします。

以上で設定は完了です。

本製品のIPアドレスを変更する

当社ホームページに掲載しているエアステーション設定ツールを使用すると、本製品のIPアドレスをかんたんに変更することができます。ここでは、エアステーション設定ツールを使ったIPアドレスの変更方法について説明します。

Windows 8.1/8/7/Vista/XPをお使いの場合

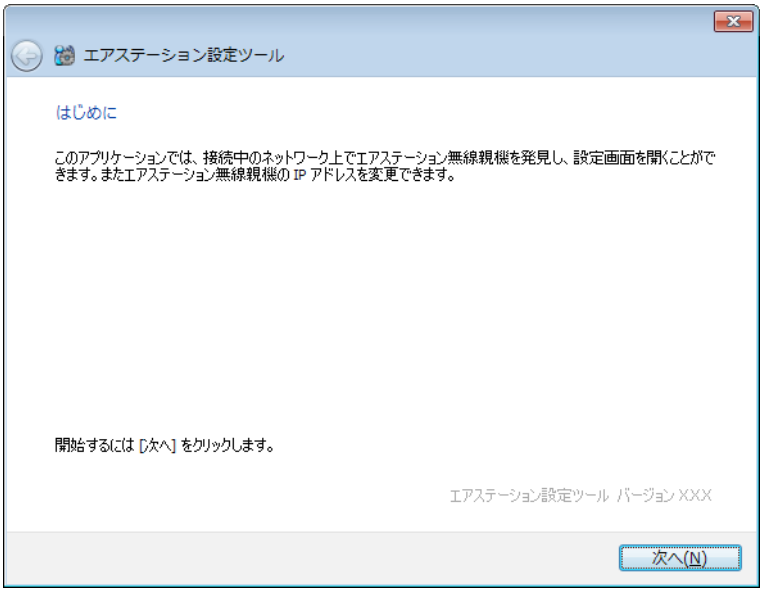
メモ:

- エアステーション設定ツールがインストールされていない場合は、第２章の「エアステーション設定ツールのインストール」を参照してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面からも変更できます。

1 エアステーション設定ツールを起動します。

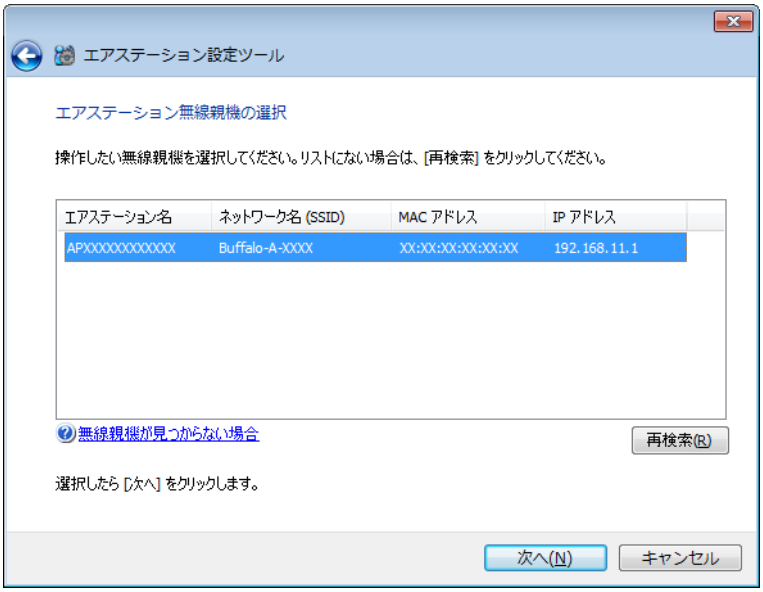
（Windows 8.1/8の場合は、「スタート」画面にある［エアステーション設定ツール］を選択します。Windows 7/Vista/XPの場合は、［スタート］－［すべてのプログラム］－［BUFFALO］－［エアステーションユーティリティ］－［エアステーション設定ツール］を選択します）

2 ［次へ］をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプタが搭載されている場合、「２つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプタを取り外すか無効にしてから［再実行］をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

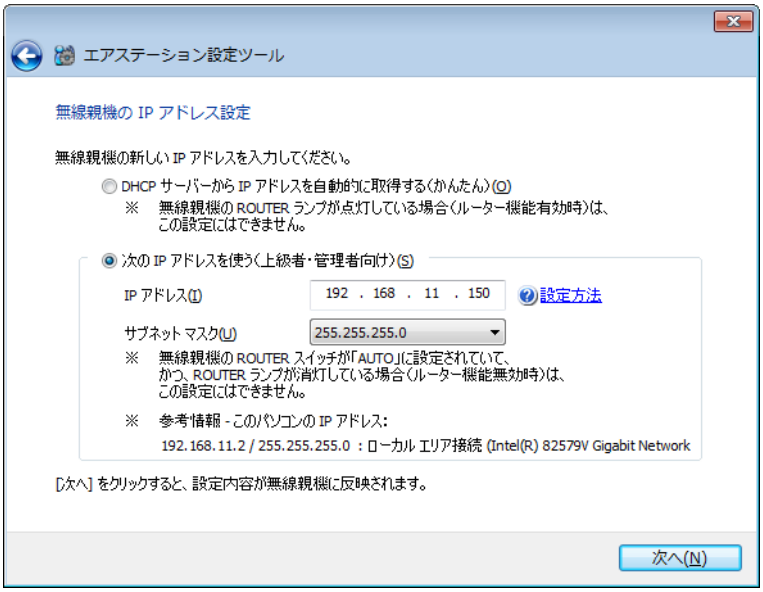


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。

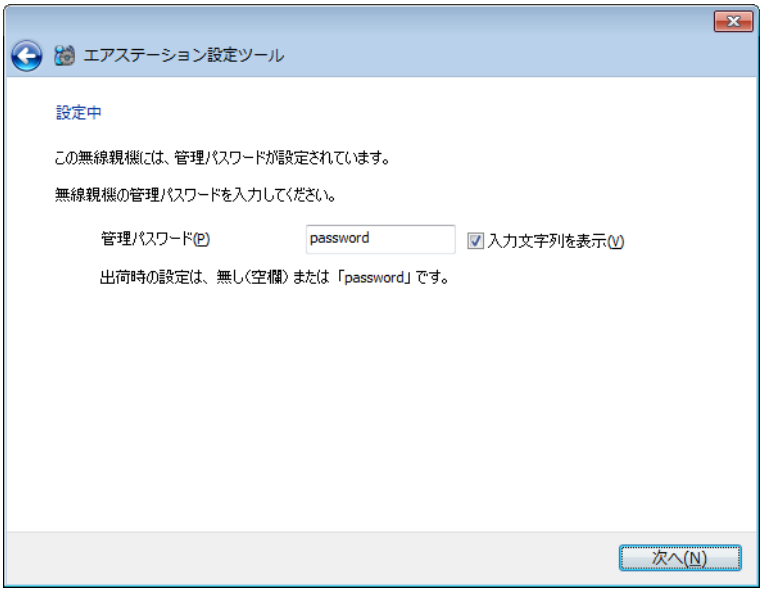
メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「このパソコンのIPアドレス設定」という画面が表示されます。画面の指示に従ってIPアドレスを設定してください。

5 新しく設定するIPアドレスを入力して[次へ]をクリックします。

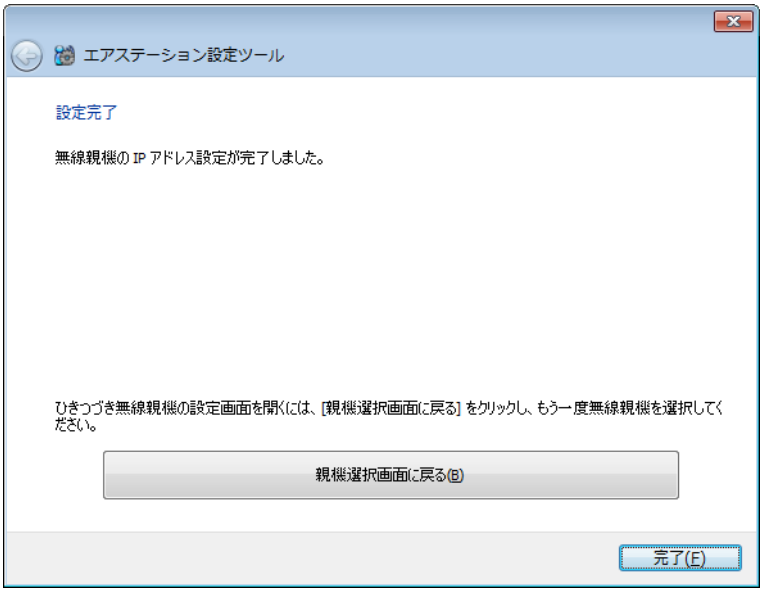


メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのパソコンと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[はい]をクリックしてください。

6 本製品に設定されているパスワード(出荷時状態では「password」)を入力し、[次へ]をクリックします。



7 ［完了］をクリックします。



以上で設定は完了です。

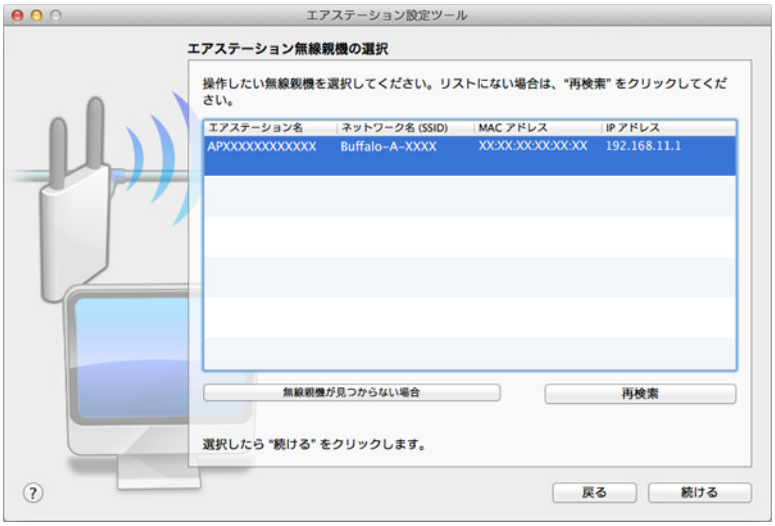
Mac OSをお使いの場合

ここでは、Mac OS X 10.8の場合を例に説明します。

1 当社ホームページからダウンロードしたエアステーション設定ツールを実行します。

2 [続ける]をクリックします。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 ［この無線親機のIPアドレスを設定する］をクリックします。

5 新しく設定するIPアドレスを入力して［続ける］をクリックします。

メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのMacと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、［無視して続ける］をクリックしてください。

6 本製品に設定されているパスワード（出荷時状態では「password」）を入力し、[続ける]をクリックします。

7 [終了]をクリックします。

以上で設定は完了です。

フレッツ回線向けの設定をする（PPPoEマルチセッション）

本製品のPPPoEマルチセッション機能を使用して、1つの回線契約でプロバイダーとフレッツ回線向けサービス情報サイトに同時に接続するには、以下の設定を行ってください。

メモ:

- NTT東日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年6月1日より、「サービス情報サイト」に名称が変更されました。
- NTT西日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年12月28日をもってサービス終了となりました。

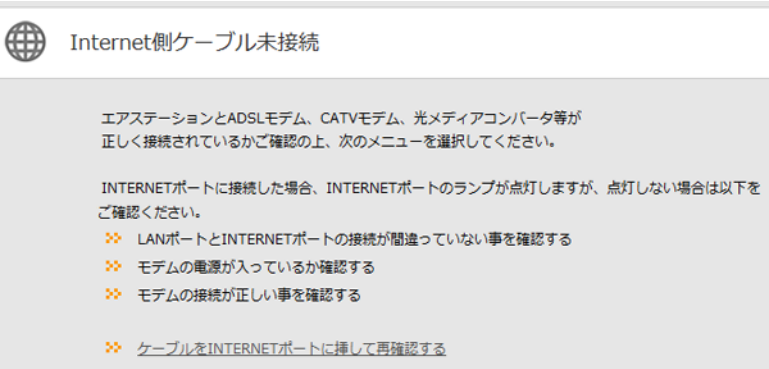
1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 本製品背面のINTERNET端子（青色の端子）からLANケーブルを取り外します。

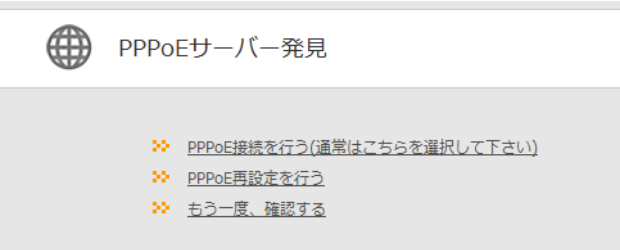
3 設定画面右上の に×マークが付くことを確認します。

4 をクリックします。

5 手順2で抜いたLANケーブルを、本製品背面のINTERNET端子（青色の端子）に再度接続し、「ケーブルをINTERNETポートに挿して再確認する」をクリックします。



6 「PPPoE再設定を行う」をクリックします。



7 お使いの回線の種別に合わせて「プロバイダー情報の設定」を選択します。

フレッツ 光ネクストをお使いの方は「フレッツ 光ネクスト」を、それ以外の回線をお使いの方は、「Bフレッツ/フレッツ・ADSL」を選択してください。

8 「フレッツ 光ネクストサービス情報サイト」欄（フレッツ 光ネクスト用）または「サービス情報サイト」欄（Bフレッツ/フレッツ・ADSL用）で、「NTT東日本」または「NTT西日本」を選択し、［進む］をクリックします。

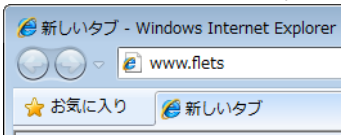
メモ: NTT西日本のサービスが終了しているため、「サービス情報サイト」欄では、「NTT西日本」は選択できません。

9 「接続成功です」と表示されたら、［設定完了］をクリックします。

10 Webブラウザーを起動します。

11 Bフレッツ/フレッツ・ADSLをご契約の方は、アドレス欄に「www.flets」と入力して、Enterキーを押します。

フレッツ 光ライト/フレッツ 光ネクストをご契約の方は、アドレス欄に「v4flets-east.jp」(NTT東日本向け)または「v4flets-west.jp」(NTT西日本向け)と入力して、Enterキーを押します。



12 サービス情報サイトが表示されます。

以上で設定は完了です。

Bフレッツなどで固定IPサービスを利用する（IP Unnumbered）

本製品は、IP Unnumbered機能に対応しています。IP Unnumbered機能を使用することで、プロバイダーから配布された複数のグローバルIPアドレスを本製品に接続した機器で使用できます。ここでは例として、以下の場合の設定例を説明します。

メモ: 本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

例：プロバイダーから「123.45.67.8（サブネットマスク255.255.255.248）」（固定IPアドレス8個）というIPアドレスが割り当てられた場合

プロバイダーから配布された複数のグローバルIPアドレスを本製品に接続した機器で使用できます。ここでは例として、以下の場合の設定例を説明します。

Internet側アドレス（自動設定）‐123.45.67.8（ネットワークアドレス）
LAN側アドレス（手動設定）‐123.45.67.9（ゲートウェイ）
1台目のパソコン（手動設定）‐123.45.67.10（グローバルIPアドレス）
・
・
5台目のパソコン（手動設定）‐123.45.67.14（グローバルIPアドレス）
ブロードキャストアドレス‐123.45.67.15（ブロードキャストアドレス）
サブネットマスク‐255.255.255.248

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

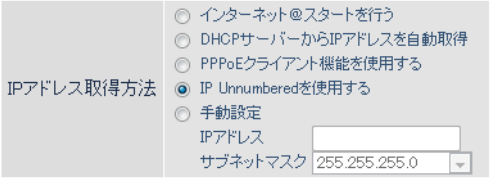
1 本製品背面の切り替えスイッチを「AP」側に設定します。

2 本製品背面のMODEボタンを押して、動作モードを「ルーターモード」に切り替えます。

3 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

4 「詳細設定」－「Internet」－「Internet」をクリックします。

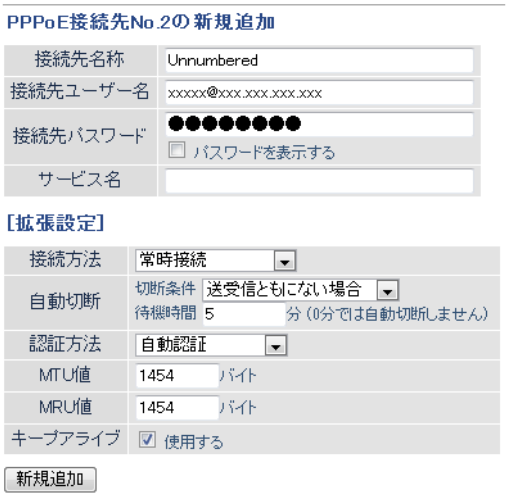
5 「IP Unnumberedを使用する」を選択し、[設定]をクリックします。



6 設定が保存されたら、「詳細設定」－「Internet」－「PPPoE」をクリックします。

7 「PPPoE接続先リスト」欄にある、[接続先の編集]をクリックします。

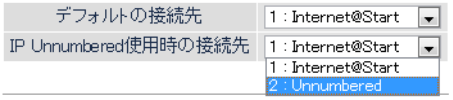
8 接続先を登録し、[新規追加]をクリックします。



メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

9 接続先が登録されたら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

10 「IP Unnumbered使用時の接続先」を選択して、[設定]をクリックします。



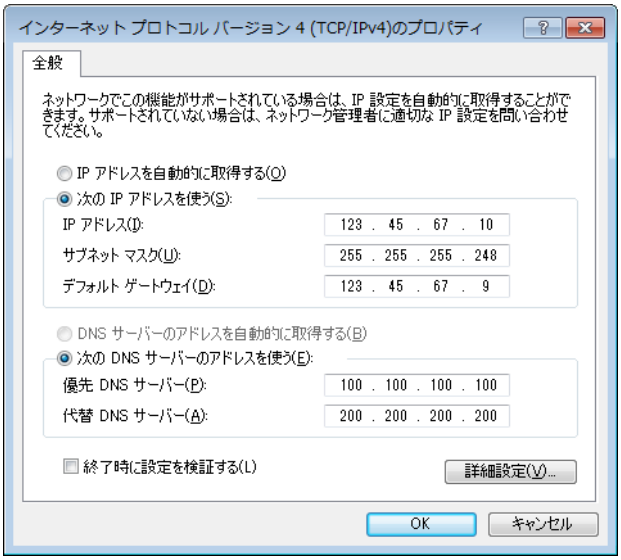
11 設定が保存されたら、「詳細設定」－「LAN」－「LAN」をクリックします。

12 本製品のLAN側IPアドレス（IP Unnumbered用）の設定をして、[設定]をクリックします。

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

13 「LAN側IPアドレスを変更します」と表示されたら、[設定]をクリックします。

14 プロバイダーから送られてきた資料を参照して、本製品に接続するパソコンのIPアドレスを設定します。



以上で設定は完了です。

ルーター機能を停止する

本製品のルーター機能を使用しないで、アクセスポイントとして使用する場合は、以下の手順で行います。

メモ:
本製品のルーター機能をオフにすると、本製品のIPアドレスが「192.168.11.100」に変更されます。また、以下の機能が無効になりますのでご注意ください。

- DHCPサーバー（IPアドレス自動割当）機能
- 静的IPマスカレード（アドレス変換）機能
- パケットフィルター機能
- PPPoEマルチセッション機能
- IP Unnumbered機能

1 本製品背面の切り替えスイッチを「AP」側に設定します。

2 本製品背面のMODEボタンを押して、前面のROUTERランプが消灯することを確認します。
（消灯しない場合は、もう一度MODEボタンを押してください）

3 本製品に接続している機器を再起動します。

以上で設定は完了です。

本製品のファームウェアバージョンを確認する

本製品のファームウェアのバージョンは、以下の手順で確認できます。

1 第２章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」をクリックします。

3 ファームウェアのバージョンを確認します。

製品名	XXX-XXXXXXX Version X.XX (RX.XX/BX.XX.XXX-X.XX-X.XX)
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX

メモ: 製品名欄の「Version x.xx」の部分がファームウェアのバージョンです。

メモ:

第4章 各種ソフトウェアの使いかた

本章では、本製品に対応した各種ソフトウェアの使いかたについて説明します。

エアステーション設定ツールの使いかた

エアステーション設定ツールは、本製品の設定画面の表示や本製品のIPアドレスを変更できるソフトウェアです。ご使用方法は、本書の以下の項目を参照してください。

設定画面の表示（Windows）：
第２章の「設定画面を表示する」の「Windows 8.1/8/7/Vista/XPをお使いの場合」

設定画面の表示（Mac）：
第２章の「設定画面を表示する」の「Mac OSをお使いの場合」

IPアドレスの設定（Windows）：
第３章の「本製品のIPアドレスを変更する」の「Windows 8.1/8/7/Vista/XPをお使いの場合」

IPアドレスの設定（Mac）：
第３章の「本製品のIPアドレスを変更する」の「Mac OSをお使いの場合」

デバイスサーバー設定ツールの使いかた

本製品のUSB端子につないだプリンターをネットワーク内の各パソコンから使用するためのソフトウェアです。ご使用方法は、当社ホームページに掲載のマニュアルを参照してください。

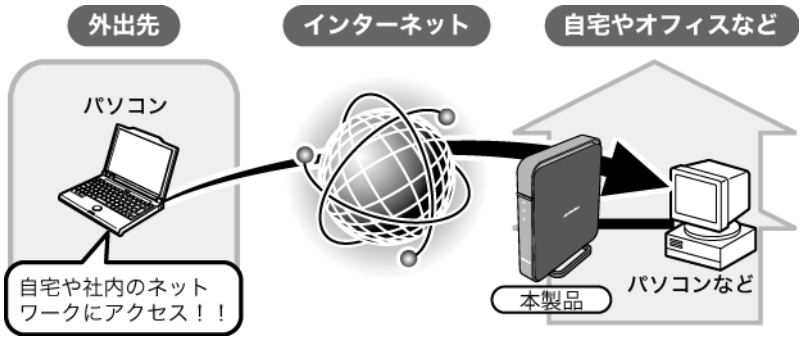
デバイスサーバー設定ツールの使いかた：
http://buffalo.jp/support_s/guide/manual/lan/ldv2uh/ja/ldv2uh.html

第5章 PPTPサーバー機能

本章では、外出先から自宅や社内のネットワークにアクセスするためのPPTPサーバー機能について説明します。

PPTPサーバー機能とは

PPTPサーバー機能を使用すると、外出先から自宅や社内のネットワークにアクセスできるようになります。例えば、外出先から社内のファイルサーバーに保存しているデータを取り出したり、自宅のパソコンを遠隔操作したりすることができます。



メモ:

(1) PPTPサーバー機能を使用する際、ダイナミックDNSをご利用いただくことを推奨します。ダイナミックDNSの設定については、本章の「外出先から接続するための準備をする」を参照してください。

(2) 以下の環境ではPPTPサーバー機能を使用できません。

- プロバイダーから割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合
- 本製品がブリッジモード（ルーター機能オフ）で動作している場合
- ルーター機能を内蔵したモデム等に本製品を接続して使用する場合（※）
  ※モデムのルーター機能を無効にするなど、設定を変更すると、PPTPサーバー機能が使用できる場合があります。

外出先から接続するための準備をする

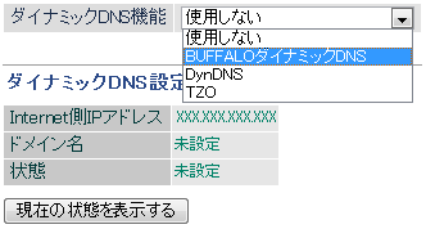
外出先から接続するための準備をします。
ここでは「BUFFALOダイナミックDNSサービス」(有料)を使った方法を例に説明します。

メモ:
本製品では、「BUFFALOダイナミックDNSサービス」以外に、「DynDNS」、「TZO」がご利用いただけます。「DynDNS」や「TZO」をご利用いただく場合は、以下の設定を行う前に、これらのサービスへの登録を完了させておいてください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「Internet」－「DDNS」をクリックします。

3 ダイナミックDNS機能で「BUFFALOダイナミックDNS」を選択します。



メモ: DynDNSやTZOを使用する場合は、DynDNSやTZOへの登録をあらかじめ行ってから、ここで指定してください。

4 BUFFALOダイナミックDNSサービスを使用する場合は、[登録/設定変更を行う]をクリックし、画面に従って登録/設定変更を行います。

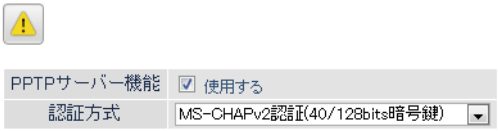
DynDNSやTZOを使用する場合は、「ユーザー名」、「Emailアドレス」、「パスワード」、「TZOキー」、「ホスト名」、「ドメイン名」、「IPアドレス更新周期」などを設定し、[設定]をクリックします。

メモ:

- BUFFALOダイナミックDNSサービスは、1ヶ月間の無料トライアル期間があります。
- 登録後、[登録情報を削除する]をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。再度登録するには、登録ユーザーIDとパスワードが必要となります。

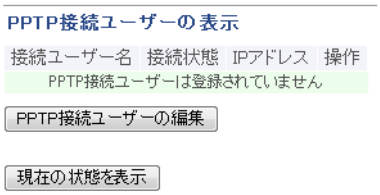
5 「詳細設定」－「Internet」－「PPTP」をクリックします。

6 PPTPサーバー機能で「使用する」にチェックを入れ、[設定]をクリックします。

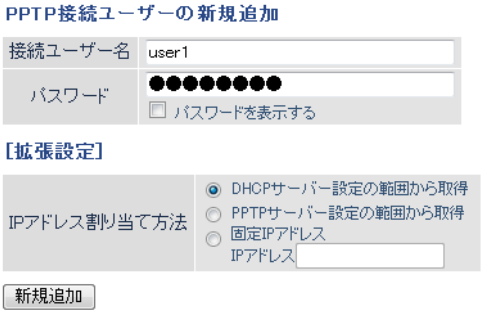


メモ: LAN側IPアドレスが192.168.11.*に設定されていて、外出先でのIPアドレスも192.168.11.*に設定されていると、IPアドレスが重複して自宅や社内のネットワークにアクセスできないことがあります。
このような場合は、「詳細設定」－「LAN」－「LAN」で本製品のLAN側IPアドレスを変更してください。

7 [PPTP接続ユーザーの編集]をクリックします。



8 ユーザー名とパスワードを入力して、[新規追加]をクリックします。



メモ: 設定したユーザー名、パスワードは外出先から接続する際に使用します。

9 ユーザー名とパスワードが追加されたら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

以上で設定は完了です。

外出先で使用する機器の設定をする

Windows 8.1/8をお使いの場合

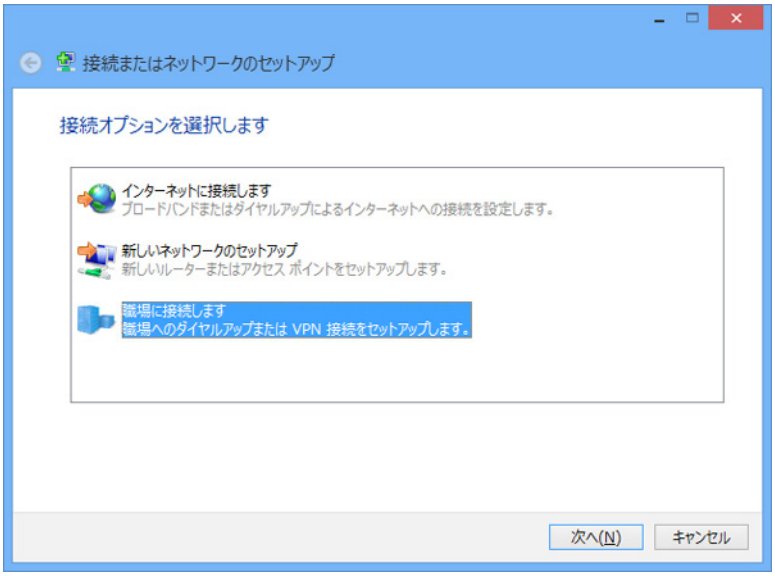
1 コントロールパネルを表示します。

（パソコンの場合は、画面左下を右クリックし、[コントロールパネル]を選択します。タブレットでは、画面右端を左にスワイプし[検索]をタップした後、[コントロールパネル]を選択します。）

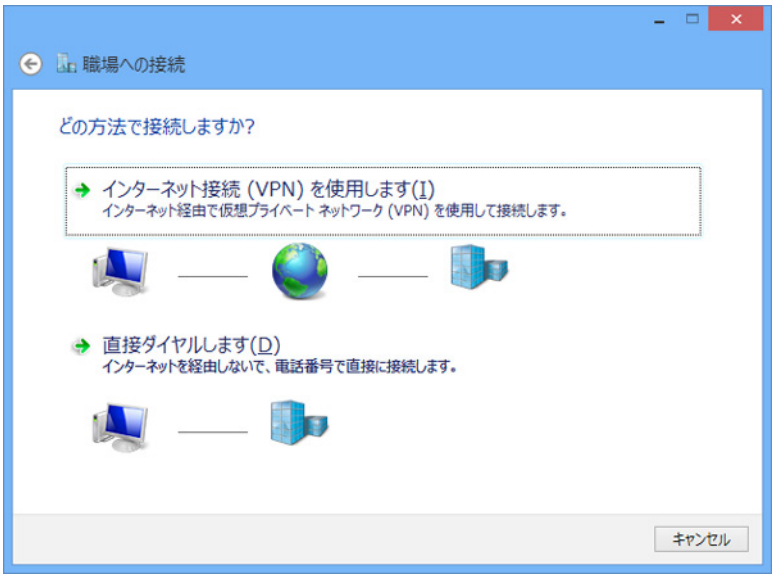
2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。

3 [新しい接続またはネットワークのセットアップ]をクリックします。

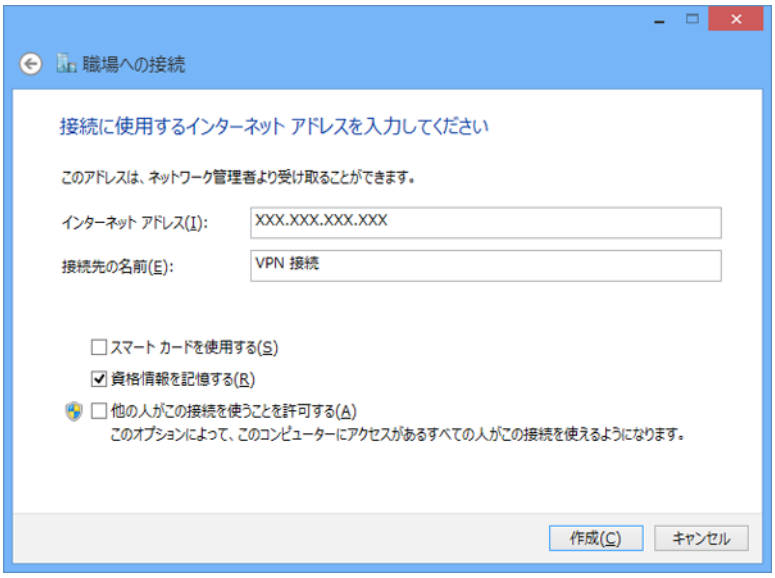
4 「職場に接続します」を選択して、[次へ]をクリックします。



5 「インターネット接続(VPN)を使用します」をクリックします。



6 ダイナミックDNSサービスで取得したURLと接続先の名前（任意の名称）を入力し、[作成]をクリックします。



メモ: バッファロー以外のダイナミックDNSサービスを利用している場合や固定IPアドレスをご利用の場合は、「インターネットアドレス」欄にダイナミックDNSのホスト名やIPアドレスを入力してください。

以上で設定は完了です。

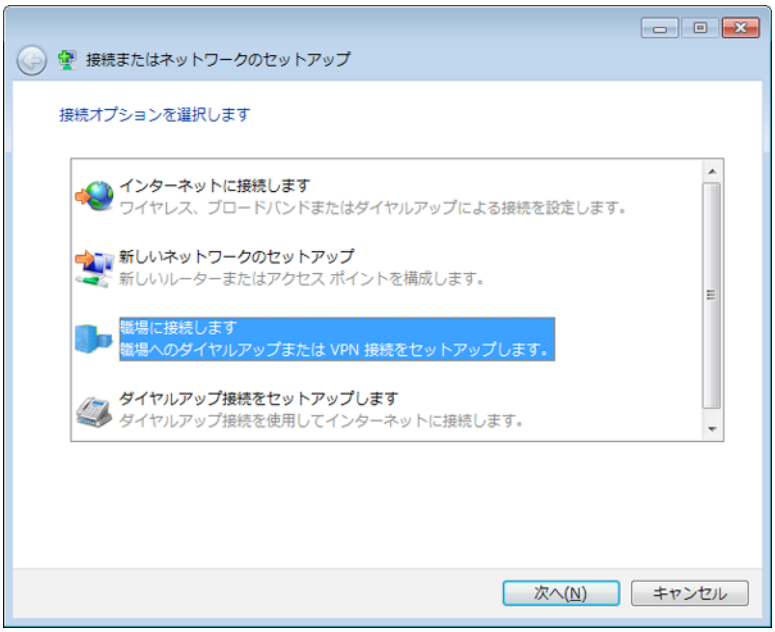
Windows 7/Vistaをお使いの場合

1 コントロールパネルを表示します。
（[スタート]－[コントロールパネル]をクリックします）

2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。

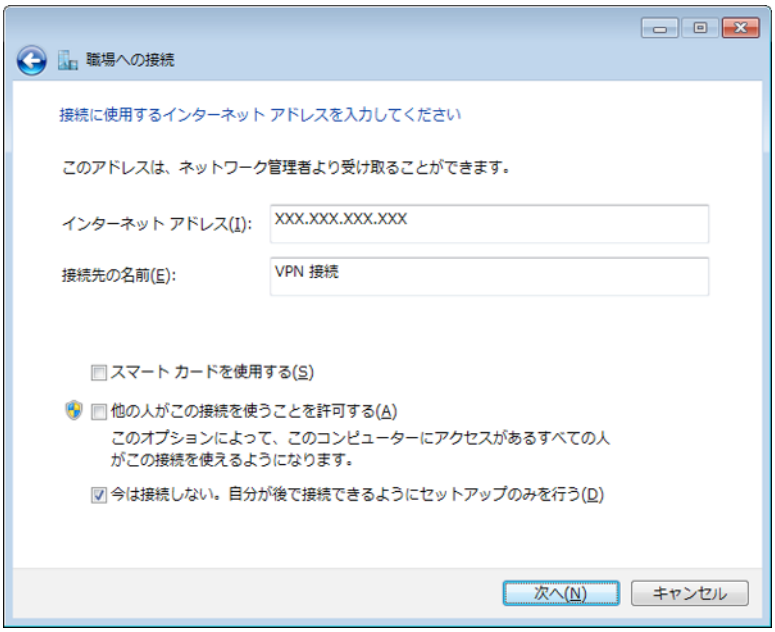
3 ［(新しい)接続またはネットワークのセットアップ］をクリックします。

4 「職場に接続します」を選択して、［次へ］をクリックします。



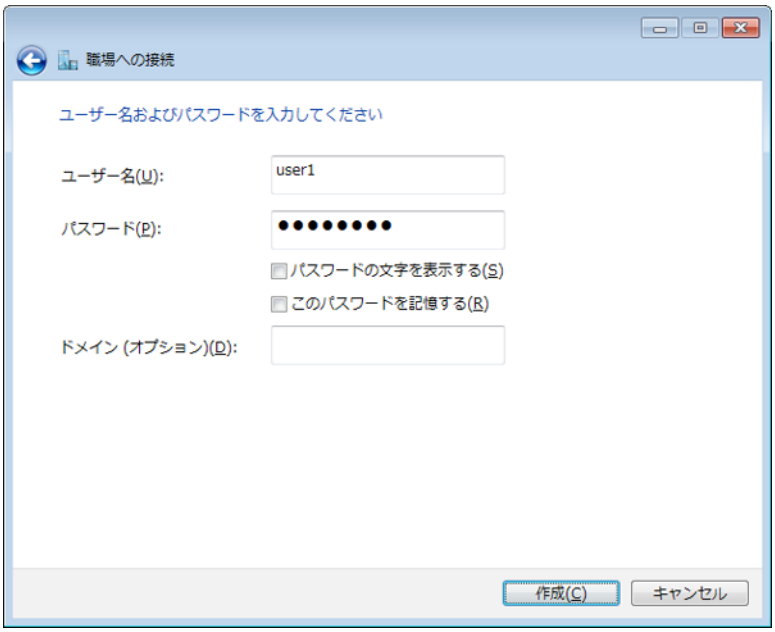
5 「インターネット接続(VPN)を使用します」をクリックします。

6 ダイナミックDNSサービスで取得したURLと接続先の名前(任意の名称)を入力し、「今は接続しない。自分が後で接続できるようにセットアップのみを行う」にチェックを入れて、[次へ]をクリックします。



メモ: バッファロー以外のダイナミックDNSサービスを利用している場合や固定IPアドレスをご利用の場合は、「インターネットアドレス」欄にダイナミックDNSのホスト名やIPアドレスを入力してください。

7 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順８で設定したユーザー名とパスワードを入力し、[作成]をクリックします。



8 「接続の使用準備ができました」と表示されたら、[閉じる]をクリックします。

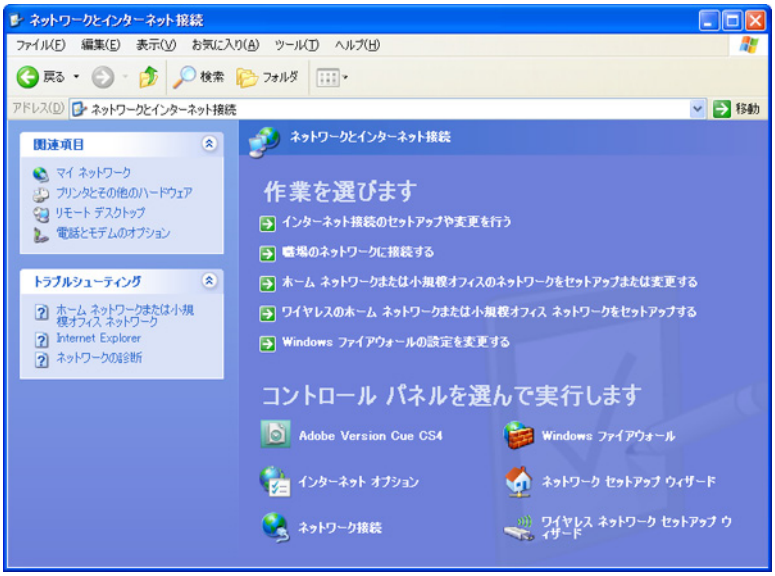
以上で設定は完了です。

Windows XPをお使いの場合

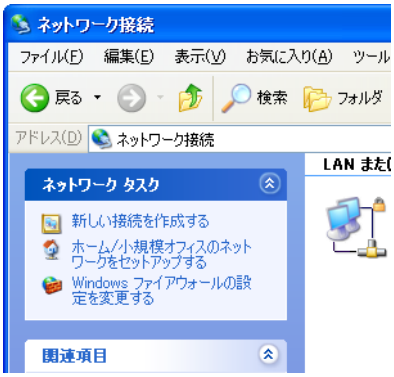
1 コントロールパネルを表示します。
（[スタート]－[コントロールパネル]をクリックします）

2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

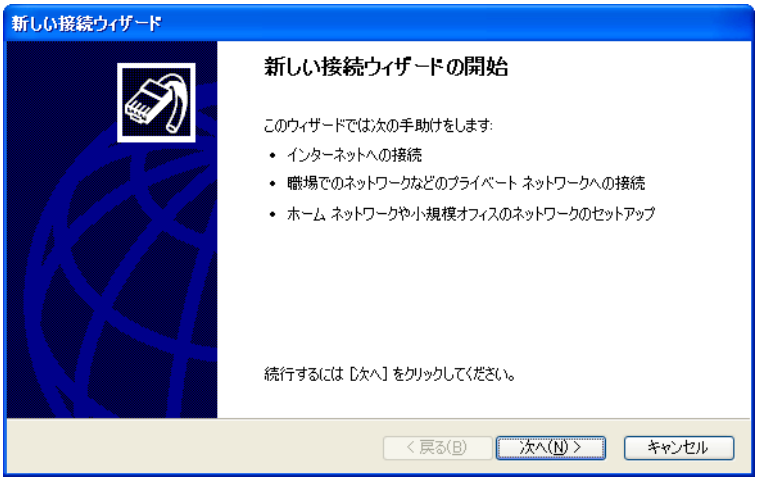
3 [ネットワーク接続]をクリックします。



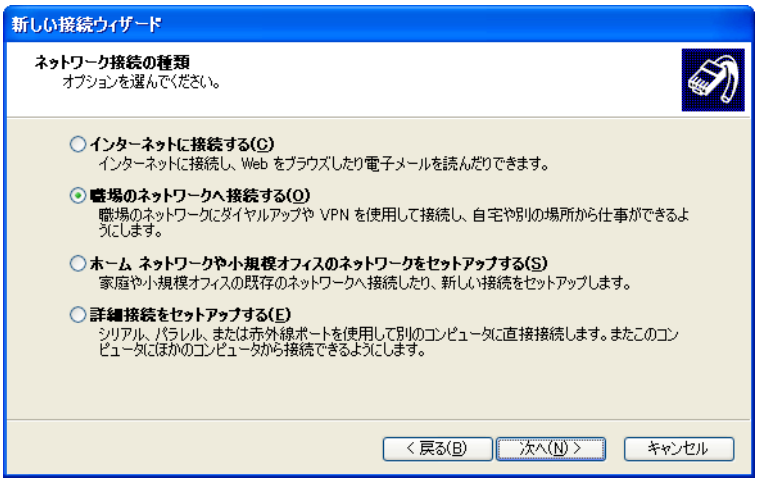
4 ［新しい接続を作成する］をクリックします。



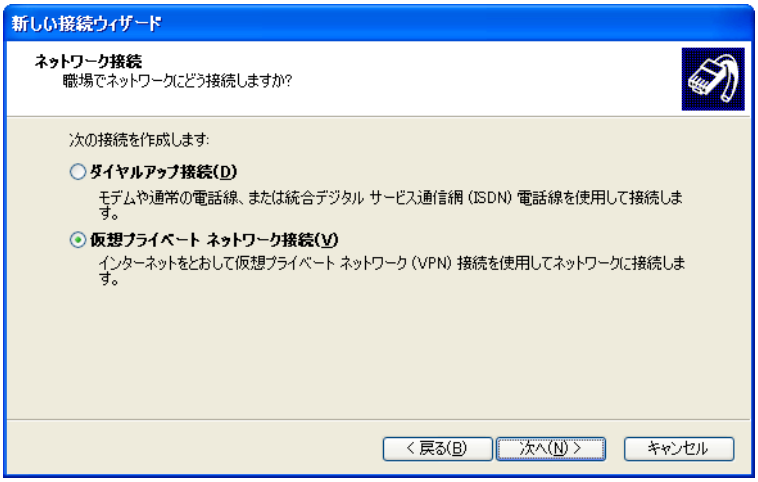
5 ［次へ］をクリックします。



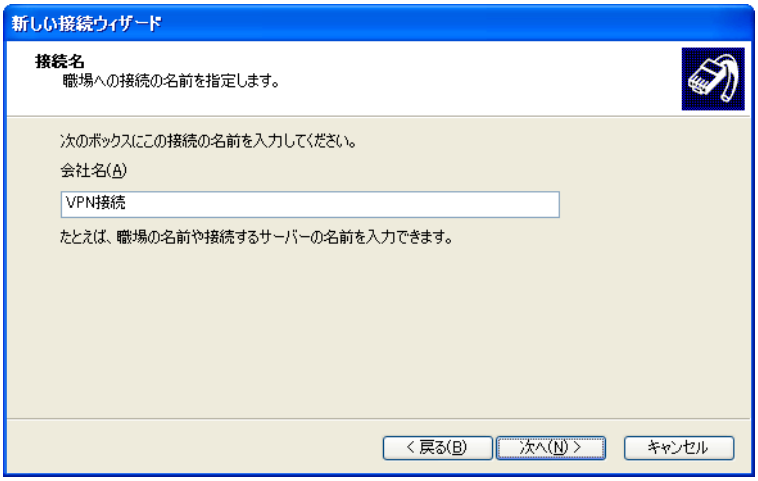
6 「職場のネットワークへ接続する」を選択して、［次へ］をクリックします。



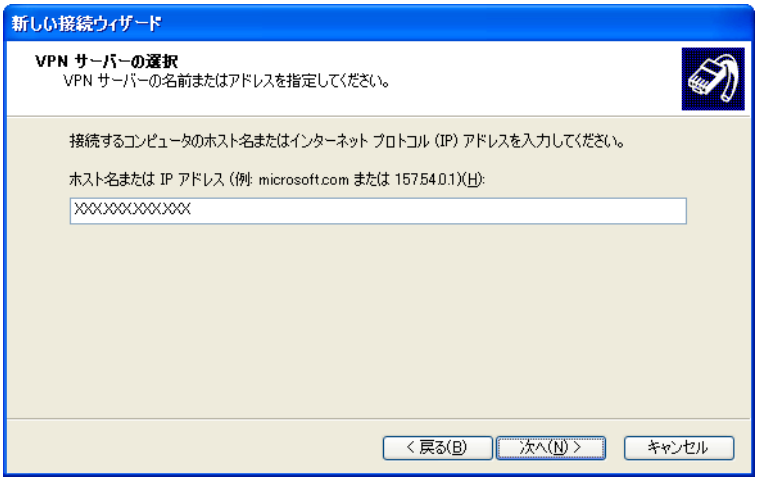
7 「仮想プライベートネットワーク接続」を選択して、[次へ]をクリックします。



8 「会社名」に任意の名称を入力して、[次へ]をクリックします。



9 ダイナミックDNSサービスで取得したURLを入力して、[次へ]をクリックします。



メモ: バッファロー以外のダイナミックDNSサービスを利用している場合や固定IPアドレスをご利用の場合は、「ホスト名またはIPアドレス」欄にダイナミックDNSのホスト名やIPアドレスを入力してください。

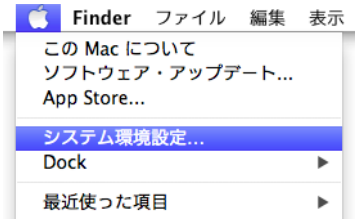
10 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。

以上で設定は完了です。

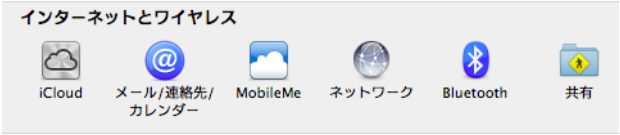
Mac OSをお使いの場合

ここでは、Mac OS X 10.8の場合を例に説明します。

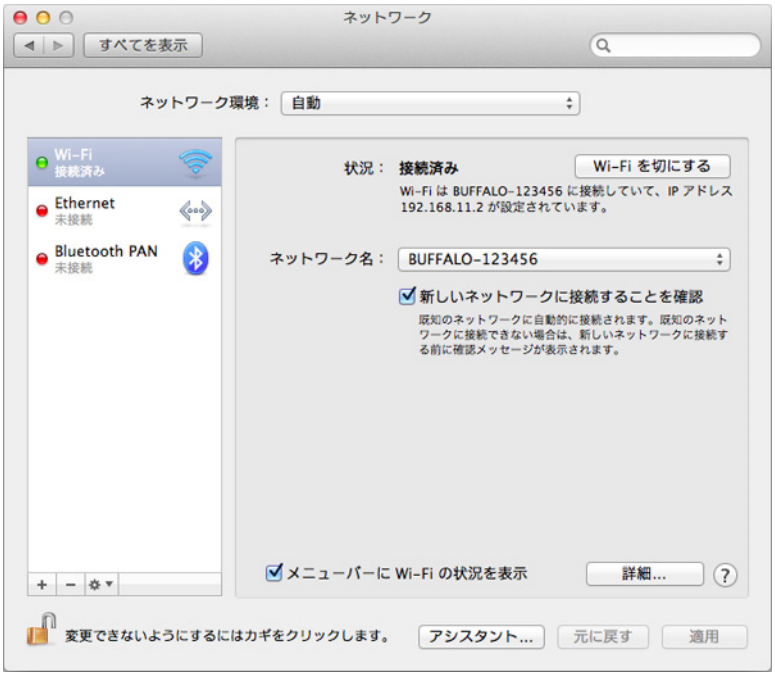
1 [アップルメニュー]－[システム環境設定]をクリックします。



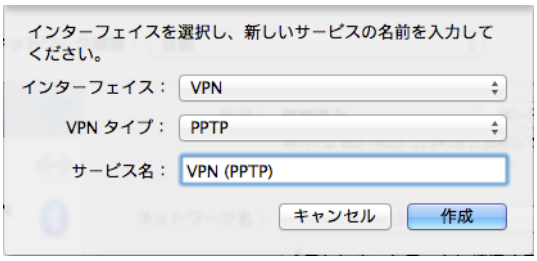
2 「ネットワーク」をクリックします。



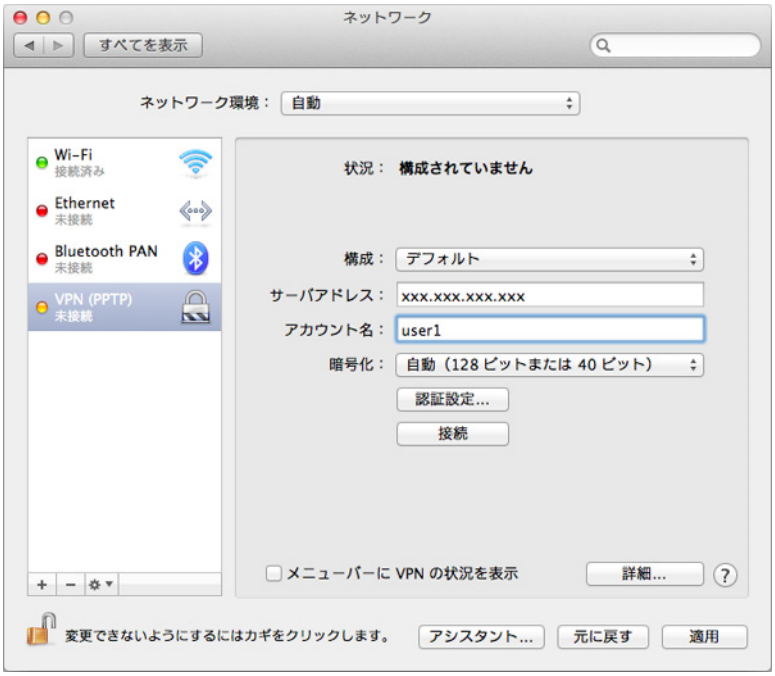
3 「＋」をクリックします。



4 インターフェイスで「VPN」、VPNタイプで「PPTP」を選択、サービス名に任意の名称を入力して、[作成]をクリックします。

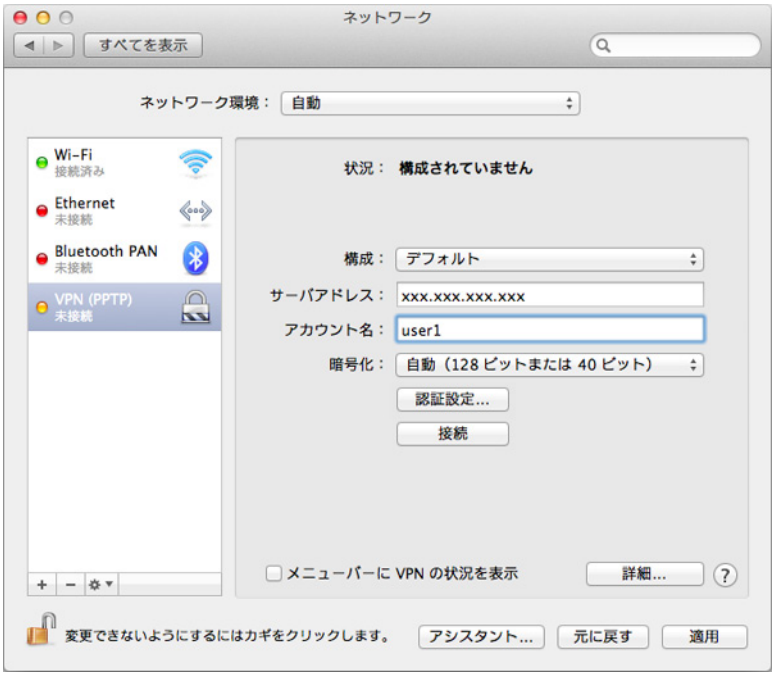


5 サーバアドレスにダイナミックDNSサービスで取得したURLを、アカウント名に本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順８で設定したユーザー名を入力し、[認証設定]をクリックします。



6 パスワードを選択し、本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順８で設定したパスワードを入力して、[OK]をクリックします。

7 ［適用］をクリックします。



以上で設定は完了です。

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合

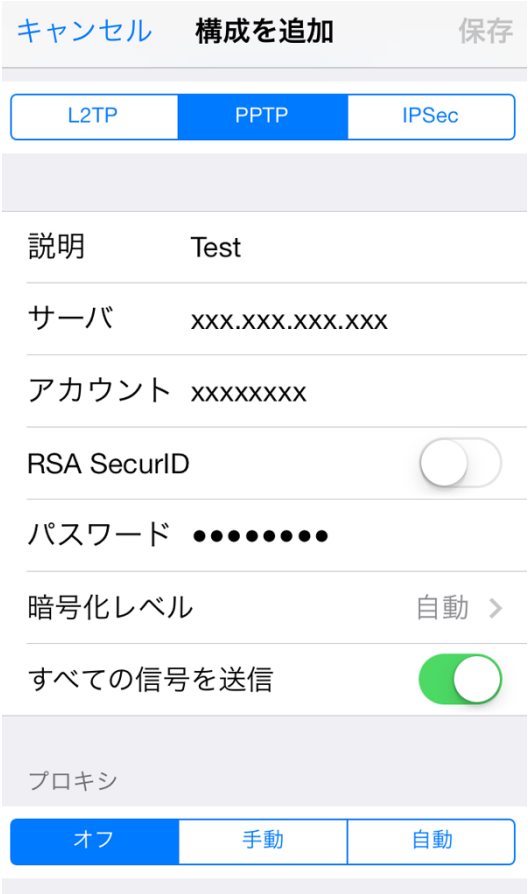
ここでは、iOS 7.0を搭載したiPod touchの場合を例に説明します。

1 ［設定］をタップします。

2 [一般] > [VPN] の順にタップします。

3 [VPN構成を追加...] をタップします。

4 [PPTP]をタップし、説明、サーバ、アカウント、パスワードを設定して[保存]をタップします。



説明:
任意の説明を設定します。

サーバ:
ダイナミックDNSサービスで取得したURLを設定します。

アカウント:
「外出先から接続するための準備をする」の手順８で設定したユーザー名を設定します。

パスワード:
「外出先から接続するための準備をする」の手順８で設定したパスワードを設定します。

以上で設定は完了です。

自宅や会社の端末を外出先から遠隔操作できるように設定する

自宅や会社の端末を外出先から遠隔操作できるようにするには、端末側が同機能に対応している必要があります。ここでは例としてWindows 8.1/8/7/Vista/XP、OS X 10.8の場合の手順を説明しますが、OSのエディション（Pro、Home Premium、Ultimateなどの種別）の違いによっては、端末側が遠隔操作に対応していないため、下記の通りに設定できない場合があります。あらかじめご了承ください。

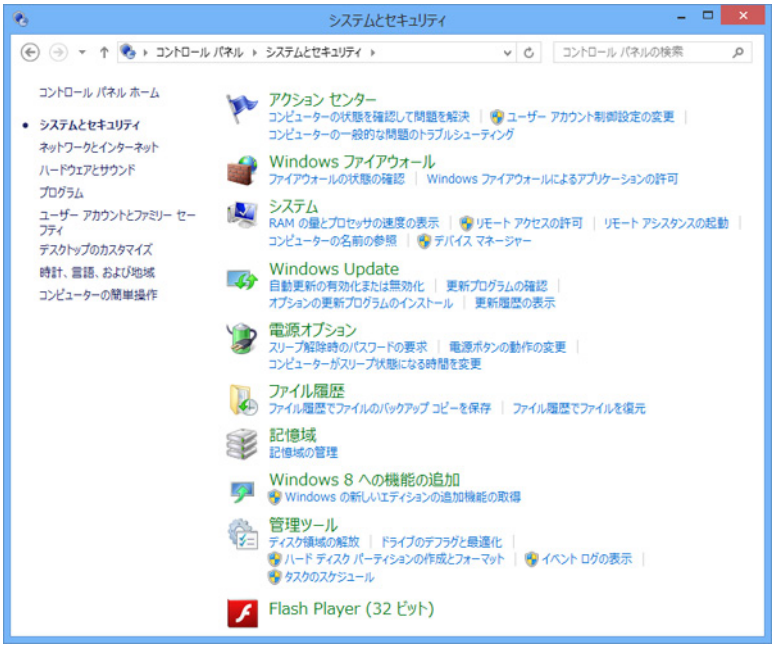
Windows 8.1/8をお使いの場合

1 コントロールパネルを表示します。

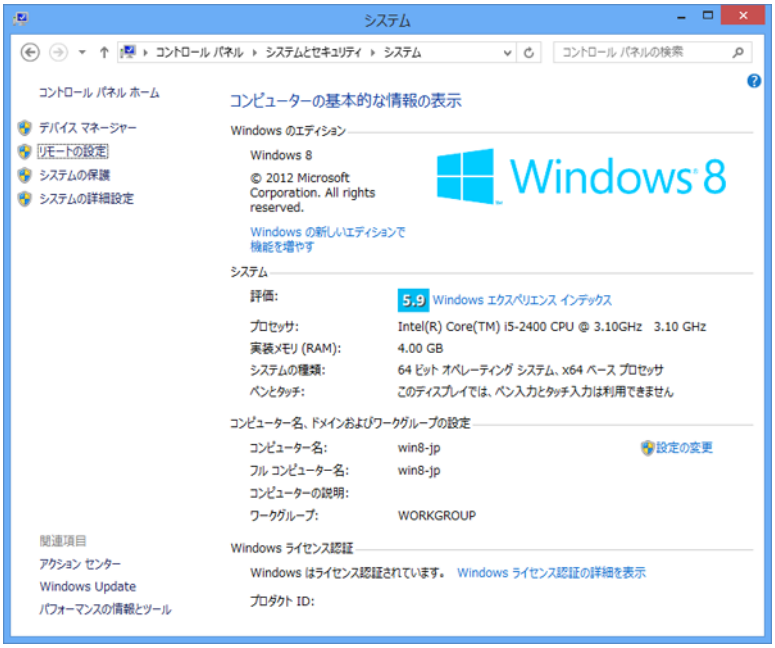
（パソコンの場合は、画面左下を右クリックし、[コントロールパネル]を選択します。タブレットでは、画面右端を左にスワイプし[検索]をタップした後、[コントロールパネル]を選択します。）

2 [システムとセキュリティ]をクリックします。

3 [システム]をクリックします。

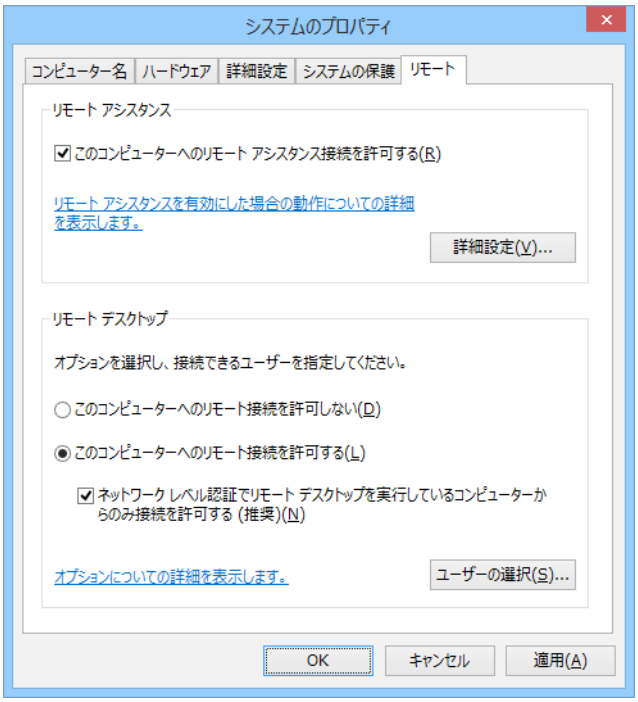


4 ［リモートの設定］をクリックします。



メモ:「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］または［続行］をクリックします。

5 「このコンピューターへのリモート接続を許可する」を選択し、［OK］をクリックします。



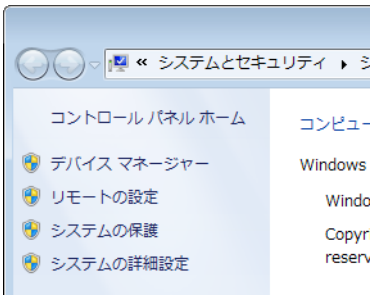
以上で設定は完了です。

Windows 7/Vistaをお使いの場合

1 ［スタート］をクリックします。

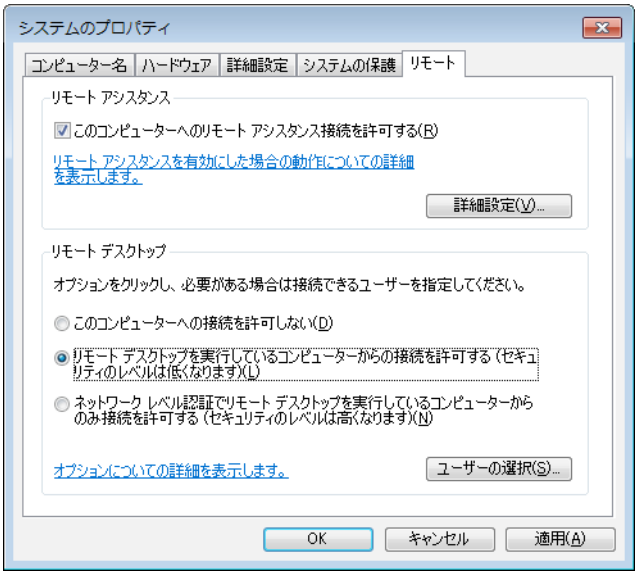
2 「コンピューター」を右クリックして、「プロパティ」を選択します。

3 ［リモートの設定］をクリックします。



メモ:「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］または［続行］をクリックします。

4 「リモートデスクトップを実行しているコンピューターからの接続を許可する」を選択し、［OK］をクリックします。



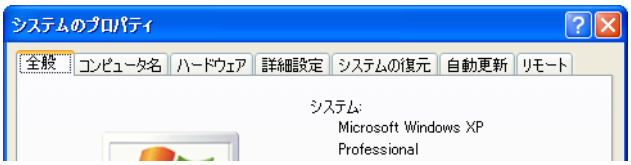
以上で設定は完了です。

Windows XPをお使いの場合

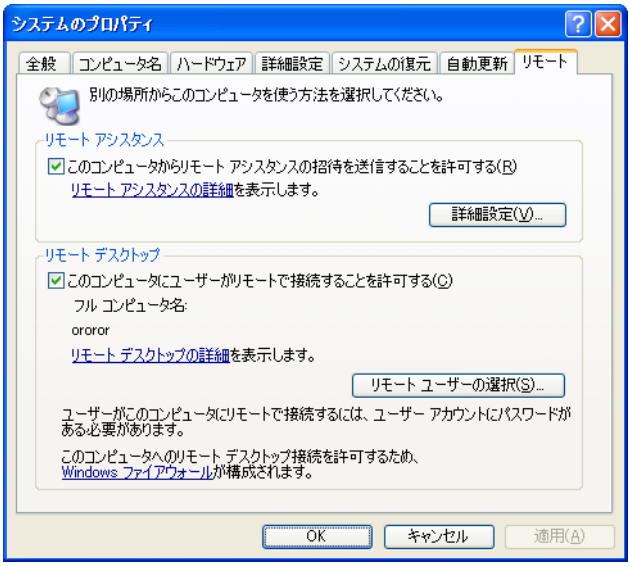
1 ［スタート］をクリックします。

2 「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」を選択します。

3 ［リモート］をクリックします。



4 「このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する」にチェックを入れて、［OK］をクリックします。

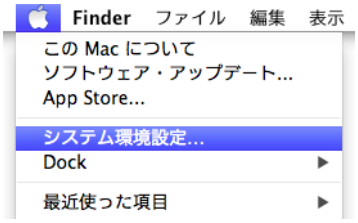


以上で設定は完了です。

Mac OSをお使いの場合

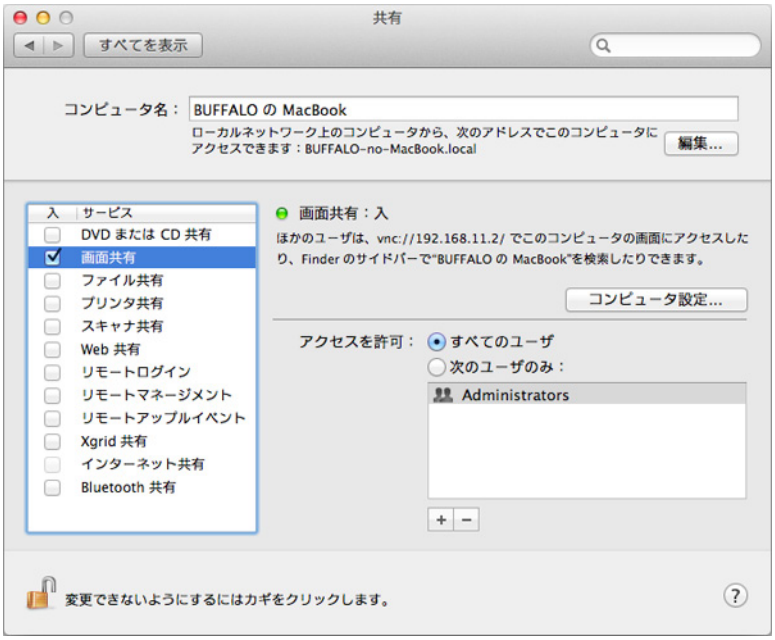
ここでは、Mac OS X 10.8の場合を例に説明します。

1 ［アップルメニュー］－［システム環境設定］をクリックします。

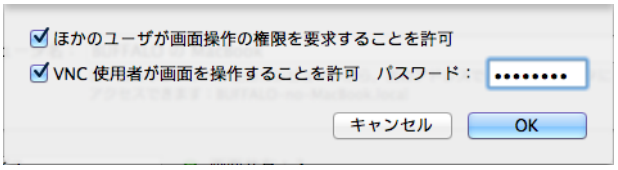


2 「共有」をクリックします。

3 「画面共有」の「入」にチェックを入れ、「アクセスを許可」を「すべてのユーザ」に設定して、［コンピュータ設定］をクリックします。



4 「ほかのユーザが画面操作の権限を要求することを許可」と「VNC使用者が画面を操作することを許可」にチェックを入れて、パスワードを入力し、［OK］をクリックします。



以上で設定は完了です。

外出先から自宅や会社のネットワークに接続する

メモ: ここでの操作は外出先から行います。自宅(LAN内)からは接続できません。

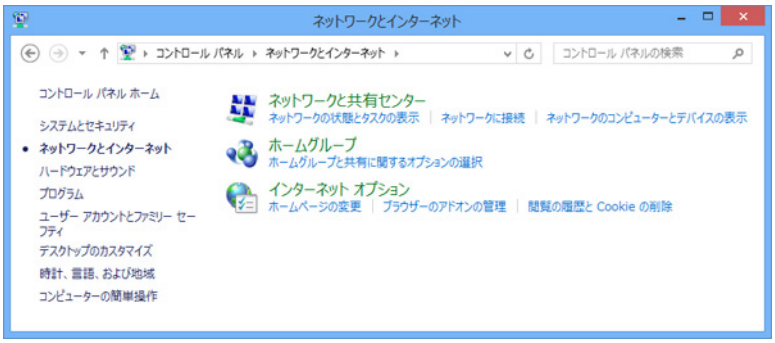
Windows 8.1/8をお使いの場合

1 コントロールパネルを表示します。

(パソコンの場合は、画面左下を右クリックし、[コントロールパネル]を選択します。タブレットでは、画面右端を左にスワイプし[検索]をタップした後、[コントロールパネル]を選択します。)

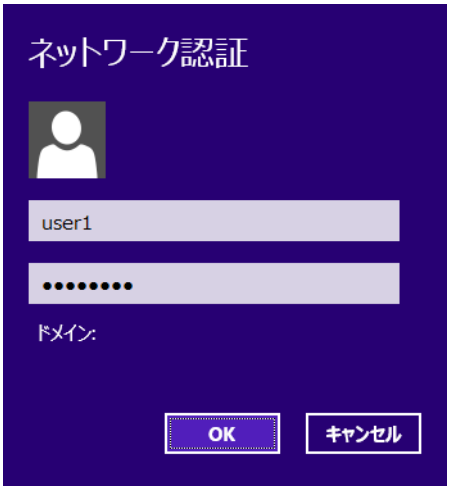
2 [ネットワークとインターネット]をクリックします。

3 [ネットワークに接続]をクリックします。



4 本章の「外出先で使用する機器の設定をする」の手順６で作成した接続先をクリックし、[接続] をクリックします。

5 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順８で登録したユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。



以上で設定は完了です。

Windows 7をお使いの場合

1 コントロールパネルを表示します。
（[スタート]－[コントロールパネル]をクリックします）

2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。

3 [ネットワークに接続]をクリックします。

4 本章の「外出先で使用する機器の設定をする」の手順６で作成した接続先をクリックし、[接続]をクリックします。

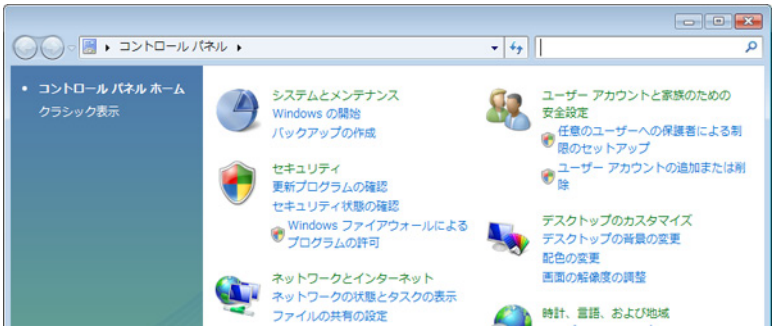
5 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順８で登録したユーザー名とパスワードを入力し、[接続]をクリックします。

以上で設定は完了です。

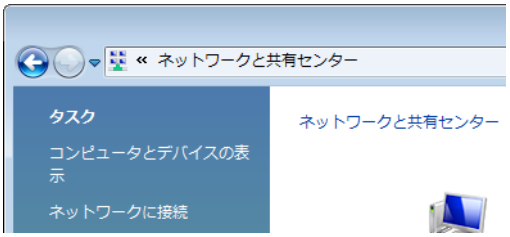
Windows Vistaをお使いの場合

1 コントロールパネルを表示します。
([スタート]－[コントロールパネル]をクリックします)

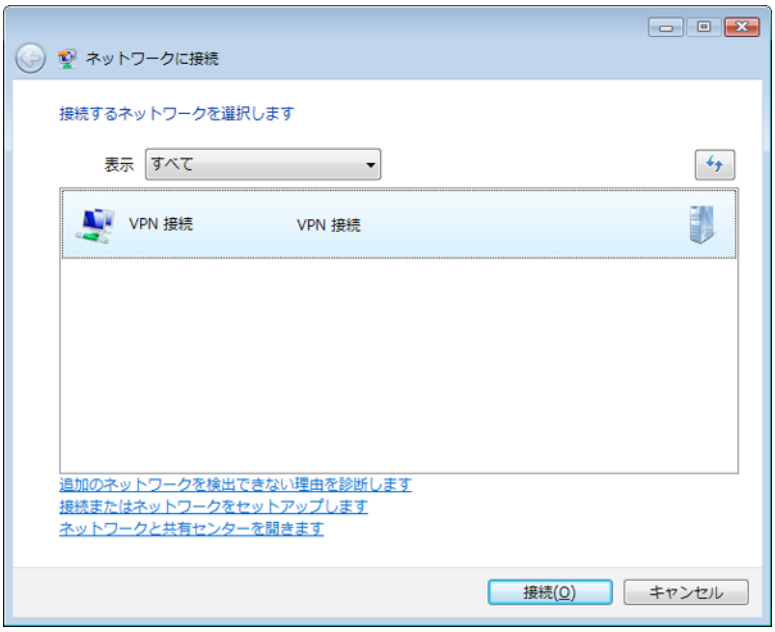
2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。



3 [ネットワークに接続]をクリックします。



4 本章の「外出先で使用する機器の設定をする」の手順６で作成した接続先をクリックし、[接続] をクリックします。



5 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順８で登録したユーザー名とパスワードを入力し、[接続] をクリックします。

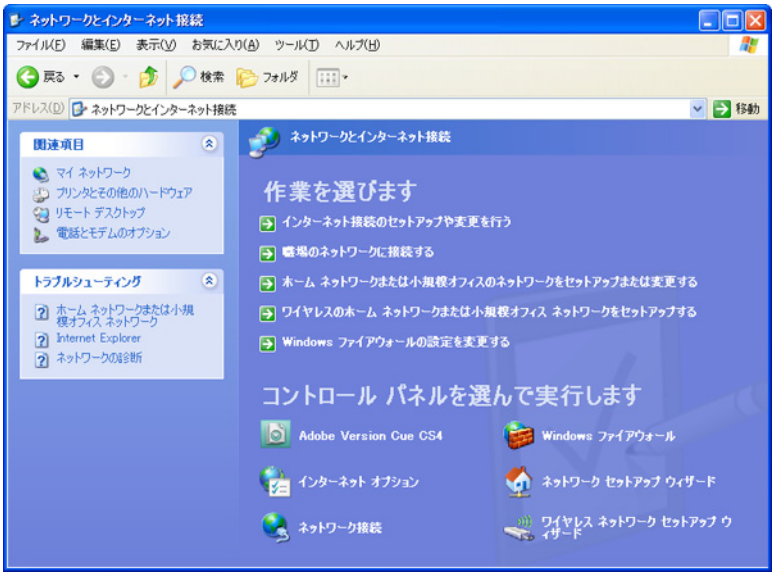
以上で設定は完了です。

Windows XPをお使いの場合

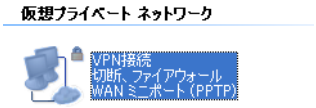
1 コントロールパネルを表示します。
（[スタート]－[コントロールパネル]をクリックします）

2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

3 [ネットワーク接続]をクリックします。



4 本章の「外出先で使用する機器の設定をする」の手順８で作成した接続先をダブルクリックします。



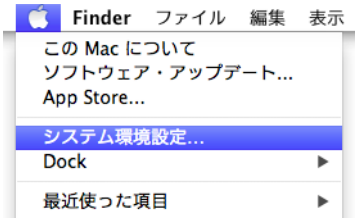
5 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順８で登録したユーザー名とパスワードを入力し、［接続］をクリックします。

以上で設定は完了です。

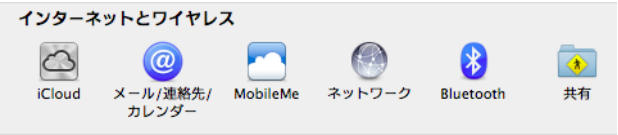
Mac OSをお使いの場合

ここでは、OS X 10.8の場合を例に説明します。

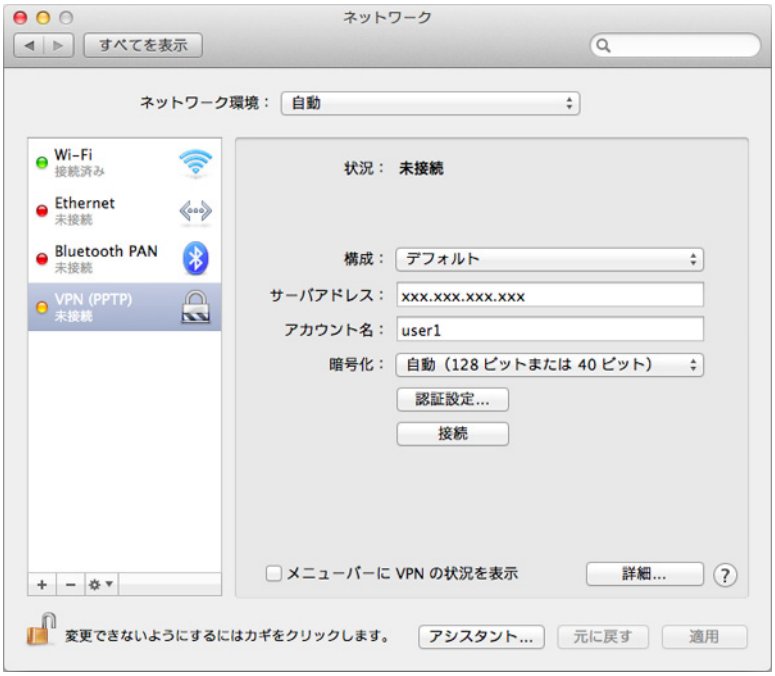
1 ［アップルメニュー］－［システム環境設定］をクリックします。



2 「ネットワーク」をクリックします。



3 本章の「外出先で使用する機器の設定をする」の手順４で作成した接続先を選択し、［接続］をクリックします。



以上で設定は完了です。

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合

ここでは、iOS 7.0を搭載したiPod touchの場合を例に説明します。

1 ［設定］をタップします。

2 ［VPN］をオンにします。

以上で設定は完了です。

外出先から自宅や会社の端末を遠隔操作する

メモ: ここでは例として、Windows同士、またはMac同士を遠隔操作する方法を説明します。

Windows 8.1/8から遠隔操作する場合

メモ:

(1) 以下の手順は、Windows 8用「リモートデスクトップ接続（Terminal Server クライアント）」を適用した場合の例です。

(2) 以下の場合は、遠隔操作できないことがあります。あらかじめご了承ください。

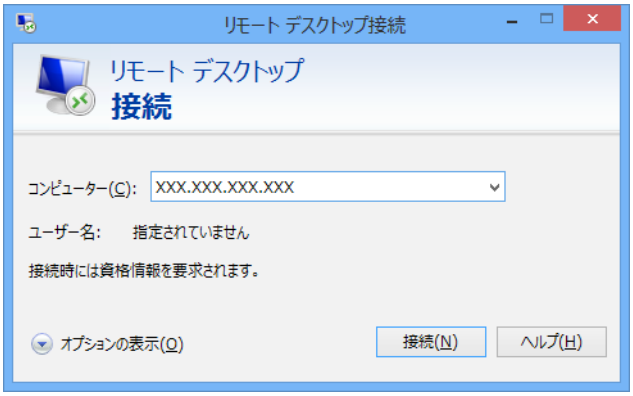
- Windowsのエディションの違いにより、端末が遠隔操作に対応していない場合。
- Windowsログイン時のパスワードが設定されていない場合。
- セキュリティソフトなどがインストールされており、ファイアウォール機能が有効になっている場合など。

1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。

2 リモートデスクトップ接続を表示します。

（パソコンの場合は、「スタート」画面でキーボードの［Ctrl］キーと［Tab］キーを押して、［リモートデスクトップ接続］を選択します。タブレットでは、画面右端を左にスワイプし、［検索］をタップした後、［リモートデスクトップ接続］を選択します。）

3 操作したい端末のIPアドレスを入力して、［接続］をクリックします。



4 操作したい端末に登録されているユーザー名、パスワードを入力して、［OK］をクリックします。接続が完了すると、接続先端末のデスクトップが表示されます。

以上で設定は完了です。

Windows 7/Vista/XPから遠隔操作する場合

メモ:

(1) 以下の手順は、Windows 7/Vista/XP用「リモートデスクトップ接続（Terminal Server クライアント 6.0）」を適用した場合の例です。

(2) 以下の場合は、遠隔操作できないことがあります。あらかじめご了承ください。

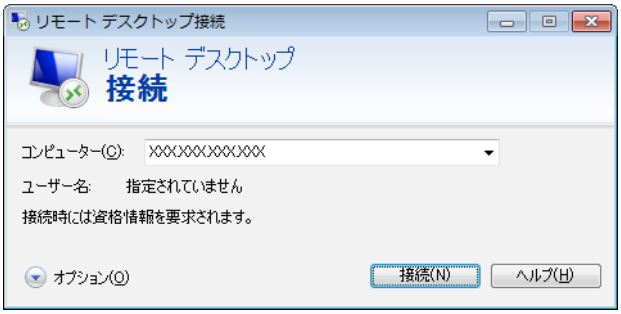
- Windowsのエディションの違いにより、端末が遠隔操作に対応していない場合。

- Windowsログイン時のパスワードが設定されていない場合。
- セキュリティソフトなどがインストールされており、ファイアウォール機能が有効になっている場合など。

1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。

2 [スタート]－[(すべての)プログラム]－[アクセサリ]－[リモートデスクトップ接続]をクリックします。

3 操作したい端末のIPアドレスを入力して、[接続]をクリックします。



4 操作したい端末に登録されているユーザー名、パスワードを入力して、[OK]をクリックします。接続が完了すると、接続先端末のデスクトップが表示されます。

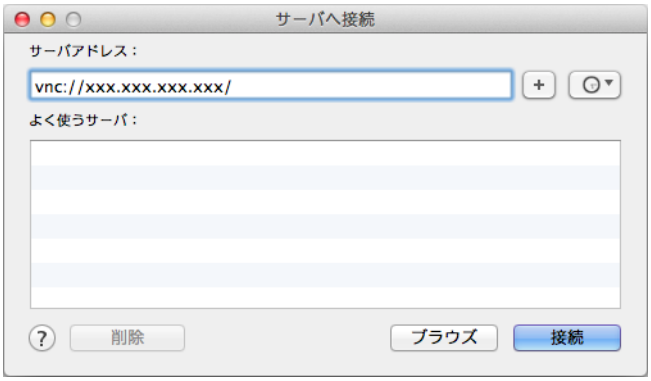
以上で設定は完了です。

Mac OSから遠隔操作する場合

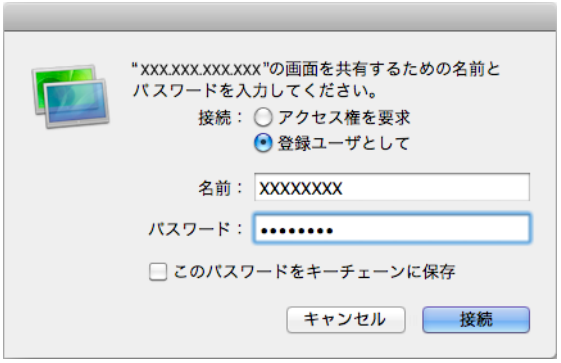
ここでは、Mac OS X 10.8の場合を例に説明します。

1 ［移動］－［サーバへ接続］をクリックします。

2 サーバアドレス欄に「vnc://遠隔操作対象のMacのIPアドレス/」を入力し、［接続］をクリックします。



3 「登録ユーザとして」を選択し、遠隔操作対象のMacに設定されているユーザー名とパスワードを入力して、［接続］をクリックします。



以上で設定は完了です。

外出先から自宅や会社のファイルサーバーにアクセスする

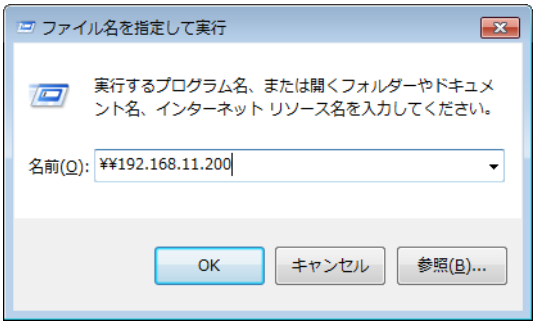
Windowsの場合

1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。

2 「ファイル名を指定して実行」を表示します。

Windows 8.1/8の場合は、画面左下端を右クリックして、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
Windows 7/Vistaの場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[アクセサリ]－[ファイル名を指定して実行]を選択します。
Windows XPの場合は、[スタート]－[ファイル名を指定して実行]を選択します。

3 名前欄に「¥¥(ファイルサーバーのIPアドレス)」(例: ¥¥192.168.11.200など)の形式で入力して、[OK]をクリックします。



メモ: ユーザー名とパスワードの入力欄が表示されたら、ファイルサーバーに登録されているユーザー名とパスワードを入力してください。

4 ファイルサーバーの共有フォルダーが表示されます。

以上で設定は完了です。

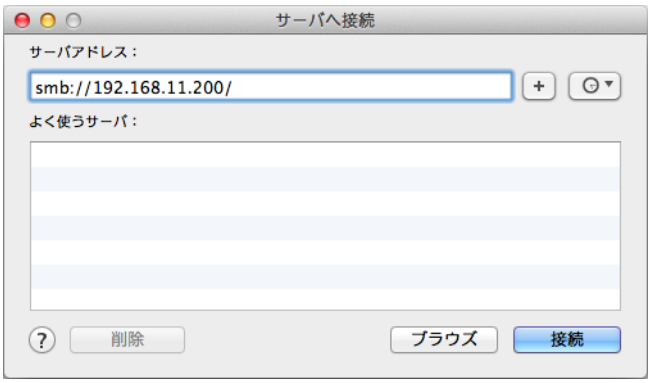
Mac OSの場合

ここでは、Mac OS X 10.8の場合を例に説明します。

1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。

2 Mac OSのメニューバーより、[移動]－[サーバへ接続]を選択します。

3 サーバアドレス欄に「smb://（ファイルサーバーのIPアドレス）」（例：smb://192.168.11.200など）の形式で入力して、［接続］をクリックします。



メモ: ユーザー名とパスワードの入力欄が表示されたら、ファイルサーバーに登録されているユーザー名とパスワードを入力してください。

4 ファイルサーバーの共有フォルダーが表示されます。

以上で設定は完了です。

第6章 困ったときは

インターネットにつながらない

原因１　動作モードの設定が間違っている

動作モードの設定が間違っていることが考えられます。
背面の切り替えスイッチを「AP」側にして、ROUTERランプが橙色に点灯するまで１～２回、MODEボタンを押してください。

原因２　プロバイダーから提供された機器の電源が入っていない

プロバイダーから提供された機器と本製品がLANケーブルで正しく接続されているにもかかわらずインターネットに接続できない場合は、電源が入っているか確認してください。

原因３　インターネットに接続しようとする機器が本製品に接続されていない

エアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ:

- エアステーション設定ツールの使いかたは、本書の第４章の「エアステーション設定ツールの使いかた」を参照してください。
- 無線での接続方法は、製品添付のマニュアルを参照してください。

原因４　インターネットの設定が間違っている

製品添付のマニュアルを参照して、インターネットの設定をもう一度やり直してください。

前面のBUFFALOランプが周期的に赤色に点滅している

５回周期の場合

本製品のInternet側のIPアドレスとLAN側のIPアドレスが同じネットワークアドレスになっています。
ROUTERランプが橙色に点灯するまで１～２回、MODEボタンを押してください。

２、３、４回周期の場合

いったん本製品の電源をオフにして、再度オンにしてください。それから２分程度経っても同じような症状が見られる場合は、本製品の故障が考えられます。当社のサポートセンターまでご連絡ください。

連続点滅の場合

本製品の起動中や設定保存中、ファームウェアの更新中はBUFFALOランプが連続点滅します。異常ではありませんので、そのままご使用ください。

無線接続が切れる/不安定

原因１　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、再度オンにしてください。

原因２　本製品と無線機器の距離が遠い

本製品と無線機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。無線機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しを良くしてください。

原因３　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になる場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因４　本製品のファームウェアが古い

上記１～３の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続く場合は、本製品のファームウェアを最新版に更新してください。

原因５　無線機器のドライバーが古い

上記１～４の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続く場合は、無線機器のドライバー（ソフトウェア）を最新版に更新してください。

原因６　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、無線接続が切れる場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、無線接続が途切れないように設定してください。

無線でつながらない

原因１　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、再度オンにしてください。

原因２　本製品と無線機器の距離が遠い

本製品と無線機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。無線機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しを良くしてください。

原因３　セキュリティーソフトが動作している

無線機器にウイルス対策ソフトなどのセキュリティーソフトがインストールされている場合、無線接続設定に失敗することがあります。いったんセキュリティーソフトを終了して、無線接続設定を完了させてからセキュリティーソフトを起動してください。

原因４　無線接続の設定が間違っている

無線接続の設定が間違っていると、本製品に無線で接続できません。製品添付のマニュアルを参照して、接続してください。

原因５　本製品にANY接続拒否やMACアクセス制限の設定がされている

本製品にANY接続拒否の設定がされていると、無線機器から検索しても本製品が表示されません。その場合は、ANY接続拒否を解除してから接続してください。
本製品にMACアクセス制限の設定がされていると、そのままでは本製品に無線接続できません。無線機器のMACアドレスを本製品に登録してから無線接続してください。

原因６　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、無線接続できない場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、無線接続できるように設定してください。

AOSSで無線接続できない

AOSSに対応した機器（テレビ、レコーダー、ゲーム機。その他携帯端末など）のうち、一部の機器では、AOSSで本製品に無線接続できないことがあります。
その場合は、WPS（プッシュボタン式）で接続するか、お使いの機器から本製品を検索して無線接続してください。

WPS（プッシュボタン式）で接続する場合

1 お使いの機器の無線接続設定画面を表示します。

2 WPS（プッシュボタン式）を選択して、接続を開始します。

3 本製品前面のAOSSボタンを約１秒間押します。

4 しばらくすると、お使いの機器と本製品の無線接続が完了します。

お使いの機器から本製品を検索して接続する場合

1 本製品側面からセットアップカードを取り出します。

2 お使いの機器の無線接続設定画面を表示します。

3 お使いの機器から接続先を検索し、セットアップカードに記載のSSIDと同じ値を選択します。

4 パスワードの入力画面が表示されたら、セットアップカードに記載の暗号化キーを入力します。

5 しばらくすると、お使いの機器と本製品の無線接続が完了します。

設定画面が表示できない

原因１　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、再度オンにしてください。

原因２　設定用機器が本製品に接続されていない

エアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ:

- エアステーション設定ツールの使いかたは、本書の第４章の「エアステーション設定ツールの使いかた」を参照してください。
- 無線での接続方法は、製品添付のマニュアルを参照してください。

無線での通信が遅い

原因１　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になり、通信速度が低下する場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因２　倍速設定が無効になっている

本製品の2.4 GHz（11n/g/b）の倍速設定は、出荷時の状態で無効に設定されています。倍速設定を有効に設定することで、無線での通信速度が速くなる場合があります。

メモ:

- 本製品の設定だけでなく、お使いの機器の設定も必要になる場合があります。
- 倍速設定は、通常の（20 MHz）の以上の帯域を使って通信します。2.4 GHz帯を使用する機器が周囲に多くあり、電波環境が悪い場合は、通信速度が向上しないことがあります。

設定を出荷時の状態に戻したい

本製品の設定を出荷時の状態に戻したい場合は、底面のRESETボタンを前面のBUFFALOランプが赤色に点灯するまで（約３秒間）押し続けてください。その後、本製品が再起動したら設定の初期化は完了です。

第7章 付録

製品仕様

WZR-1750DHP2

無線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.11ac / IEEE 802.11n / IEEE 802.11a / IEEE 802.11g / IEEE 802.11b ARIB STD-T71（IEEE 802.11ac / IEEE 802.11a） ARIB STD-T66（IEEE 802.11g / IEEE 802.11b） （小電力データ通信システム規格）
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多重変調（MIMO-OFDM）方式 直交周波数分割多重変調（OFDM）方式 直接拡散型スペクトラム拡散（DS-SS）方式 単信（半二重）
周波数範囲（中心周波数）	IEEE 802.11ac / IEEE 802.11a： W52　36/40/44/48 ch（5180～5240 MHz） W53　52/56/60/64 ch（5260～5320 MHz） W56　100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140 ch　（5500～5700 MHz） IEEE 802.11g / IEEE 802.11b： 1～13 ch（2412～2472 MHz） 基本的に携帯電話、コードレスフォン、テレビ、ラジオ等とは混信しませんが、これらの機器が、2.4 GHz帯の無線を使用する場合や電子レンジが動作している場合は、電波干渉によって通信障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
セキュリティー	AOSS、WPA2-PSK（AES）、WPA-PSK（AES）、WPA/WPA2 mixed PSK（TKIP/AES mixed）、WEP（128 bit / 64-bit）、プライバシーセパレーター、ANY接続拒否/SSIDステルス、MACアクセス制限

802.11acデータ転送速度 （オートセンス）	**IEEE 802.11ac 20 MHz BW <Long GI>：** 260/234/195/175.5/156/117/78/58.5/39/19.5 Mbps (3 stream) 156/130/117/104/78/52/39/26/13 Mbps (2 stream) 78/65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 20 MHz BW <Short GI>：** 288.9/260/216.7/195/173.3/130/86.7/65/43.3/21.7 Mbps (3 stream) 173.3/144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4 Mbps (2 stream) 86.7/72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 40 MHz BW <Long GI>：** 540/486/405/364.5/324/243/162/121.5/81/40.5 Mbps (3 stream) 360/324/270/243/216/162/108/81/54/27 Mbps (2 stream) 180/162/135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 40 MHz BW <Short GI>：** 600/540/450/405/360/270/180/135/90/45 Mbps (3 stream) 400/360/300/270/240/180/120/90/60/30 Mbps (2 stream) 200/180/150/135/120/90/60/45/30/15 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 80 MHz BW <Long GI>：** 1170/1053/877.5/702/526.5/351/263.3/175.5/87.8 Mbps (3 stream) 780/702/585/526.5/468/351/234/175.5/117/58.5 Mbps (2 stream) 390/351/292.5/263.3/234/175.5/117/87.8/58.5/29.3 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 80 MHz BW <Short GI>：** 1300/1170/975/780/585/390/292.5/195/97.5 Mbps (3 stream) 866.7/780/650/585/520/390/260/195/130/65 Mbps (2 stream) 433.3/390/325/292.5/260/195/130/97.5/65/32.5 Mbps (1 stream)
802.11n/a/g/bデータ転送速度 （オートセンス）	**IEEE 802.11n 20 MHz BW <Long GI>：** 195/175.5/156/117/78/58.5/39/19.5 Mbps (3 stream) 130/117/104/78/52/39/26/13 Mbps (2 stream) 65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 20 MHz BW <Short GI>：** 216.7/195/173.3/130/86.7/65/43.3/21.7 Mbps (3 stream) 144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4 Mbps (2 stream) 72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 40 MHz BW <Long GI>：** 405/364.5/324/243/162/121.5/81/40.5 Mbps (3 stream) 270/243/216/162/108/81/54/27 Mbps (2 stream) 135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 40 MHz BW <Short GI>：** 450/405/360/270/180/135/90/45 Mbps (3 stream) 300/270/240/180/120/90/60/30 Mbps (2 stream) 150/135/120/90/60/45/30/15 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11a / IEEE 802.11g：** 54/48/36/24/18/12/9/6 Mbps **IEEE 802.11b：** 11/5.5/2/1 Mbps
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.3ab（1000BASE-T）/IEEE 802.3u（100BASE-TX）/ IEEE 802.3（10BASE-T）
データ転送速度	10/100/1000 Mbps（自動認識）
データ伝送モード	半二重/全二重（自動認識）
伝送路符号化方式	8B1Q4/PAM5（1000BASE-T）/4B5B/MLT-3（100BASE-TX）/マンチェスターコーディング（10BASE-T）
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	1000 BASE-T / 100 BASE-TX / 10 BASE-T 兼用端子（AUTO-MDIX）

USBインターフェース	
準拠規格	USB 3.0 USB 2.0
端子	USB 3.0端子 x 1 USB 2.0端子 x 1
その他	
電源	AC 100 50/60 Hz
消費電力	18.2 W（最大）
外形寸法	212（H）x 183（D）x 34（W）mm（本体のみ）
重量	580 g（本体のみ）
動作環境	0 ～ 40 ℃、10 ～ 85 %（結露しないこと） 本製品は屋内使用に限ります。

WZR-1166DHP2

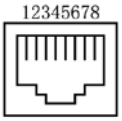
無線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.11ac / IEEE 802.11n / IEEE 802.11a / IEEE 802.11g / IEEE 802.11b ARIB STD-T71（IEEE 802.11ac / IEEE 802.11a） ARIB STD-T66（IEEE 802.11g / IEEE 802.11b） （小電力データ通信システム規格）
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多重変調（MIMO-OFDM）方式 直交周波数分割多重変調（OFDM）方式 直接拡散型スペクトラム拡散（DS-SS）方式 単信（半二重）
周波数範囲（中心周波数）	IEEE 802.11ac / IEEE 802.11a： W52　36/40/44/48 ch（5180～5240 MHz） W53　52/56/60/64 ch（5260～5320 MHz） W56　100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140 ch　（5500～5700 MHz） IEEE 802.11g / IEEE 802.11b： 1～13 ch（2412～2472 MHz） 基本的に携帯電話、コードレスフォン、テレビ、ラジオ等とは混信しませんが、これらの機器が、2.4 GHz帯の無線を使用する場合や電子レンジが動作している場合は、電波干渉によって通信障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
セキュリティー	AOSS、WPA2-PSK（AES）、WPA-PSK（AES）、WPA/WPA2 mixed PSK（TKIP/AES mixed）、WEP（128 bit / 64-bit）、プライバシーセパレーター、ANY接続拒否/SSIDステルス、MACアクセス制限

802.11acデータ転送速度 （オートセンス）	**IEEE 802.11ac 20 MHz BW <Long GI>：** 156/130/117/104/78/52/39/26/13 Mbps (2 stream) 78/65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 20 MHz BW <Short GI>：** 173.3/144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4 Mbps (2 stream) 86.7/72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 40 MHz BW <Long GI>：** 360/324/270/243/216/162/108/81/54/27 Mbps (2 stream) 180/162/135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 40 MHz BW <Short GI>：** 400/360/300/270/240/180/120/90/60/30 Mbps (2 stream) 200/180/150/135/120/90/60/45/30/15 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 80 MHz BW <Long GI>：** 780/702/585/526.5/468/351/234/175.5/117/58.5 Mbps (2 stream) 390/351/292.5/263.3/234/175.5/117/87.8/58.5/29.3 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 80 MHz BW <Short GI>：** 866.7/780/650/585/520/390/260/195/130/65 Mbps (2 stream) 433.3/390/325/292.5/260/195/130/97.5/65/32.5 Mbps (1 stream)
802.11n/a/g/bデータ転送速度 （オートセンス）	**IEEE 802.11n 20 MHz BW <Long GI>：** 130/117/104/78/52/39/26/13 Mbps (2 stream) 65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 20 MHz BW <Short GI>：** 144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4 Mbps (2 stream) 72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 40 MHz BW <Long GI>：** 270/243/216/162/108/81/54/27 Mbps (2 stream) 135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 40 MHz BW <Short GI>：** 300/270/240/180/120/90/60/30 Mbps (2 stream) 150/135/120/90/60/45/30/15 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11a / IEEE 802.11g：** 54/48/36/24/18/12/9/6 Mbps **IEEE 802.11b：** 11/5.5/2/1 Mbps
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.3ab（1000BASE-T）/IEEE 802.3u（100BASE-TX）/ IEEE 802.3（10BASE-T）
データ転送速度	10/100/1000 Mbps（自動認識）
データ伝送モード	半二重/全二重（自動認識）
伝送路符号化方式	8B1Q4/PAM5（1000BASE-T）/4B5B/MLT-3（100BASE-TX）/マンチェスターコーディング（10BASE-T）
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	1000 BASE-T / 100 BASE-TX / 10 BASE-T 兼用端子（AUTO-MDIX）
USBインターフェース	
準拠規格	USB 3.0
端子	USB 3.0端子 x 1
その他	
電源	AC 100 50/60 Hz
消費電力	15.1 W（最大）
外形寸法	212（H）x 183（D）x 34（W）mm（本体のみ）
重量	590 g（本体のみ）

動作環境	0 ～ 40 ℃、10 ～ 85 %（結露しないこと） 本製品は屋内使用に限ります。

端子仕様

LAN端子/Internet端子仕様
端子形状（RJ-45型8極端子）



100BASE-TX/10BASE-T		
ピン番号	信号名	信号機能
1	RD+/TD+	受信データ（+）/送信データ（+）
2	RD-/TD-	受信データ（-）/送信データ（-）
3	TD+/RD+	送信データ（+）/受信データ（+）
4	(Not Use)	未使用
5	(Not Use)	未使用
6	TD-/RD-	送信データ（-）/受信データ（-）
7	(Not Use)	未使用
8	(Not Use)	未使用
1000BASE-T		
ピン番号	信号名	信号機能
1	BI_DA+/BI_DB+	送受信データA（+）/送受信データB（+）
2	BI_DA-/BI_DB-	送受信データA（-）/送受信データB（-）
3	BI_DB+/BI_DA+	送受信データB（+）/送受信データA（+）
4	BI_DC+/BI_DD+	送受信データC（+）/送受信データD（+）
5	BI_DC-/BI_DD-	送受信データC（-）/送受信データD（-）
6	BI_DB-/BI_DA-	送受信データB（-）/送受信データA（-）
7	BI_DD+/BI_DC+	送受信データD（+）/送受信データC（+）
8	BI_DD-/BI_DC-	送受信データD（-）/送受信データC（-）

メモ: ※AUTO-MDIX機能により、送信/受信データを自動的に切り替えます。

初期設定一覧

WZR-1750DHP2

機能	項目	出荷時設定
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う
	デフォルトゲートウェイ	―
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	―
	Internet側MACアドレス	デフォルトのMACアドレスを使用
	Internet側MTU値	1500バイト
PPPoE	デフォルトの接続先	未設定
	IP Unnumbered使用時の接続先	未設定
	PPPoE接続先リスト	未設定
	接続先経路の表示	未設定
DDNS	ダイナミックDNS機能	未設定
PPTP	PPTPサーバー機能	使用しない
	認証方式	MS-CHAPv2認証（40/128bits暗号鍵）
	サーバーIPアドレス	自動設定
	クライアントIPアドレス	自動設定
	DNSサーバーのIPアドレス	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーのIPアドレス	未設定
	MTU/MRU値	1396
	PPTP接続ユーザー	未設定
アドレス変換	アドレス変換	使用する
LAN	LAN側IPアドレス	IPアドレス：　192.168.11.1 サブネットマスク：　255.255.255.0
	DHCPサーバー機能	使用する
	割り当てIPアドレス	192.168.11.2から64台
	LAN側IPアドレス (IP Unnumbered用)	―
	拡張設定	表示しない
	リース期間	48時間
	デフォルトゲートウェイの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	DNSサーバーの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーの通知	通知しない
	ドメイン名の通知	取得済みのドメイン名
	ネットワーク機器タイプ	家庭向け
DHCPリース	リース情報	未設定
経路情報	経路情報	―

機能	項目	出荷時設定		
2.4 GHz（11n/g/b） 5 GHz（11ac/n/a）	無線機能	使用する		
	無線チャンネル	自動		
	倍速モード	2.4 GHz： 216.7 Mbps（20 MHz）、拡張チャンネルは自動設定 5 GHz： 1300 Mbps（80 MHz）		
	ANY接続	許可する		
	SSID 1	使用する		
	隔離機能	使用しない		
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定		
	無線の認証	WPA2-PSK		
	無線の暗号化	AES		
	WPA-PSK (事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値		
	Key更新間隔	0分		
	SSID 2	使用しない		
	隔離機能	使用しない		
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定		
	WEP暗号化キー設定	未設定		
	BSS BasicRateSet	2.4 GHz：　1, 2, 5.5, 11 Mbps 5 GHz：　6, 12, 24 Mbps		
	Multicast Rate	自動		
	802.11nプロテクション	使用しない		
	DTIM Period	1		
	プライバシーセパレーター	使用しない		
	送信出力	100 %		
	WMM設定	表示しない		
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_BK (低い))		AP用	STA用
		CWmin	15	15
		CWmax	1023	1023
		AIFSN	7	7
		TXOP Limit	0	0
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_BE (普通))		AP用	STA用
		CWmin	15	15
		CWmax	63	1023
		AIFSN	3	3
		TXOP Limit	0	0
		Admission Control	-----	無効

機能	項目	出荷時設定		
2.4 GHz（11n/g/b） 5 GHz（11ac/n/a）	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_VI (優先))		AP用	STA用
		CWmin	7	7
		CWmax	15	15
		AIFSN	1	2
		TXOP Limit	94	94
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_VO (最優先))		AP用	STA用
		CWmin	3	3
		CWmax	7	7
		AIFSN	1	2
		TXOP Limit	47	47
		Admission Control	-----	無効
WPS	WPS機能	使用する		
	外部Registrar	要求を受け付ける		
	エアステーションPINコード	製品固有の8桁のPINコードが設定済み		
	EnrolleeのPINコード	空欄		
	WPS用無線セキュリティー設定	WPSステータス：　Configured セキュリティー：　WPA2-PSK AES SSID/暗号鍵： 　製品付属のセットアップカードに記載の値		
AOSS	AOSS2キー	製品付属のセットアップカードに記載の値		
	AOSS状態	AOSS 無効		
	WEPをゲーム専用にする	使用しない		
	本体側AOSSボタン	使用する		
MACアクセス制限	無線パソコンの接続	制限しない		
	登録リスト	未登録		
マルチキャスト制御	Snooping機能	使用する		
	マルチキャストAging Time	300秒		
ゲストポート	ゲストポート機能	使用しない		
	ゲストユーザー認証機能	使用しない		
	ゲストポート用LAN側IPアドレス	自動設定		
	利用可能時間	3時間		
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定		
	無線の認証	認証を行わない		
	無線の暗号化	暗号化なし		
	ゲストユーザー	未登録		
中継機モニター	中継機名称	（名称未設定）		
	Smart ExRate	無効		
ファイアウォール	簡易ルール	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する　無効 IDENTの要求を拒否する　有効 Internet側からのPINGに応答しない　有効		
IPフィルター	IPフィルター登録情報	未設定		

機能	項目	出荷時設定
VPNパススルー	フレッツIPv6サービス対応機能	使用しない
	PPPoEパススルー	使用しない
	PPTPパススルー	使用する
ポート変換	ポート変換登録情報	未設定
DMZ	DMZのアドレス	未設定
UPnP	UPnP機能	使用する
有害サイトブロック	有害サイトブロック	サービス未選択
ディスク管理	USBディスクの自動割当	使用する
	拡張機能	表示しない
	FATフォーマット　ファイル名文字コード	日本語 Shift_JIS (CP932)
	HDD節電機能	使用しない
	ユーザー情報	未登録
共有サービス	共有フォルダー機能	使用する
	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	エアステーション説明	未設定
	ワークグループ名	WORKGROUP
	Windowsクライアント言語	日本語 Shift_JIS (CP932)
Webアクセス	Webアクセス機能	使用しない
	HTTPS/SSL 暗号化	使用しない
	Webアクセス外部ポート	自動的に外部ポート番号を設定する
	DNSサービスホスト名	BuffaloNAS.com登録機能を使用する
メディアサーバー	メディアサーバー機能	使用しない
BitTorrent	BitTorrent機能	使用しない
	BitTorrent外部ポート番号	自動的に外部ポート番号を設定する
	帯域制限設定	使用する
アドバンスドQoS	アドバンスドQoS機能	使用しない
	おもな用途	ビデオの視聴
	手動設定	ビデオ：　優先度 1（高） 会議：　優先度 2（高） ゲーム：　優先度 3（中） オーディオ：　優先度 4（中） ブラウジング：　優先度 5（低） ダウンロード：　優先度 6（低）
	ユーザー設定	未登録
スケジュール	省電力	使用しない
	ランプ	オフ
	有線LAN	エコ（低速動作）
	無線LAN	オフ
	週間スケジュール	未登録
	動作モード	通常動作
	開始時間	0:00
	終了時間	0:30
	曜日	未登録

機能	項目	出荷時設定
プリントサーバー	プリントサーバー	使用する
	プリンター複合機を使用する	使用する
システム設定	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	管理ユーザー名	admin (変更することはできません)
	管理パスワード	password
	無線LANからの設定を禁止する	無効
	有線LANからの設定を禁止する	無効
	Internet側リモートアクセス設定を禁止する	無効
	デバイスに対しポートスキャンを実行する	有効
	NTP機能	使用する
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
	確認時間	24時間毎
	日付	2013年1月1日
	時刻	0時0分0秒
	タイムゾーン	(GMT + 09:00) 東京、大阪、ソウル
ログ	ログ情報転送機能	使用しない
	Syslogサーバー	未設定
	転送するログ情報	アドレス変換、IPフィルター、ファイアウォール、PPPクライアント、ダイナミックDNS、DHCPクライアント、DHCPサーバー、AOSS、無線、認証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、有線リンク、USB、システム
	詳細なログ取得	取得しない
ファームウェア更新	更新方法	ローカルファイル指定
	ファームウェアファイル名	空欄
	ファームウェア更新通知機能	使用する
	確認時間	自動

WZR-1166DHP2

機能	項目	出荷時設定
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う
	デフォルトゲートウェイ	―
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	―
	Internet側MACアドレス	デフォルトのMACアドレスを使用
	Internet側MTU値	1500バイト
PPPoE	デフォルトの接続先	未設定
	IP Unnumbered使用時の接続先	未設定
	PPPoE接続先リスト	未設定
	接続先経路の表示	未設定
DDNS	ダイナミックDNS機能	未設定

機能	項目	出荷時設定
PPTP	PPTPサーバー機能	使用しない
	認証方式	MS-CHAPv2認証（40/128bits暗号鍵）
	サーバーIPアドレス	自動設定
	クライアントIPアドレス	自動設定
	DNSサーバーのIPアドレス	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーのIPアドレス	未設定
	MTU/MRU値	1396
	PPTP接続ユーザー	未設定
アドレス変換	アドレス変換	使用する
LAN	LAN側IPアドレス	IPアドレス：　192.168.11.1 サブネットマスク：　255.255.255.0
	DHCPサーバー機能	使用する
	割り当てIPアドレス	192.168.11.2から64台
	LAN側IPアドレス (IP Unnumbered用)	―
	拡張設定	表示しない
	リース期間	48時間
	デフォルトゲートウェイの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	DNSサーバーの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーの通知	通知しない
	ドメイン名の通知	取得済みのドメイン名
DHCPリース	リース情報	未設定
経路情報	経路情報	―
2.4 GHz（11n/g/b） 5 GHz（11ac/n/a）	無線機能	使用する
	無線チャンネル	自動
	倍速モード	2.4 GHz： 144.4 Mbps（20 MHz）、拡張チャンネルは自動設定 5 GHz： 866.7 Mbps（80 MHz）
	ANY接続	許可する
	SSID 1	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA2-PSK
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK (事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 2	使用しない
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	WEP暗号化キー設定	未設定
	BSS BasicRateSet	2.4 GHz：　1, 2, 5.5, 11 Mbps 5 GHz：　6, 12, 24 Mbps
	Multicast Rate	自動
	802.11nプロテクション	使用しない

機能	項目	出荷時設定		
2.4 GHz（11n/g/b） 5 GHz（11ac/n/a）	DTIM Period	1		
	プライバシーセパレーター	使用しない		
	送信出力	100 %		
	WMM設定	表示しない		
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_BK (低い))		AP用	STA用
		CWmin	15	15
		CWmax	1023	1023
		AIFSN	7	7
		TXOP Limit	0	0
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_BE (普通))		AP用	STA用
		CWmin	15	15
		CWmax	63	1023
		AIFSN	3	3
		TXOP Limit	0	0
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_VI (優先))		AP用	STA用
		CWmin	7	7
		CWmax	15	15
		AIFSN	1	2
		TXOP Limit	94	94
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_VO (最優先))		AP用	STA用
		CWmin	3	3
		CWmax	7	7
		AIFSN	1	2
		TXOP Limit	47	47
		Admission Control	-----	無効
WPS	WPS機能	使用する		
	外部Registrar	要求を受け付ける		
	エアステーションPINコード	製品固有の8桁のPINコードが設定済み		
	EnrolleeのPINコード	空欄		
	WPS用無線セキュリティー設定	WPSステータス：　Configured セキュリティー：　WPA2-PSK AES SSID/暗号鍵： 　製品付属のセットアップカードに記載の値		
AOSS	AOSS2キー	製品付属のセットアップカードに記載の値		
	AOSS状態	AOSS 無効		
	WEPをゲーム専用にする	使用しない		
	本体側AOSSボタン	使用する		
MACアクセス制限	無線パソコンの接続	制限しない		
	登録リスト	未登録		
マルチキャスト制御	Snooping機能	使用する		
	マルチキャストAging Time	300秒		

機能	項目	出荷時設定
ゲストポート	ゲストポート機能	使用しない
	ゲストユーザー認証機能	使用しない
	ゲストポート用LAN側IPアドレス	自動設定
	利用可能時間	3時間
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	認証を行わない
	無線の暗号化	暗号化なし
	ゲストユーザー	未登録
ファイアウォール	簡易ルール	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する　無効 IDENTの要求を拒否する　有効 Internet側からのPINGに応答しない　有効
IPフィルター	IPフィルター登録情報	未設定
VPNパススルー	フレッツIPv6サービス対応機能	使用しない
	PPPoEパススルー	使用しない
	PPTPパススルー	使用する
ポート変換	ポート変換登録情報	未設定
DMZ	DMZのアドレス	未設定
UPnP	UPnP機能	使用する
有害サイトブロック	有害サイトブロック	サービス未選択
ディスク管理	USBディスクの自動割当	使用する
	拡張機能	表示しない
	FATフォーマット　ファイル名文字コード	日本語 Shift_JIS (CP932)
	HDD節電機能	使用しない
	ユーザー情報	未登録
共有サービス	共有フォルダー機能	使用する
	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	エアステーション説明	未設定
	ワークグループ名	WORKGROUP
	Windowsクライアント言語	日本語 Shift_JIS (CP932)
Webアクセス	Webアクセス機能	使用しない
	HTTPS/SSL 暗号化	使用しない
	Webアクセス外部ポート	自動的に外部ポート番号を設定する
	DNSサービスホスト名	BuffaloNAS.com登録機能を使用する
メディアサーバー	メディアサーバー機能	使用しない
BitTorrent	BitTorrent機能	使用しない
	BitTorrent外部ポート番号	自動的に外部ポート番号を設定する
	帯域制限設定	使用する

機能	項目	出荷時設定
アドバンスドQoS	アドバンスドQoS機能	使用しない
	おもな用途	ビデオの視聴
	手動設定	ビデオ:　優先度1(高) 会議:　優先度2(高) ゲーム:　優先度3(中) オーディオ:　優先度4(中) ブラウジング:　優先度5(低) ダウンロード:　優先度6(低)
	ユーザー設定	未登録
スケジュール	省電力	使用しない
	ランプ	オフ
	有線LAN	エコ(低速動作)
	無線LAN	オフ
	週間スケジュール	未登録
	動作モード	通常動作
	開始時間	0:00
	終了時間	0:30
	曜日	未登録
プリントサーバー	プリントサーバー	使用する
	プリンター複合機を使用する	使用する
システム設定	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	管理ユーザー名	admin (変更することはできません)
	管理パスワード	password
	無線LANからの設定を禁止する	無効
	有線LANからの設定を禁止する	無効
	Internet側リモートアクセス設定を禁止する	無効
	デバイスのwwwポート監視を禁止する	無効
	NTP機能	使用する
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
	確認時間	24時間毎
	日付	2013年1月1日
	時刻	0時0分0秒
	タイムゾーン	(GMT + 09:00) 東京、大阪、ソウル
ログ	ログ情報転送機能	使用しない
	Syslogサーバー	未設定
	転送するログ情報	アドレス変換、IPフィルター、ファイアウォール、PPPクライアント、ダイナミックDNS、DHCPクライアント、DHCPサーバー、AOSS、無線、認証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、有線リンク、USB、システム
	詳細なログ取得	取得しない
ファームウェア更新	更新方法	ローカルファイル指定
	ファームウェアファイル名	空欄
	ファームウェア更新通知機能	使用する
	確認時間	自動

IPアドレスの固定方法

Windows 8.1/8の場合

1 コントロールパネルを表示します。
（パソコンの場合は、画面左下を右クリックし、［コントロールパネル］を選択します。タブレットでは、画面右端を左にスワイプし［検索］をタップした後、［コントロールパネル］を選択します）

2 ネットワーク接続の画面を表示します。
（ネットワークと共有センターの「アダプター設定の変更」をクリックします）

3 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］または［続行］をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 以下のように設定して、［OK］をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

メモ: 設定を元に戻す場合は、上記で「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

6 ［閉じる］をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 7の場合

1 コントロールパネルを表示します。
（[スタート]－[コントロールパネル]を選択します）

2 ネットワーク接続の画面を表示します。
（ネットワークと共有センターの「アダプター設定の変更」をクリックします）

3 無線接続の場合は「ワイヤレスネットワーク接続」を、LANケーブルで接続の場合は「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

メモ: 設定を元に戻す場合は、上記で「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

6 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows Vistaの場合

1 コントロールパネルを表示します。
（[スタート]－[コントロールパネル]を選択します）

2 ネットワーク接続の画面を表示します。
（ネットワークと共有センターの「ネットワーク接続の管理」をクリックします）

3 無線接続の場合は「ワイヤレスネットワーク接続」を、LANケーブルで接続の場合は「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

メモ: 設定を元に戻す場合は、上記で「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

6 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows XPの場合

1 コントロールパネルを表示します。
（[スタート]－[コントロールパネル]を選択します）

2 ネットワーク接続の画面を表示します。
（ネットワークとインターネット接続の「ネットワーク接続」をクリックします）

3 無線接続の場合は「ワイヤレスネットワーク接続」を、LANケーブルで接続の場合は「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

メモ: 設定を元に戻す場合は、上記で「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

6 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Mac OSの場合

1 システム環境設定を表示します。

2 ネットワークをクリックします。

3 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「Ethernet」を選択します。

4 IPv4の構成で「手入力」を選択します。

5 以下のように設定して、[適用]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- ルーターは空欄

メモ: 設定を元に戻す場合は、IPv4の構成で「DHCPサーバを使用」を選択して、[適用]をクリックしてください。

以上で設定は完了です。

版権・免責事項

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- BUFFALO™は、株式会社メルコホールディングスの商標です。AirStation™は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では、™、®、©などのマークは記載していません。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品は一般的なオフィスや家庭のOA機器としてお使いください。万一、一般OA機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、当社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
  医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。
  一般OA機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。
- 本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、当社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。
- 本製品（付属品等を含む）を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。
- 当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。
- 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。